

2019 年度
東洋大学審査学位論文

オストメイトのトイレ利用実態と
整備のあり方に関する研究

福祉社会デザイン研究科 人間環境デザイン専攻博士後期課程

学籍番号 4740150001 熊澤 宏夫

目次

第一章 序論	1
1-1 研究の背景	3
1-1-1 オストメイトの身体特性.....	3
1-1-2 増加を続けるオストメイト人口.....	5
1-1-3. オストメイト配慮の現行整備基準の課題.....	7
1-2 既往研究	12
1-2-1 兵庫県のオストメイトを対象としたトイレ使用実態調査（2005年）	13
1-2-2 主に東京都と千葉県のアストメイトを対象とした実態調査（2014年）	15
1-2-3 医学系分野の調査研究の経緯.....	16
1-3 研究の目的	18
1-4 研究の方法	19
1-5 論文構成	20
1-6 用語の定義	22
1-6-1 便房と設備.....	22
1-6-2 オストメイト関連用語.....	23
1-6-3 オストメイト用設備関連用語.....	24
第二章 オストメイト対応トイレ普及の現状と課題	25
2-1 オストメイト対応トイレの変遷.....	25
2-1-1 オストメイト対応トイレの始まり.....	25
2-1-2 交通バリアフリー法施行.....	26
2-1-3 パウチしびん洗浄水栓の誕生.....	26
2-1-4 汚物流し設備の登場.....	26
2-1-5 汚物流し設備の基本機能に関する要望.....	26
2-1-6 ハートビル法の改正.....	27
2-1-7 バリアフリー法の施行.....	27
2-1-8 バリアフリー法 建築設計標準の改訂（2012年）	28
2-1-9 バリアフリー法 建築設計標準の改正（2017年）	29
2-2 便房内に持ち込まれる多種多様な小物類.....	30
2-2-1 ストーマ装具.....	30
2-2-2 ケア用品.....	31
2-3 公共施設に混在する多様な設備.....	35

2-3-1	既存の公共トイレに混在するオストメイト用設備.....	35
2-3-2	設備の機能の変遷と課題.....	35
2-3-3	様々な建物用途のトイレに設置されているオストメイト対応トイレ.....	39
2-4	考察.....	42
2-4-1	オストメイト対応トイレの基準は当事者の要求仕様を満たしていた.....	42
2-4-2	便房内に持ち込まれる小物類.....	42
2-4-3	既存のオストメイト対応トイレの課題.....	42

第三章 属性と優先整備すべき建物用途..... 44

3-1	アンケート回収結果.....	44
3-1-1	アンケート調査の属性別内訳.....	44
3-2	外出の頻度と目的.....	47
3-2-1	外出頻度.....	47
3-2-2	安心して外出した時期.....	47
3-2-3	外出目的.....	49
3-3	トイレ使用頻度と使用時間.....	50
3-3-1	トイレ使用頻度.....	50
3-3-2	トイレ使用時間.....	52
3-4	トイレを必要としている施設（建物用途）.....	54
3-4-1	トイレを必要としている施設の全体像.....	54
3-4-2	年代で異なる施設用途別回答率.....	55
3-4-3	必要施設に関する独立性の検定.....	56
3-4-4	ヒヤリング調査.....	57
3-4-5	トイレが必要な施設に関するコメント.....	58
3-5	トイレが必要な施設等に関する事例.....	59
3-5-1	面談者(N13)の日常とトイレ利用施設.....	59
3-5-2	便房使用状況（ヒヤリング時のコメント要旨）.....	59
3-5-3	一般便房内での行為手順.....	60
3-5-4	オストメイト用設備について.....	60
3-6	考察.....	61
3-6-1	トイレ利用の実態と特に配慮が必要な属性.....	61
3-6-2	優先整備すべき建物用途.....	61

第四章 属性別の便房ニーズ	62
4-1 便房種別の利用者属性別使用比率内訳.....	62
4-1-1 日常使用する便房の属性別比率.....	62
4-1-2 日常使用する便房の属性別比率の違いに関する独立性の検定.....	63
4-1-3 日常使用する便房を使う理由.....	63
4-2 外出時のトラブル対処.....	65
4-2-1 トラブル処理した場所.....	65
4-2-2 トラブル処理の内容.....	66
4-2-3 トラブル事例に関するコメント.....	67
4-2-4 トラブル処理した場所に関するコメント.....	68
4-3 相反するマーク認知度とトイレ利用意識.....	69
4-3-1 オストメイトマーク認知率とトイレ利用意識.....	69
4-3-2 クレームに関するコメント.....	70
4-3-3 気が引けることに関するコメント.....	71
4-4 オストメイト対応トイレへの潜在的なニーズ.....	72
4-4-1 オストメイト対応トイレへの意識とニーズ.....	72
4-4-2 日常使用する便房の使用理由.....	74
4-5 便房使い分けでトラブルに備える事例(面談者 N14)	75
4-5-1 面談者(N14)の日常とトイレ利用施設.....	75
4-5-2 便房使用状況.....	75
4-5-3 一般便房内での行為手順.....	76
4-5-4 オストメイト用設備機能のニーズ.....	76
4-6 考察	77
4-6-1 トイレ使用実態とオストメイト対応トイレへの潜在ニーズから明らかになったこと	77
第五章 便房内行為の実態と整備課題	78
5-1 オストメイト対応トイレ内での行為.....	78
5-1-1 オストメイト用設備で排泄する人の行為.....	78
5-1-2 行為の手順.....	78
5-1-3 行為に関するコメント.....	80
5-2 一般便房内での行為.....	82
5-2-1 行為の手順.....	82
5-2-2 行為に関するコメント.....	83

5-3	自宅での排泄.....	86
5-3-1	コロストミーの方の場合.....	86
5-3-2	自宅で洗腸する人について.....	87
5-3-3	イレオストミーの方の場合.....	88
5-4	ケア用品.....	89
5-4-1	ケア用品に関する集計結果.....	89
5-4-2	外出先に持参するケア用品の事例.....	90
5-5	便房内行為の事例(面談者 N18).....	94
5-5-1	面談者(N18)の日常とトイレ利用施設.....	94
5-5-2	便房使用状況.....	94
5-5-3	一般便房内での行為手順.....	95
5-5-4	オストメイト用設備について.....	95
5-6	考察.....	96
5-6-1	便房内行為について明らかになったこと.....	96
5-6-2	ヒヤリング面談者が持参していた小物類.....	97
 第六章 設備機能の課題と改善の方向性		100
6-1	設備商品とその機能.....	100
6-1-1	オストメイト用設備.....	100
6-1-2	簡易型水栓設備.....	101
6-1-3	必要設備機能.....	102
6-2	設備の困り事.....	103
6-2-1	オストメイト用設備で困っている機能.....	103
6-2-2	オストメイト用設備に関するコメント.....	111
6-2-3	一般便房の設備に関するコメント.....	117
6-3	経験豊富なオストメイトの事例(面談者 N01).....	119
6-3-1	オストメイト対応トイレ使用状況.....	119
6-3-2	トイレが必要な施設と腹部をシャワーで洗う方法について.....	119
6-3-3	オストメイト対応トイレの機能分散について.....	121
6-4	考察.....	123
6-4-1	必要設備に関する考察.....	123
6-4-2	オストメイト対応トイレの設備に関するまとめ.....	124
6-4-3	一般便房内設備に関するまとめ.....	130

第七章 結論と今後の課題	132
7-1 結論	132
7-1-1 既存のトイレの整備状況.....	132
7-1-2 トイレ利用に関する属性間の違い.....	132
7-1-3 優先的に検討すべき施設（建物用途）	133
7-1-4 属性別の便房ニーズ.....	133
7-1-5 便房内行為の実態と整備課題.....	134
7-1-6 設備機能の課題と改善の方向性(オストメイト用設備)	135
7-1-7 設備機能の課題と改善の方向性(一般便房設備)	136
7-2 今後の課題	137
7-2-1 高齢者配慮のオストメイト用設備.....	137
7-2-2 オストメイト用設備の普及.....	137
注釈	139
引用参考文献	140
発表論文	141
査読論文	141
口頭発表	141
謝辞	163

第一章 序論

公共トイレの環境整備については、現在、多種多様なユーザーへの配慮が提案されている。もともとは1964年の東京オリンピック・パラリンピックを契機として、一般の健常者が使うトイレに加えて、車いす使用者用便房が提案されはじめたのが1970年代であった。しかしその後、対象は徐々に拡大し、高齢者、障害者に配慮した車いす使用者に加え、本研究のテーマであるオストメイト、乳幼児の子ども連れの方、さらには認知症高齢者、発達障害の方、最近ではLGBTQの方もその対象となっている。表1は、現時点でトイレ環境整備の配慮対象となるユーザーの分類と、既存の整備方策についてまとめたものである。これだけ多様なユーザーに対応したトイレが混在すると、ユーザー自身も使う時に混乱することも懸念される。本研究では、まずはオストメイトのトイレ利用についてより多くの方にその実態を知っていただくこと、ユーザーの視点で最適な環境が整備されることを念頭に研究を進めた。

オストメイトとは、病気や事故などで消化管や尿管が損なわれたため、腹部に排泄のための開口部（ストーマ）を造設した人のことである。オストメイトは、排泄物を溜めるストーマ装具を腹部に装着しており、ストーマの種類によって腹部への造設位置は異なるが、外出先で排泄するためには、大便器とは別にお腹から直接排泄できる設備が必要である。オストメイトの人口は徐々に増加し、特に最近では、クローン病等、若い世代、就労世代に発症する病気の患者が増え、今後もさらに増加することが予測される。

2020年のオリンピック・パラリンピック、その後も続く超高齢社会に向け、バリアフリーのインフラ整備は喫緊の課題である。2006年に「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（以下「バリアフリー法」）が施行され、同法を解説する「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」（以下、建築設計標準）では、オストメイトが外出先で使用するトイレに関し、多機能便房、専用便房（オストメイト用設備を有する便房）のように汚物流し設備のある便房（以下、オストメイト対応トイレ）を、設置することが規定され、オストメイト用設備も多機能便房内を中心に整備が進展した。さらに2017年に建築設計標準が改正され、オストメイト対応トイレ（第6節 用語の定義で記載）の充実が求められている。

しかし、最近のトイレ環境整備に関連した研究では、医学系の分野ではオストメイトの身体的な配慮から外出先のトイレ整備状況調査等、建築計画の分野ではLGBTなど配慮対象を拡げた研究が進展しているが、オストメイト当事者の視点で環境整備について論じた文献、研究は少ない。また、オストメイトの身体的特性や外出時の活動とその時のオストメイトならではの困り事などは、環境整備を検討する際に考慮されるべき項目であるが、詳しいデータは見つからない。

本研究は、オストメイトのための環境整備に必要な基本的情報を整理し、今後の環境整備

方策検討時の基盤データとなることを目指し、まとめたものである。

表1 配慮が必要とされている公共トイレ使用者とその環境整備方策

日本の人口内訳	人口推計	人口推計の根拠	対応便房	対応設備	環境整備方策	理由	参考文献
性別							
男性	6068万人	総務省統計局 人口統計(平成29年10月1日現在)全国:年齢、男女別人口より	-	-	-	-	-
女性	6397万人	同上	-	-	-	-	-
性的少数者(LGBTQ)							
トランスジェンダー	不明(約60万人?)	オランダの人口比率(1/200)の場合	男女共用便房	ユニセック クストイ レサイン	性別の区別なく使えるトイレ整備	性別に関係なく使える共用トイレの配置が必要とされている	-
年齢別							
幼児(3歳~6歳)	288万人	総務省統計局 人口統計(平成29年10月1日現在)全国:年齢、男女別人口より	男女別/男女共用便房	キッズトイレ	幼児の体格にあった設備の配置	幼児がひとりでも使えるトイレを整備する	国土交通省:高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準、平成29年3月
乳幼児(0歳~2歳)	296万人	同上	男女別/男女共用便房	ベビーチェア ベビシート 着替台	乳幼児、保護者が便房内で排泄	子供連れで便房個室が利用できるような配慮する	国土交通省:高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準、平成29年3月
65歳以上	1758万人	同上	-	-	-	-	-
75歳以上	1743万人	同上	-	-	-	-	-
要介護高齢者	632万人	厚生労働省 平成28年度介護保険事業状況報告(年報)より	- (住宅、高齢者施設等)	福祉用具	福祉用具購入/貸与(車いす等)	-	-
認知症高齢者	約462万人	厚生労働省 平成29年版高齢社会白書(概要版)より(認知症高齢者人口は2012年当時)	男女共用便房	操作系設備	男女共用便房、分かりやすいボタン	異性介助(見守り等)への配慮	野口祐子、西村顕、高橋儀平:公共トイレハンドブック 認知症編、2018年11月
車いす使用者							
高齢者	約40万人	長尾由美子:車いす使用者の公共施設利用程度を把握するためのアンケート調査、日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道)2004年8月	車いす使用者用便房	車いす使用者用便房設備	手すり、車いす転回スペース、介助スペース	車いすと便器間の移乗、便座のたし座り、排泄介助、見守り等	国土交通省:高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準、平成29年3月
障害者	約36万人	同上	車いす使用者用便房	車いす使用者用便房設備	手すり、車いす転回スペース、介助スペース	車いすと便器間の移乗、便座のたし座り、排泄介助、見守り等	国土交通省:高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準、平成29年3月
障害者							
身体障害者 約436万人(平成30年版 障害者白書より)							
肢体不自由							
リウマチ	約34万人	厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課:リウマチ対策の現状について(平成30年3月26日)	一般便房	手すり、便座高さ、レバー水栓	手すり、便器高さ、水栓ハンドル	関節の痛みへの配慮	国土交通省:高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準、平成29年3月
視覚障害	約31万人	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部:平成28年生活のしづらさなどに関する調査結果(身体障害者手帳所持者数、年齢階級別)	一般便房、多機能便房等	点字、ボタンの形状等	便房内操作部・器具の形状・色及び配置(JISS0026)	視覚に代わる触覚、聴覚等を活用する配慮	国土交通省:高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準、平成29年3月
聴覚・言語障害	約34万人	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部:平成28年生活のしづらさなどに関する調査結果(身体障害者手帳所持者数、年齢階級別)	便所全般	非常警報装置	光警報装置の設置	便房内でも聴覚障害者に非常警報がわかるよう、フラッシュライト等の光警報装置を設けることが望ましい。	国土交通省:高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準、平成29年3月
内部障害							
オストメイト	約21万人	身体障害者手帳所持者数年齢階級別(平成28年度)	対応トイレ	オストメイト用設備	専用設備	大便器とは別に、腹部からの排泄に対応する設備が必要	国土交通省:高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準、平成29年3月
知的障害	約108万人	平成30年版 障害者白書より	-	-	-	-	-
精神障害	約392万人	平成30年版 障害者白書より	-	-	-	-	-
発達障害	約20万人	総務省行政評価局:発達障害者支援に関する行政評価・監視結果報告書(平成29年1月)P12	一般便房	サイン、操作系設備	便所の男女別配置の統一が望ましいと規定 JIS S0026 による	パターン化した行動をとる人、パニックになる人もいる。トイレによって形式の異なるボタンや使い方が複雑なボタンは使いづらい。	国土交通省:知的障害、発達障害、精神障害のある人のための施設整備のポイント集(平成21年)

1-1 研究の背景

第1節では、オストメイト配慮の環境整備を検討するための基本情報として、オストメイトの身体特性やオストメイト人口増加の内容をまとめた他、環境整備の基準となる建築設計標準についての現状の課題についても整理した。

1-1-1 オストメイトの身体特性

オストメイトは人工肛門保有者・人工膀胱保有者ともいわれ、そのストーマの種別から、コロストミー(人工肛門(結腸)保有者)、イレオストミー(人工肛門(回腸)保有者)、ウロストミー(人工膀胱保有者)、Wストーマ(人工肛門+人工膀胱保有者)と俗称される。

本項では日本オストミー協会^{注1}のホームページ、刊行物等を参考とし、オストメイトの身体的特性や外出時の排泄に関連する事項をまとめた。

(1) コロストミー

図1 a)は、コロストミーの方が人工肛門にストーマ装具(パウチ)を装着した位置を表している。横行結腸のストーマの場合(おへその上)と、下行結腸の場合(腹部の左)である。コロストミーの場合、大腸の一部を摘出していることから、便の状態は健常者とかわらない場合が多く、外出先でのトイレ利用に関連して、以下のような身体特性がある。

手術後しばらくはガスがよく出ることが気になる。その後は、便の臭いが特に気になる人が多く、臭いが出る食べ物を控えたり、消臭剤を使うことで臭いを減らす工夫をしている。また、体調が悪くて便秘や下痢の時は、排泄のリズムが狂い、頻繁にトイレに行かなければならなくなる場合もある。

(2) イレオストミー

図1 b)は、イレオストミーの方が人工肛門にストーマ装具(パウチ)を装着した位置を表している。イレオストミーは回腸(小腸)に造られたストーマで、一般的にお腹の右側に造設される。

イレオストミーから排泄される便は、水分やミネラル吸収をする大腸を経由しないので水様から泥状で、1日5~8回はトイレでパウチから便を出すとされている。

イレオストミーの方が装具交換をする時間帯は、食事前や食後2時間以上過ぎてからが良いとされている。また、イレオストミーから出る便が皮膚に触れると、皮膚は容易にただれるため、定期的に装具交換し、漏れや皮膚トラブルを防がなければならない。

(3) ウロストミー

図1 c)は、ウロストミーの方が人工膀胱にストーマ装具（パウチ）を装着した位置を表している。膀胱を摘出したあと、腎臓で造られた尿を体外に出すために造られるのがウロストミー（人工膀胱）であり、造設方法としては回腸導管、尿管皮膚瘻等がある。

回腸導管は回腸の一部を、尿を通す導管として使った手術で、一般的にお腹の右側に造られる。導管となった回腸からは粘液も出るので、ストーマ装具に溜まった尿には粘液が混じっている。尿管皮膚瘻は、腎臓と膀胱をつなぐ尿管を、腎臓から直接皮膚に縫い付ける手術で、左右両側のストーマの場合と、片側の場合がある。尿管皮膚瘻の場合、左右両側に尿管が縫いつけられる場合と、2つの尿管を集めて片側に造られる場合とがある。

装具を交換する時間帯は、起床後すぐや、飲食後2時間以上経過し、排尿が少ない時を選ぶ。交換中は尿が滴るので、ロールガーゼ(ガーゼを筒状に巻いたもの)を準備してストーマに当て、尿を吸いとりながらスキンケアや装具装着をする。排泄の頻度は2～4時間おきくらいとされており、飲水量が多ければもう少し短くなる。

(4) Wストーマ(Double Stoma)

ダブルストーマは、人工肛門と人工膀胱を併設している状態で、図1 d)のように、2ヶ所から3ヶ所^{註2}にストーマ装具が装着されている。外出先の排泄では、トイレ内で、便も尿も全て排泄する場合もあれば、尿だけの場合もある。身体状況、排泄の方法は、消化管系（コロストミー、イレオストミー）と尿路系（ウロストミー）のストーマ保有者両方の特徴を合わせもっている。

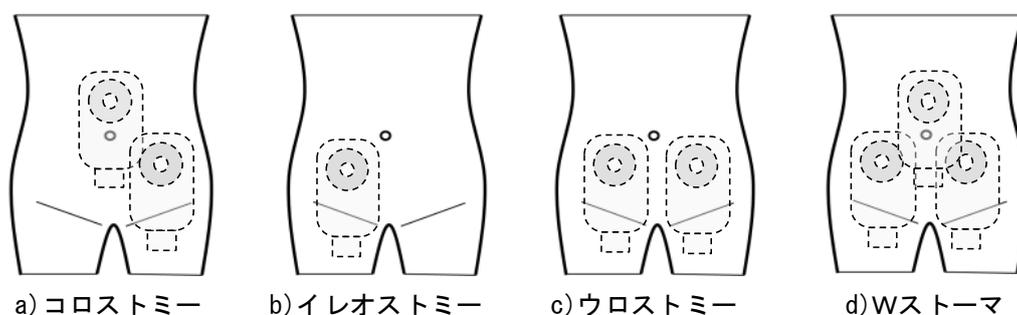


図1 ストーマ種類の造設位置の例

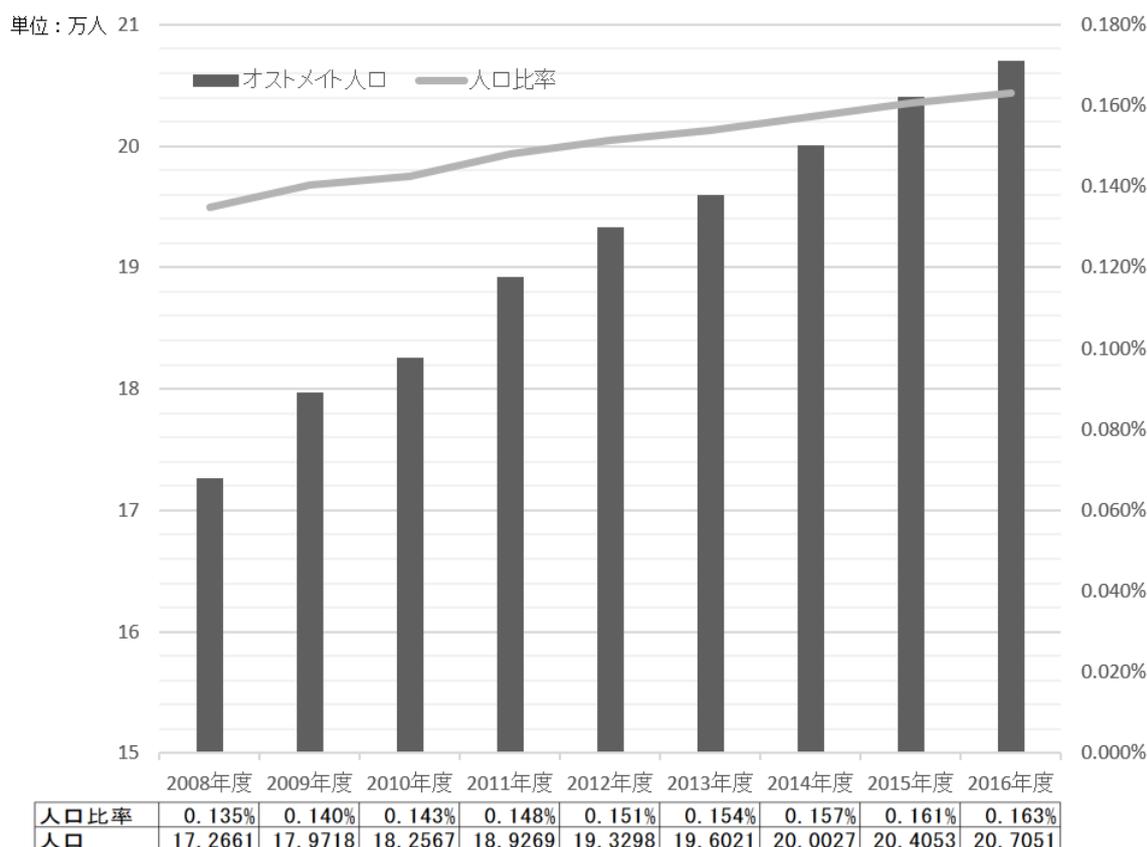
1-1-2 増加を続けるオストメイト人口

オストメイトの人口は年々増え続けており、また、今後も増えることが予測される。本項では、その根拠となるデータをまとめた。

(1) オストメイトの人口と人口比率

「統計で見る日本（政府統計ポータルサイト）」の「福祉行政報告例 平成28年度福祉行政報告例 身体障害者福祉 身体障害者手帳交付台帳登載数、障害の種類、年齢（2区分）×障害の程度、登載状況別」によると、「内部障害 ぼうこう・直腸機能障害」の総数は205196人である。また、日本オストミー協会 横浜市支部のサイトには、下図のように、2008年から2016年までのオストミー人口、人口比率が記載されている。この他に、交通事故等で一時的にストーマを造設している人もいるが、オストメイトの人口は概ね20万人であり、年々増加している。

また、この人口は、日本の総人口の中で、0.16%程度であり、1000人の日本人がいれば、その内1人か2人はオストメイトが存在していることになる。



出典：日本オストミー協会 横浜市支部サイト(オストミー人口 新規 総数、人口比率)より

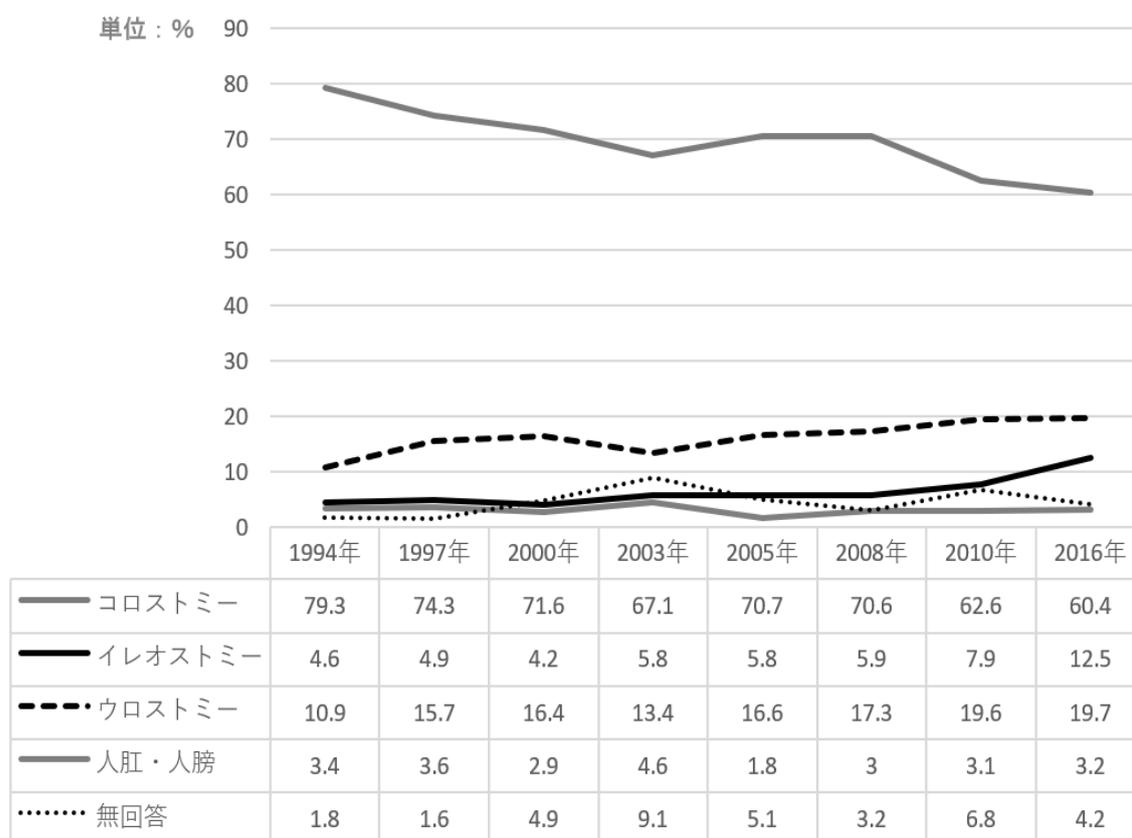
図2 オストメイトの人口と人口比率の推移

(2) イレオストミーの構成比率（人口）が急増

日本オストミー協会が不定期で行っている、オストメイトの生活実態に関する調査（オストメイト生活実態基本調査報告書）では、回収した調査対象者のストーマ種別の構成比率を毎回集計している。その構成比の推移を、下図にまとめた。

グラフの一番上の折れ線はコロストミーの方の推移。以下ウロストミー、イレオストミーの順の比率となっている。1994年から2016年のスパンで見ると、コロストミーの方は徐々に比率が減り、逆にウロストミー、イレオストミーの方が増えている。特にイレオストミーの方の最近の構成比率の上昇は高い。2008年頃までは、4%から7%の比率であったが、2016年には12%を超えている。

イレオストミーの方の原因疾病には、潰瘍性大腸炎や、若い人に多いクローン病がある。難病情報センターのサイトでは、クローン病患者は年々増加していることが示されている。欧米では日本の20倍の人口比率でクローン病患者がいる。推察ではあるが、食の欧米化により、今後も若いイレオストミーの方の人口比率は拡大することが推察される。



出典：日本オストミー協会 第5～8回オストメイト生活実態基本調査報告書より
 (回収数 第5回(2005年):569, 第6回(2008年):658, 第7回(2010年):572, 第8回(2016年):601)

図3 オストメイト生活実態調査のストーマ種別の比率の推移

1-1-3. オストメイト配慮の現行整備基準の課題

(1) 建築設計標準に示された多機能便房への利用集中課題と解決の方策

建築設計標準（平成 28 年度改正版）では、下図のような便房のタイプが提示されている。この内、オストメイトに対応する便房としては、「オストメイト用設備を有する便房」、「多機能便房（オストメイト用設備も設置された便房）」、「オストメイト用簡易型便房」がある。

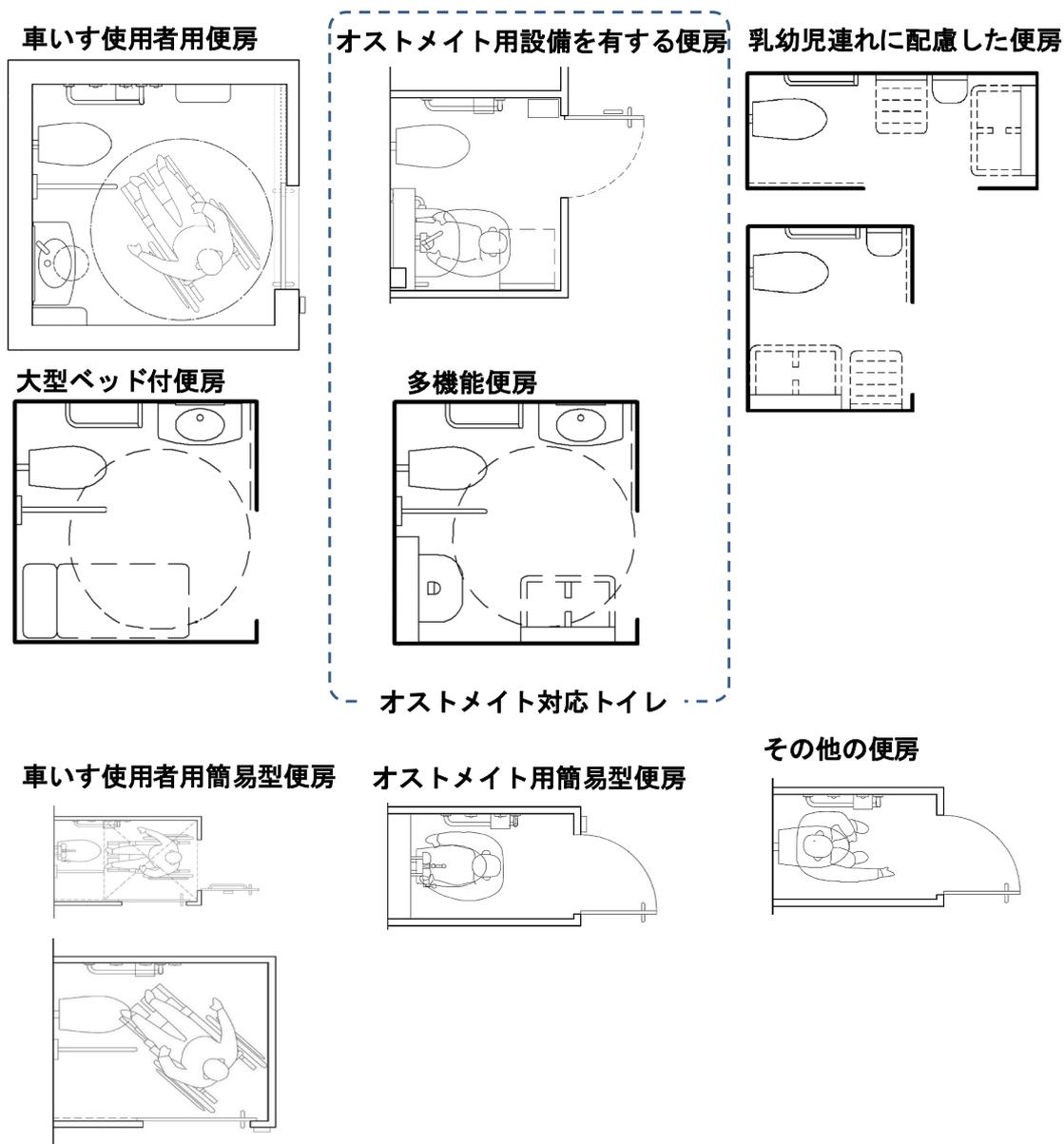


図 4 建築設計標準に記載された便房プラン

建築設計標準（平成 28 年度改正版）では、近年、多機能便房利用者が集中し、便房内に広い空間を必要とする車いす使用者が円滑に利用することが困難になったため、下図のように多機能便房に配置されたオストメイト用設備を、便所内の別の場所に配置することを勧めている。

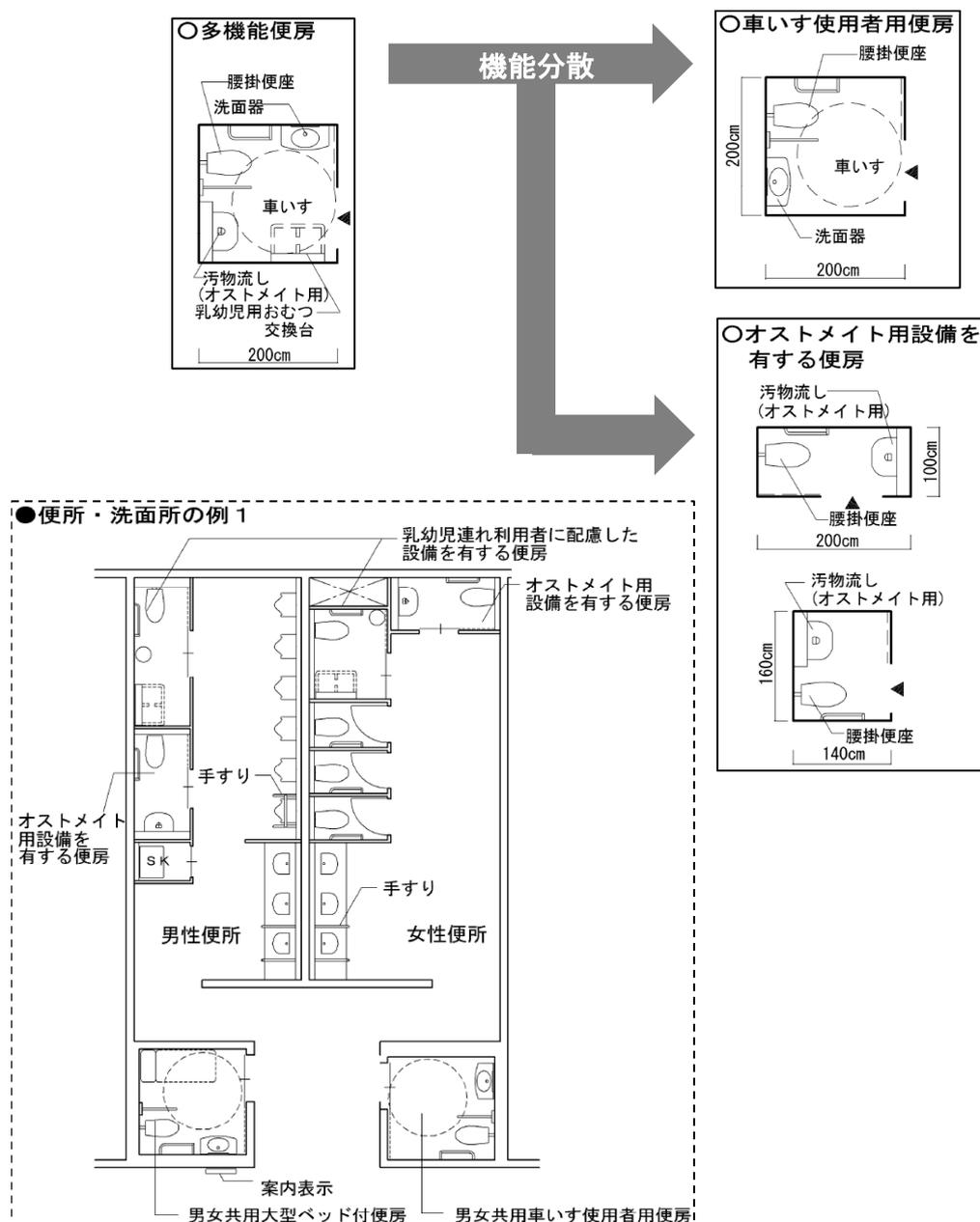


図 5 建築設計標準に示された機能分散の考え方

(2) オストメイト用設備の表現の課題

下図は、2006年にバリアフリー法が制定された時に発行された建築設計標準の、オストメイト用設備に関する図である。基本的な機能は現在も同じではあるが、10年以上も経過しており、設備商品も進化し、見た目でも変更されたところもあるが、最新(2017年3月)の建築設計標準でも同じイラストが記載されている。

オストメイト用設備の基本機能に関する知見を整理し、現状の設備に沿った標準仕様を早急にまとめ、提言することが必要である。

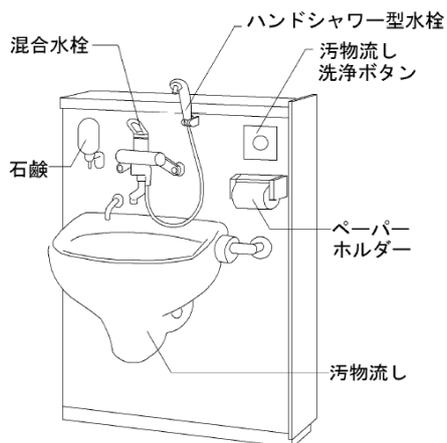


図6 建築設計標準に掲載されているオストメイト用設備イラスト

(3) オストメイト対応トイレに関する国際比較

世界的にみると、車いす使用者用トイレは米国の規格(ANSI A117.1 1961)で最初に記載されていたが、オストメイト対応トイレについて、特に設備についての規定や解説は見当たらない。次の表にあるとおり、英国とインドで車いす使用者用便房の中の大便器のタンク側に“Colostomy changing shelf”という記載があり、立って排泄処理するオストメイト用の棚を設置することが規定されているほか、国際標準(ISO21542)やスウェーデンの法律の解説書にも、一部オストメイトに配慮することを記載したものがあつたが、日本のものほど詳しい解説や専用の設備についてふれた法規はないものとする。

オストメイト対応トイレは、日本で独自に発生、進化したものである。

表2 世界のバリアフリー関連法規とオストメイトに関する記載状況

国名	分類	文献名称	オストメイト対応
英国	法律	Building Regulations 2010 Technical Guidance Document M The Building Regulations 2010—Access to and use of buildings— Approved Document M 2015 edition incorporating 2016 amendments for use in England	オストメイト用の棚（立って使用）の記載がある。 Colostomy changing shelf
	規格	BRITISH STANDARD BS 8300:2009+A 1 :2010	以下の記載がある。 Colostomy changing shelf at 950 mm above floor level, where a high or low level cistern is used
インド	法律	HARMONISED GUIDELINES AND SPACE STANDARDS FOR BARRIER FREE BUILT ENVIRONMENT FOR PERSONS WITH DISABILITY AND ELDERLY PERSONS FEBRUARY, 2016 Government of India MINISTRY OF URBAN DEVELOPMENT	英国と同じ図であるが、立ってする人のための棚となっている（オストメイトの記載なし） Zone for shelf for standing users
スウェーデン	法律	GUIDELINES FOR ACCESSIBILITY BREAK THE BARRIERS According to the Disability Policy (Responsibility of National Authorities for Implementation) Ordinance (2003).	オストメイトへの配慮の文言はあつたが、具体的な配慮設備の記載はない。 Toilets with screen walls (for example with an opening between floor and wall) do not function well for instance for people who have had a colostomy. Where there are such toilets it is therefore necessary to have an additional toilet that is enclosed.
国際標準 (ISO)	規格	ISO21542 Building construction – Accessibility and usability of the built environment	以下の記載はあるが、具体的な配慮項目はない。 Users with colostomy should also be considered.

※) 上表は2019年6月時点で、世界各国の法規を調査した結果による

下図は、英国の法律と規格で記載されている車いす使用者用便房内に設置された、オストメイト対応の棚のレイアウトである。この棚には図のような寸法、高さが示されていた。

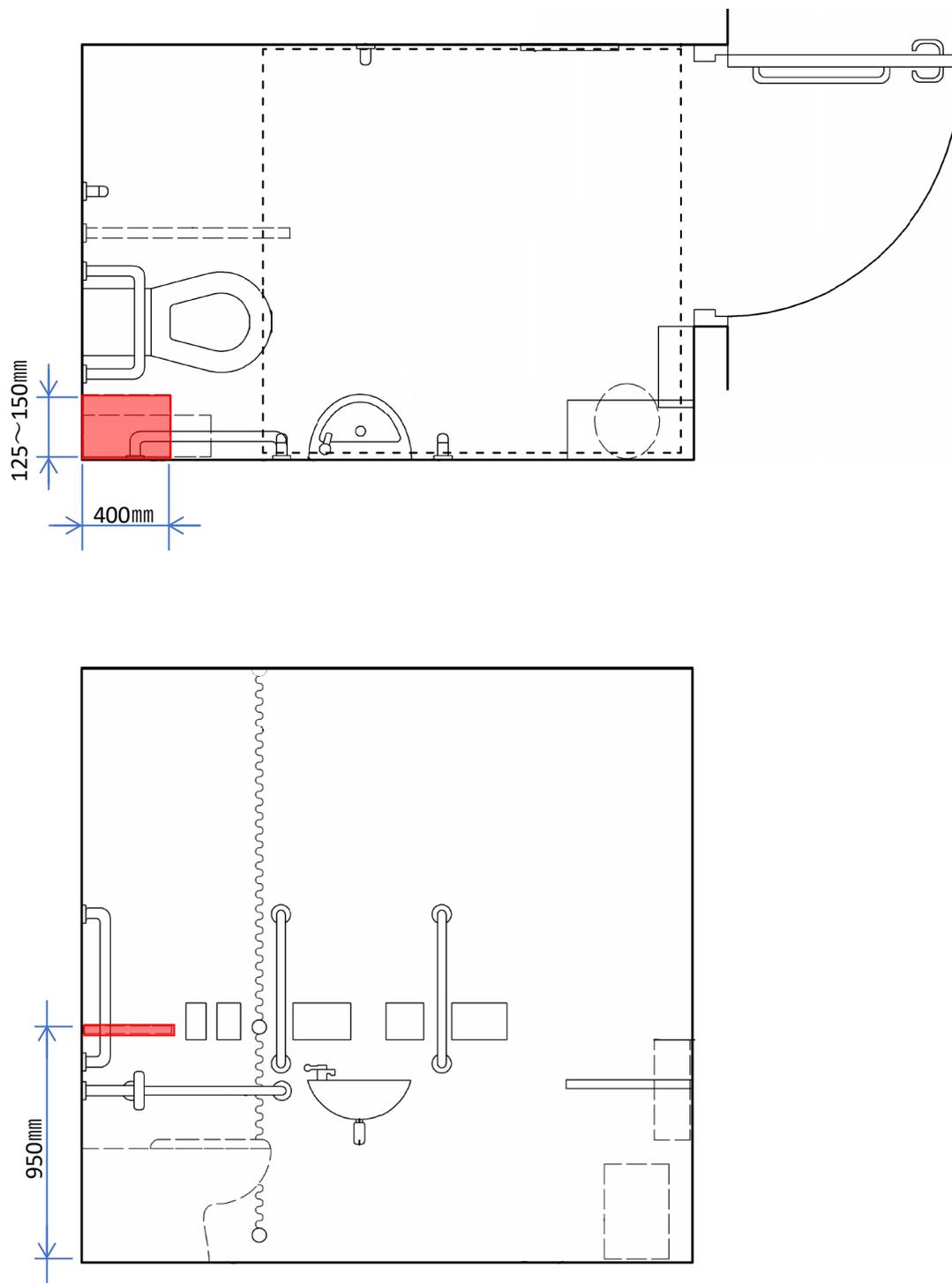


図7 英国の車いす使用者用便房(2010年)

1-2 既往研究

既往研究では、多機能便房を機能分散するにあたり、一般便房にも最低限の配慮が必要であることが提唱されたが、その後の研究では、多機能便房そのものも数がたりないことも指摘された。また、医学系の研究では、20年以上前から、オストメイトの手術後の就労について研究したのもあったが、外出先で使用するトイレに関して、そのケアを指導する内容についてほとんど言及がなく、近年になって地方都市の一部病院でトイレ整備状況の調査報告が出ているが、設備の不備（温水がない等）を指摘するに止まっており、実際にどのように使用したら良いかの言及は見当たらない。

オストメイトの外出先でのトイレ使用のためには、多機能便房や専用便房、一般便房等、現存するトイレの使い分けを具体的に言及するとともに、設備の正しい使い方を周知しなければ、本当の意味でオストメイト配慮のトイレ設備が普及したとは言えない。

1-2-1 兵庫県のオストメイトを対象としたトイレ使用実態調査（2005年）

田中ら¹⁾（2005年）の兵庫県のオストメイトを対象とした研究では、障害者対応トイレが多機能トイレへと変化して利用対象者が広がる中で、オストメイトの生理特性や排泄行為、公共トイレ利用実態等の調査知見から、オストメイト対応設備を多機能トイレの設備に加えるとともに、一般便房での最低限の設備環境を整えることで、機能分担・整備を図ることを提言している。

調査は、日本オストミー協会兵庫センターの会員523名を対象に2004年5月～6月に郵送にて実施し、173名からの回答を得たもので、回収率は33.1%であった。以下、田中らの研究で参考となる箇所を下記する。

（1）先行する研究について

田中らの研究によると、「障害者の生理特性および排泄方法まで掘り下げて扱った研究論文、また対象者としてオストメイトの公共トイレ利用を扱った研究論文は、この数年（2005年当時）オストメイトを考慮したトイレ整備がされはじめたという社会背景もあり、確認できなかった。」とされているが、現在でもオストメイトについて、さらに進んだ研究は見当たらない。

（2）オストメイトの整理特性について

オストメイトの生理特性については、大腸を摘出して人工肛門となったコロストミーの場合、摘出の部位によって排泄状態（個体、軟便、液状便）が異なるが、ストーマ装具（パウチ）の種類や食事制限に関係性は認められなかった。また、オストメイトの排泄方法については、自然排便と洗腸排便があること。自然排便が多数（70%程度）を占めていることは、本稿と同じである。

（3）外出時のトラブルについて

オストメイトが外出する際、それを躊躇させる要因の1つに、パウチからの排泄物の漏れ等といった「失敗」があり、8割の人がなんらかの失敗経験をもっていることがわかった。失敗の原因としてオストメイト対応トイレが少ないことと関係しているかについて確認した結果、失敗の原因として対応トイレの少なさが関係していると回答した人は16%であった。現在、トイレ数が不足しているというのは、オストメイト対応トイレが普及し、認知されたが故に、かえって少なさを実感する人が増えた結果とも考えられる。

（4）多機能便房の利用について

トイレの種類別の利用では、一般様式トイレを5割以上の人利用していた。多目的トイレ利用は、一般便房が全て使用中の時、一般便房が全て使用中で並んでいる人が多い時に使

う人が併せて8割以上となっている。また、多目的トイレを使用しない人の理由は、一般便房で事足りたり、車いす使用者に気兼ねすることのためであった。多目的トイレ（オストメイト対応トイレ）は、混雑時のやむを得ない選択肢としてしか使うわれていなかった。しかし現在、日常的に多目的トイレを好んで使う人がいないのか、気になる。

（５）オストメイト対応トイレの利用意識について

2005年当時、多目的トイレは「車いす使用者専用」との認識を持つオストメイトも存在したが、多様な人が使う多機能便房の普及が進んだ現在、オストメイトの意識は変わってきていることも推測できる。

（６）日常利用施設

利用トイレの場所（施設用途）では、兵庫県（2004年）の結果としてデパート、ホテル、病院、駅があげられているが、日常使用の大規模施設と、必要としている場所の施設では異なることも考えられる。

（７）設備について

多目的トイレで利用する設備として、足踏み式水洗ボタン、手洗器、鏡、汚物流し台、更衣台の順に回答者が多いとされている。オストメイトは、多目的トイレを利用しても、必ずしも汚物流しを使うわけではないことが指摘された。

また、設備へのコメントとして、棚・衣類フックの設置やきめ細かな洗浄設備への要求が自由記入回答されているが、棚やフックがどのようなトイレ内行為で必要なのか、形状寸法など、具体的なところまでは言及されておらず、今後の課題となる

一般便房に求める設備については、特に自身の障害に対する専門設備ではなく、大きく掛けやすい鍵等の、だれに対しても利用しやすくなる設備であった。

（８）まとめとして

まとめとして、「今後のオストメイトのトイレ環境として、多目的トイレでの排泄、洗浄、失敗時の手当て等が可能な設備環境に加え、一般便房での排泄、洗浄ができる最低限の設備環境を整えることで、機能分担を図ると共に、これらの機能内容をトイレ利用者に適切に伝えることが必要である。」とされている。

多機能便房において、「排泄、洗浄、失敗時の手当て等が可能な設備環境」を整理すること。「一般便房での排泄、洗浄ができる最低限の設備環境を整えること」は現在でも重要な検討課題であり、さらに詳しい探求が必要である。

1-2-2 主に東京都と千葉県のおストメイトを対象とした実態調査（2014年）

沼尻ら²⁾の研究では、多機能トイレの普及に伴い、利用者の多機能トイレへの利用集中度合と、一般トイレの利用実態やニーズ把握が行われた。結果おストメイトが利用できる個別便房を一般トイレ内に整備する等、多機能トイレへの利用集中を緩和させるために、トイレ全体でユニバーサルデザイン化を図ることの必要性を論じている。いずれもおストメイト用設備の配置問題にどちらかといえば論点があり、おストメイトが日常、どのようなトイレを使い、その中でどんな行為をし、どんな設備で困っているか。また、トイレはどのような施設に必要ななど、今後整備をする上での基本的な設備、機器利用の問題点には触れられていないが、車いす使用者や子ども連れ等、他の多機能トイレ利用者と対比して、おストメイト利用者の置かれた状況がわかる。

調査方法は、車いす使用者は、障害関係団体等の協力を得て、電子メールを媒体としてアンケートを行い、回答数が105件。おストメイトは、おストミー協会の協力で郵送アンケートを行い、回収数が243件。子ども連れに対しては、日本福祉のまちづくり学会等のメーリングリスト、子育て広場5箇所での調査で回答を得た640件。となっている。

以下、沼尻らの研究で参考となる箇所を下記する。

（1）外出時に最もよく利用するトイレの種類

通常時に最もよく使うトイレとして多機能トイレをあげた人の比率は、車いす使用者が86%、おストメイトが32%、子ども連れは38%であったが、トラブル時には、おストメイトが52%、子ども連れが47%となる。逆に、通常時に一般便房を使用するおストメイトは65%にもなっている。

逆に車いす使用者はトラブル時にも多機能トイレしか使う場所がない。

（2）トイレの所要時間（通常時）

通常時、便房内で処理する時間が10分以下であるのは、車いす使用者が74%、おストメイトが83%、子ども連れが94%である。一方、トラブル時になると、車いす使用者が23%、おストメイトが32%、子ども連れが64%となる。

おストメイトは通常時（パウチの中身を捨てるのみ）だと時間はかからないが、車いす使用者と同様に、トラブル時には10分以下で済ませることができる人は少なく、かなり時間がかかることがわかる。

（3）多機能トイレ設置数

多機能トイレの設置数について、足りていると答えた車いす使用者は18%、おストメイトは21%であるが、子ども連れは45%となっている。

車いす使用者とおストメイトには、特に多機能トイレの数が不足していると感じる人が多いことがわかる。

1-2-3 医学系分野の調査研究の経緯

オストメイトに関連する医学系分野の学会の文献テーマには、手術後のリハビリ、職業復帰、QOL等についての論文が多数見られたが、2000年代になり、外出時の排泄やトイレに関する文献も散見されるようになった。以下に、その経緯を年代順にまとめた。

(1) オストメイトに関する医学的研究の始まりから患者団体の設立まで

腹部に腸管を出す人工肛門造設術が行われるようになったのは19世紀末、抗生物質を使い、手術が安全に行われるようになったのは1945年以降とされている。

しかしその術後の管理で重要となるストーマ装具は、1954年にデンマークのコロブラスト社がビニルの袋に糊を塗って丸く穴をあけた粘着性装具を発売してから欧米で発展し、日本では1966年に同様のものをアルケア社より発売。現行と同じ材質（カラヤゴム）のストーマ装具が発売されたのは、1974年からであった。

また、人工肛門造設者（患者）の団体である日本オストミー協会は、オストメイト団体「互療会」の設立（1969年）から始まり、1976年には国際オストミー協会（IOA）に加盟、1989年に「社団法人日本オストミー協会」に名称を変更し、2011年に現在の「公益社団法人日本オストミー協会」となった。

現在、オストメイト（ストーマ造設者）に関連する医学系分野の学会には、日本リハビリテーション医学会、日本大腸肛門病学会、日本看護科学学会、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会等がある。

(2) オストメイト就労世代への研究の始まり

1977年に発刊された「日本消化器外科学会雑誌第10巻第2号」では、「人工肛門患者の愁訴とその対策」と題してオストメイト、特に就労世代の困り事が報告された。

まだストーマ装具が充実していない当時、直腸癌患者の過半数が人工肛門をもつようになり、術後生存率がさらに向上したが、便臭、装具への不満、排便回数が多いことが患者の不満であることが明らかにされ、装具は使用する場によって異なった携帯・性能を要するものであり、不満解消には情報が必要で、患者の組織を発展させる必要があること、就労世代には排便回数を減らす手段として浣腸を指導するが、身体的な負担も大きく、危険もあることが課題として提示された。

さらに1989年の論文「人工肛門造設者の職場復帰の現状と問題点」では、18歳から65歳の人工肛門造設者477名についての実態調査の結果、有職者216名(76.9%)のうち、手術後に復職した人は147名(68.1%)。さらに原職に復帰したのは67名(45.6%)であり、復職率は低い。また、洗腸をしているのは477名のうち118名(35.12%)であるが、復職男性の55.56%、復職女性の65.52%となり、復職者の洗腸比率は過半数を超えており、洗腸に頼って外出先でのトイレを控える就労者が多かった。当時の復職者の悩みは、ラッシュ時には電車に乗れないので早朝出勤せざるを得ないこと。通勤途上の排便を避けるために朝食

は会社の近くで外食すること。洗腸に時間がかかり、睡眠不足となり、翌日の仕事がつらいことが報告されていた。また、皮膚のかぶれや漏れ、失敗のないよりよい装具の開発、汚物入れを完備した清潔なトイレの整備が望まれた。

(3) 医学系組織の連携

1995 に発表された「わが国のストーマ・リハビリテーションの進歩と将来展望」によると、進藤^{x)}は、医療教育、装着医工学の研究、障害心理学的研究、経済と制度と行政、関連団体（日本オストミー協会、日本ET協会、日本ストーマリハビリテーション講習会、日本ストーマ・リハビリテーション学会、日本ストーマ用品協会など）の組織化の5項目について現状調査した結果、関連団体、学会のより実践的な連携が必要であり、ストーマ研究会のような協議会構想を提唱したが、その中にトイレ環境整備までは含まれていなかった。

(4) オストメイトに関する研究の進展

2002 年の「退院後の消化器系永久ストーマ造設患者のための生活安定感尺度の開発」では、オストメイトの生活安定感尺度の因子間に、臨床的な視点から「皮膚トラブルの心配のなさ」により「ストーマの受け止め」ができ、「日常生活活動の回復・拡大」が可能となるという順序性が想定され、統計的にも裏付けられた。当時はストーマ装具装着の安定性がオストメイトの活動の基盤となっていた。

2012 年に報告されたオストメイトの生活者としての認識に関する郵送アンケート調査「人工肛門保有者のサポートの検討」では、オストメイトが生涯にわたる排泄障害や合併症を抱え、旅行や仕事においても、他者の視線を気にし、日常生活における行動制限を認識して生活している状況であることが明らかにされた。また、身体障害者の補装具交付件数におけるストーマ用装具交付数は年々増加しているが、オストメイトが外観上ではその障害が明らかでないため、障害者自立支援法の改正においても、補装具（ストーマ装具）給付や社会適応訓練事業などが市町村の裁量権的経費に移行するなど、社会福祉の支援が他の領域の障害者より遅れていることも報告された。

(5) オストメイト対応トイレの調査

地域の病院の単位ではあるが、2006 年頃から各地（鹿児島県、横浜市、富山市）でオストメイト対応トイレの調査が行われた。

2016 年の「富山市におけるオストメイト対応トイレの実態調査」では、富山市のオストメイト対応トイレの設置状況及び設備の内容について調査した結果、多くが市街地の公共機関に集中して設置されており、設備機能は施設毎に異なり、温水設備等、装具交換に必要な設備が設置されていない現状が明らかになった。

1-3 研究の目的

オストメイトに配慮したトイレの環境整備検討に際し、本稿ではまず、既存のトイレがどのような経緯で設置され、現在の整備状況になっているのかを確かめ、次に当事者のトイレ使用実態を把握した。

当事者のトイレ使用実態の把握では、漠然とオストメイト全般に配慮することは、インフラ整備の方策として無駄が多いと考え、まずは優先配慮の対象を定めた。また、環境整備については、誰が（配慮対象者）、何処で（対象施設）、どの便房（便房の種類）を使い、その中でどのような使い方（便房内行為）があるので、設置すべき設備はこうあるべき、というように、整備の検討が行いやすいよう、次の6項目の視点から検討し、整備方策の提案に結びつけることとした。

課題1：既存のトイレの設置経緯と現在の整備状況を確認する

既存のトイレについて、オストメイトが求めてきたトイレの仕様と、オストメイト対応トイレの整備状況、およびその課題について整理する。

課題2：トイレ利用に関する属性間の違いを確認する

オストメイトは、ストーマの造設位置（ストーマ種別）によって排泄等、トイレの利用形態は異なる。本稿では、ストーマ種別、性別、年代別等に分け、トイレ使用で特に困っている人、配慮を優先すべき人に、対象が絞れるかを確認した。

課題3：配慮したトイレを優先的に検討すべき施設（建物用途）を明らかにする

オストメイトも、一般の健常者と同じく、性別や年代によって利用する施設は異なる。配慮が必要と定めた対象者が特に利用する施設は何かを明らかにする。

課題4：日常使用する便房、必要とする便房を把握し、対象者の便房ニーズを明らかにする

日常使っている便房が、対象者にとって必要としている便房とは限らない。配慮の対象者が、どのような便房（男女共用部か男女別便所か、多機能か一般便房か）を使用し、その理由は何かを確認し、潜在的な意識も含め、便房へのニーズを把握する。

課題5：便房内行為の実態と便房整備課題を明らかにする

健常者も含め、トイレ内で個々の人がどんな行動をしているのかは、自己申告がない限り、わからないことが多い。オストメイトが腹部を洗うとしても、それはシャワーまで使う行為なのか、あるいは簡易的にできる方法があるのかなど、できるだけ多くの事例を収集して分析し、環境整備の課題と改善の方向性を探る。

課題6：設備の使用課題と必要な設備機能を整理する

個々の設備機能の困り事、使い勝手等を、本稿で特に配慮対象としたユーザーの視点から具体化し、オストメイト用設備の必要機能、あるべき仕様を整理する。また、課題1の結果とも連動する。

1-4 研究の方法

オストメイトに配慮した環境整備の方策を検討するため、本研究では以下の2つを活動のねらいとし、それぞれに調査を行っている。

また、調査の内容と分析事項との関係は、研究フローにまとめている。

【オストメイト対応トイレ普及の経緯と物理的な整備状況を確認する】

研究方法1：日本オストミー協会役員との面談(2016年5月, 12月, 2019年6月)

協会役員と3回の面談を行い、協会の活動の歴史、協会が推奨するオストメイト対応トイレの機能、腹部ケアの方法等について確認した。

研究方法2：トイレ現場調査(2008年9月～2019年7月)

2015年以前から行っていたトイレの現場調査写真も含め、様々な建物用途で整備されてきた公共トイレの中に設置されたオストメイト用設備の写真から、その使い勝手の課題を整理した。

また、各メーカーのホームページ等から、これまで発売されてきたオストメイト用設備の商品写真をまとめた。

研究方法3：郵送によるアンケート調査(2015年9月～10月)

日本オストミー協会の会員(全国57支部)を対象としてアンケート用紙(調査票)を郵送(2000部)し、1015通を回収した。

内容は、属性等の基本情報、必要施設に関する設問、便房ニーズに関する設問、便房内行為に関する設問、設備のニーズと困り事に関する設問等であり、主に定量データとして活用した。

研究方法4：面談ヒヤリング調査(2015年9月～2018年2月)

日本オストミー協会を通じて許可を得た会員23名に対して訪問面談を行い、アンケートで設問した項目の他、トラブル時の経験談やオストメイト対応トイレに関する意識等、アンケートでは得ることの難しかったコメントの他、ストーマ造設位置等の実測値、外出先に持ち出している小物類等の記録写真などを得た。

1-5 論文構成

オストメイトが外出先でトイレを利用するためには、一般の健常者にはほとんど必要のない、オストメイト用設備が必要である。オストメイトに配慮した環境整備を検討する場合には、オストメイトへの理解がまず重要である。本稿では、オストメイトがどのようなトイレユーザーなのか、まず理解してもらう必要があり、そのための内容にも配慮して論文を構成した。

第1章は、研究の背景（オストメイトの人口増加、建築設計標準の課題等）、既往研究を踏まえ、研究した目的、方法を明らかにし、研究の必要性と本研究の位置づけを明らかにする。

第2章は、オストメイト対応トイレが普及した経緯を、日本オストミー協会役員への面談でのヒヤリングで、物理的な整備状況（何の建物用途に、どのような設備が設置されていたか等）を、既存の公共トイレの現場調査をもとに明らかにする。

第3章から第6章では、アンケート調査の結果分析を基本とした当事者のトイレ使用実態を明らかにするとともに、ヒヤリング調査から得たコメントやオストメイトの日常生活、排泄環境に関して掘り下げた事例をまとめ、分析を深めていく。

第3章は、オストメイトの外出頻度や外出する目的、利用している施設について、その傾向や利用する施設へのニーズについての調査結果を分析し、課題をまとめる。

第4章は、オストメイトが外出先で使用するトイレは、どのような種類のものか、なぜそのトイレを使用するか、トイレ選択にあたっての困り事やニーズを明らかにする。

第5章は、オストメイトがトイレの中でどのように行動し、排泄処理をしているかを、行為の比率や具体的事例から動作解明し、課題をまとめる。

第6章は、オストメイトがトイレ内で使用する設備機能について、そのニーズ、困り事等を明らかにし、必要性の高い設備機能とその仕様要件をまとめる。

第7章は、環境整備の視点から、特に配慮すべき対象者、今後優先して整備すべき施設、便房の種類、便房内での配慮機能（設備）、設備の改善が求められる課題事項について、総合的に考察し、結論へと導く。

以下が研究のフローである。

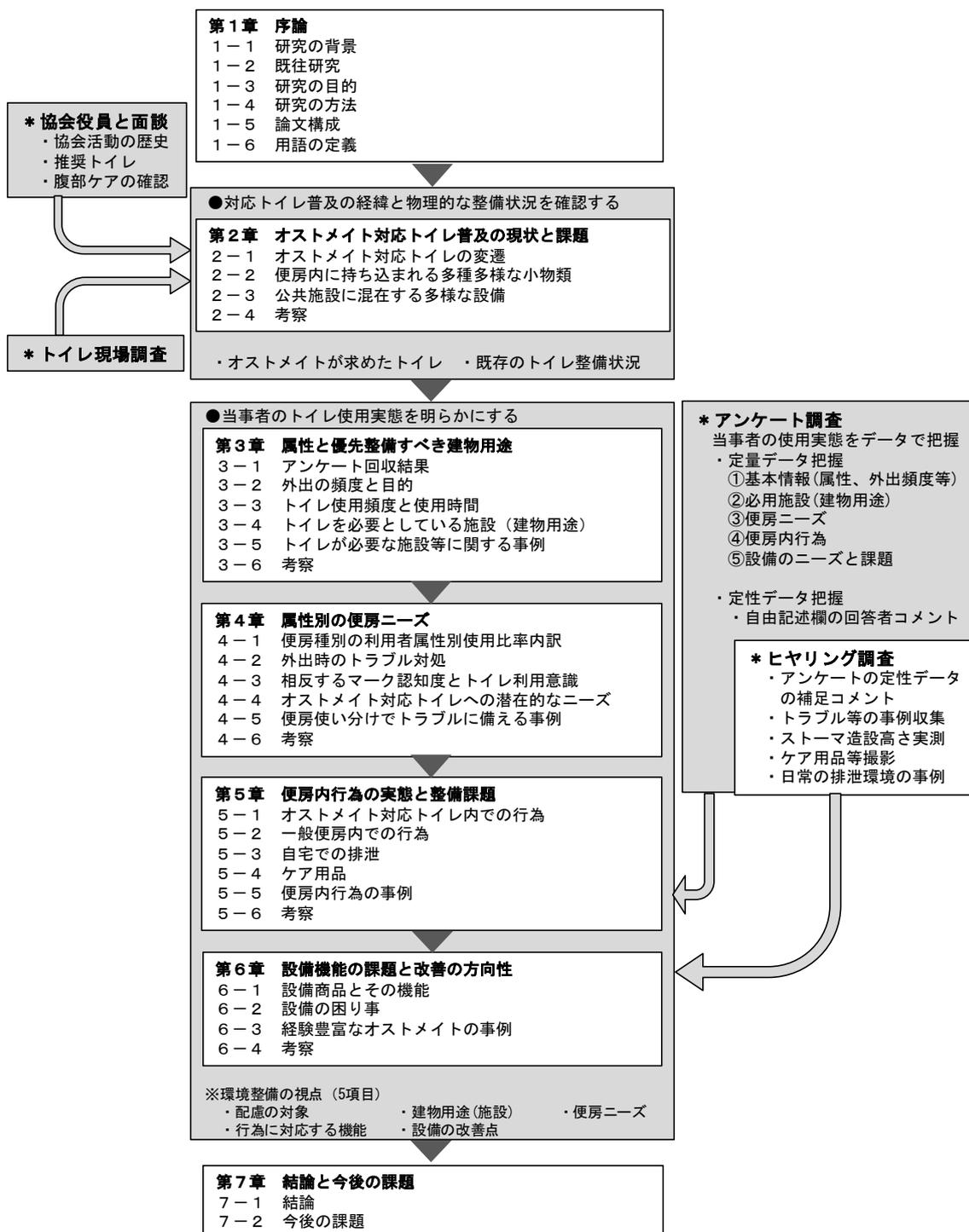


図8 研究のフロー

1-6 用語の定義

1-6-1 便房と設備

バリアフリー法の建築設計標準に記載されている、便房について、本稿では次のように簡略化して表記している。

便房内にオストメイト用設備（汚物流しを含む設備）を設置した「多機能便房」は「多機能トイレ」、「オストメイト用設備を有する便房（個別機能を備えた便房）」は「専用便房」とし、多機能トイレと専用便房のいずれの場合も「オストメイト対応トイレ」とする。

また、「オストメイト用簡易型便房」は簡易型便房、「オストメイト簡易型水洗設備」を簡易型水栓とする他、男女別便所にあるその他の便房を「一般便房」としている。

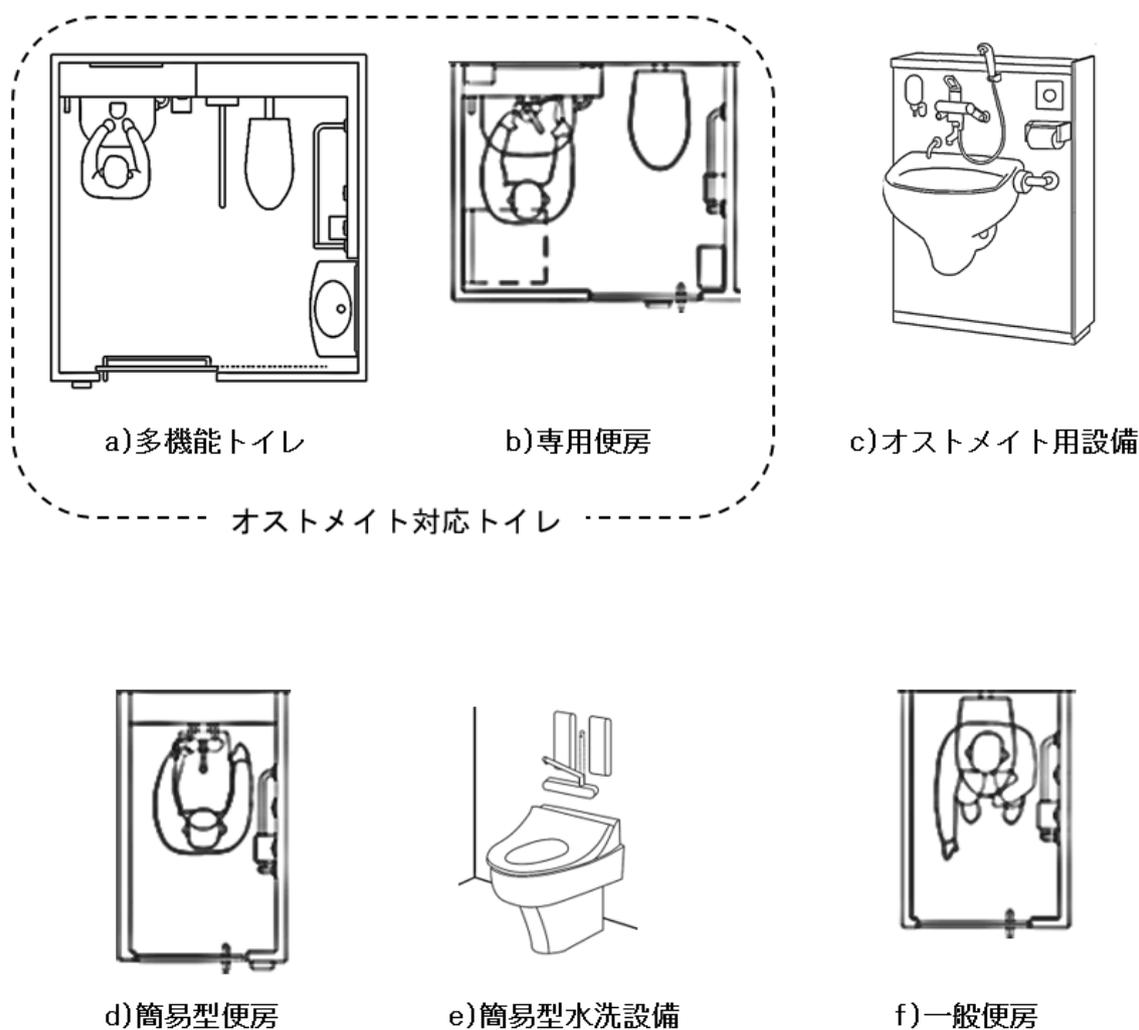


図9 便房と設備の定義

1-6-2 オストメイト関連用語

①オストメイト

オストメイトとは、病気や事故などで消化管や尿管が損なわれたため、腹部に排泄のための開口部（ストーマ）を造設した人のことである

人工肛門保有者・人工膀胱保有者ともいわれ、そのストーマの種別から、コロストミー（人工肛門（結腸）保有者）、イレオストミー（人工肛門（回腸）保有者）、ウロストミー（人工膀胱保有者）、Wストーマ（人工肛門＋人工膀胱保有者）と俗称される。正確にはコロストメイト等。本稿では俗称で表記している。

②日本オストミー協会

日本オストミー協会は、講演会、研究発表会、講習会等を通してオストメイトを支援するための活動をしている公益法人。オストメイトの安心・安全を確保するためにバリアフリーを促進することも活動のひとつである。創立は1969年7月1日、正会員数10,000名、都道府県・指定都市に61支部がある。また、協会の下部組織として「20/40フォーカスグループ」、関連組織として「ブーケ（若い女性オストメイトの会）」がある。

③ストーマ造設位置

ストーマの種類によって腹部への造設位置は異なる。コロストミー、イレオストミーの場合は腹部に1ヶ所以上、ウロストミーの場合も1ヶ所以上に装着するか、尿道にカテーテルを挿入して排泄する場合もある他、Wストーマは消化管と尿路の2ヶ所以上に装着する場合もある。

④自然排便法

大腸の蠕動(ぜんどう)運動のままに、ストーマから出てくる便を装具で受ける方法を自然排便法という。一方、洗腸排便法や下剤で蠕動運動を促し排便する方法を強制排便法ともいう。

⑤洗腸排便法(Irrigation イリゲーション)

強制排便法の一方法である。コロストメイトが専用の洗腸用具を使用して、ストーマから微温湯を注入し大腸に刺激を加え、一気に排便を促す方法。24時間～48時間は臭いのないガスのみが出て排便が起こらなくなる。ただし、この強制排便法には適応・不適応の判断が必要で、主治医の許可を得る必要がある。

⑥パウチ(Pouch: ストーマ袋)

ストーマからの便や尿を受ける袋。防臭性のある積層プラスチックフィルム製の使い捨ての製品である。本稿ではストーマ装具と記載する。

⑦皮膚・排泄ケア認定看護師

日本看護協会が認定する創傷・オストミー・失禁のケアを専門に行う看護師。
(2007年7月に従来のWOC看護認定看護師を改称)

⑧ストーマ装具内洗浄

腹部にストーマ装具を装着した状態で、ストーマ装具内をお湯で洗浄するオストメイトが散見される。腹部に装着したままでストーマ装具内を洗浄することは、衛生的ではなく、医療機関からは推奨されていない。

1-6-3 オストメイト用設備関連用語

①汚物流しの洗浄方式

洗い落とし式、旋回流洗浄（トルネード）等、便器洗浄方式やボール形状により、水面の面積、形状は異なるが、いずれの洗浄方式でも跳ね返りの原因となる水面は存在する。

②混合水栓

水栓器具の中で水と湯を混ぜ合わせて適度な温度の温水がでるしくみを有する水栓。吐水の温度調節や量を制御する構造となっている。最近(2011年以降)のオストメイト用設備では、混合水栓本体を外にむき出しにせず、キャビネット内等に内蔵している商品が主流である。

③シャワー

一般的にシャワーとは浴室にあるもので、シャワーの先端から放射状に水が出るものを想像する人もいるが、オストメイト用設備のシャワーから出る水は放射状ではなく、泡沫吐水（水栓に取り付けた(内蔵した)フィルターで空気を混ぜることで、水流に泡を含ませ、水ハネを少なくした吐水）であり、シャワーの持ち手に出し止めのボタンが付き、片手で操作できるものもある。

泡沫吐水は、シャワーの吐水口からまっすぐに放水するため、ストーマ装具の開口穴目掛けて吐水することができ、装具に当たった跳ね返りも少ない。

④紙巻器

2010年頃までは、ワンタッチ紙巻器という名称で、トイレトペーパーを片手で簡単に装着できるタイプの紙巻器が発売されていたが、2011年以降からワンワンハンドカット紙巻器が登場した。ワンワンハンドカットとは、紙巻器のふたをバネ等で下に押さえ、トイレトペーパーをカットする際にふたを下げる力が働き、片手でもペーパーが切れる構造になったものである。

第二章 オストメイト対応トイレ普及の現状と課題

トイレにオストメイト配慮設備を設けるという考え方は、世界でも類を見ない、日本独自で進展した環境整備方策である。その進展のプロセス等を知ることは、環境の整備改善を考える際、当事者（オストメイト）から得た調査結果の裏付け情報ともなる。本章では、当事者がどのような経緯でオストメイト対応トイレ誕生と普及に関与してきたか、外出先のトイレ設備に望んできた事は何かなどを、法的規制の進展や持ち歩く小物類も含めて整理し、オストメイト対応トイレの現状としてまとめた。また、既存の公共トイレに設置されている各メーカーのオストメイト用設備、オストメイト対応トイレに設置された設備の現場事例も合わせて整理し、オストメイト対応トイレの普及の現状と課題としてまとめた。

2-1 オストメイト対応トイレの変遷

バリアフリー法が2006年に制定されて以降、多機能便房等、オストメイト対応トイレが様々な大規模公共施設で見られるようになった。しかし、現状でオストメイト対応とされる設備にはどのようなものがあり、それがいつ誕生し、誰が考案したのか等、経緯は明らかではない。また、建築系、医学系の文献、論文を見ても公共トイレにおけるオストメイト対応の変遷を示す資料は見あたらない。そこで、当事者団体（日本オストミー協会）にヒヤリングを行い（調査日：2017年6月28日、面談者：日本オストミー協会 笹岡副会長(当時)、過去のバリアフリー法ガイドライン等の法規と照らし合わせ、オストメイトに配慮したトイレ設備の変遷の概要としてまとめたものを以下に記す。なお、商品の情報はメーカーのカタログに掲載された写真・記載事項を参考とした。

2-1-1 オストメイト対応トイレの始まり

オストメイト対応トイレは、1998年(平成10年)、オストミー協会の村山さんの働きにより、洗面器を代用したオストメイト対応トイレの原型が習志野市庁舎に設置され、全国のオストミー協会会員が見学に訪れたことが始まりとされる。洗面器の排水配管が雑排水であることから、汚物を流すことは難しいはずであるが、オストメイト用にトイレが必要であること、どのような設備機能が必要であるかを、この時初めて行政組織に訴え、実際のトイレの形となったものである。

これを契機に、日本オストミー協会でもオストメイト対応トイレ設置促進運動の全国統一活動が1999年から始まった。

2-1-2 交通バリアフリー法施行

2001年(平成13年)、交通バリアフリー法が施行され、駅と周辺市街地の一体的なバリアフリー化促進が法的に位置づけられた。オストメイト対応トイレ仕様では、パウチしびん洗浄水栓が義務であり、汚物流しは望ましい基準であった。

汚物流しではなく、「オストメイトのパウチ等の洗浄ができる水洗装置」が先に義務化された理由には、以下の経緯から、オストミー協会が、現実的に普及が望める設備を最初に推薦したことがあげられる。

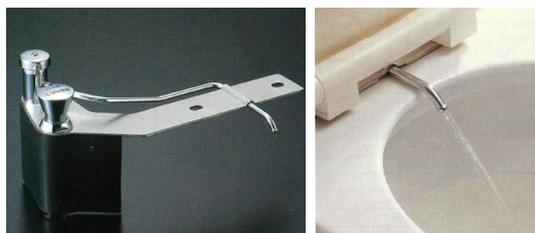


写真1 パウチ・しびん洗浄水栓

2-1-3 パウチしびん洗浄水栓の誕生

2001年、メーカーはオストメイト用水洗器具の試作品を日本オストミー協会本部事務所に設置し、具体的な意見収集を行った。当時の日本オストミー協会の会誌には、この試作品(パウチしびん洗浄水栓)について、「オストミー協会会員(32名)の評価としては、大変良いが47%、やや良いが25%、あまり良くないが6%で肯定的な意見が多くあったが、今後、更に改良が進み、使い易い装置が開発されることが期待される」とした。

しかし、当時は大便器の溜め水でパウチを洗っていたという会員の声もあり、これでも良いという人も多かったことが推察される。



写真2 汚物流しのセット例(2001年SK434)
出典：TOTOバリアフリーブック
パブリックトイレ編2001年より

2-1-4 汚物流し設備の登場

同時期、メーカーはオストメイト対応の汚物流し設備をカタログ掲載している。カタログの説明では、「汚物流しは、オストメイト(人工肛門・人工膀胱造設者)の方がパウチ(排池物をためておくために腹部に装着する袋)にたまった汚物の処理やパウチのゆすぎなどを行うのに必要です。また、身障者や乳幼児のおむつ交換時の汚物処理や汚れ物の洗浄などにも便利です。パブリックの多目的トイレ内への設置をおすすめします。」と記載されている。まだ既存の商品の延長ではあるが、温水の出る混合水栓もついており、少なくとも汚物を捨てることとパウチを洗う機能は備えていた。翌年には、床置き式ではなく、壁掛け式の汚物流しが登場している。

2-1-5 汚物流し設備の基本機能に関する要望

日本オストミー協会では「パウチしびん洗浄水栓」を推奨する一方、本格的なオストメイト対応トイレの基本機能として、表3の機能を国や地方公共団体に要望した。(この設

置希望事項は現在も引き継がれている。)

表3 日本オストミー協会が要望したオストメイト対応トイレの基本機能

① 入口にオストメイト設備マーク	⑥ 手荷物用物置棚や壁掛けフック
② 汚れた装具を洗う水洗器具	⑦ 使用済み装具を捨てる汚物入れ
③ 便や尿を流せる大便器や汚物流し台	⑧ 補装具の装着に必要な姿見用鏡
④ ストーマ部位を洗浄する温水シャワー	⑨ 換気扇などの換気装置
⑤ 十分な量のトイレットペーパー	

2003年、メーカーではオストメイト対応の設備商品を発売する。鏡や汚物入れ、換気扇はセットされていないが、それらと組み合わせると、協会の要望する基本機能は満たしている。



写真3 オストメイト対応設備(2003年)
出典：TOTOバリアフリーブック
パブリックトイレ編2003年より

2-1-6 ハートビル法の改正

2003年、「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律(通称「ハートビル法)」が改正され、「高齢者・身体障害者等の利用を配慮した建築設計標準」が改訂された。建築設計標準の「便所・洗面所」の「設計の考え方」では、「多機能便房は、高齢者・障害者等が認識しやすい位置に設け、車いす回転スペース、手すり、オストメイト用の汚物流しや水栓、オムツ交換シート等を設置して利用者のニーズに対応することが求められる。」とされているが、オストメイト対応は望ましい基準となっていた。

2-1-7 バリアフリー法の施行

2006年には、交通バリアフリー法と改正ハートビル法を統合し、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法)」が施行された。同法は、交通機関、建築物のほか、都市公園や路外駐車場も対象とし、オストメイト対応トイレを建物に1以上設置することが義務とされた。車いす使用者用便房とオストメイト対応が義務化されたことで、多機能であることによる車いす使用者からの利用上の不便さを解消するため、個別機能を有する便房や簡易型機能を備えた専用便房を検討することが推奨された。

①オストメイト用設備を有する便房の基準

ガイドラインに記載されたオストメイト対応トイレの基準は、オストメイトのための設備として13項目が記載される等、オストメイト用設備の機能が初めて詳しく紹介された。

②簡易型水洗設備の基準

簡易型便房については不特定多数が利用する大規模施設でない場合、あるいは建築上の制約でやむを得ない場合に設置する設備とされた。

2-1-8 バリアフリー法 建築設計標準の改訂（2012年）

2012年には、バリアフリー法ガイドラインが改訂され、多機能便房を「機能分散」することが明記された。

（1）オストメイト用設備を有する便房

2012年の改訂では、オストメイト簡易型設備と汚物流し設備との使い分けを明記する他、留意点として初めて、オストメイトが「腹部等を洗浄」することへの配慮が触れられていること、汚物流しの高さ調整への言及など、より細かな配慮が記載されるようになった。

オストメイト対応トイレについては、オストメイト用便房が汚物流し単独の便房ではなく、大便器と汚物流しの両方があるものに変更された。これは、オストメイトが大小の排泄排尿を同時に済ませることができるように配慮したものである。

尚、2012年当時、オストメイト用設備は以下のようにモデルチェンジされている。



写真4 2010年当時の汚物流し設備



写真5 2012年当時の汚物流し設備



（2）オストメイト用簡易型便房

パウチしびん洗浄水栓は、交通機関を中心に普及していたが、2010年以降は、代わりに右の商品が登場している。



～2010年



2010年～

写真6 パウチ・しびん洗浄水栓背もたれ付

2-1-9 バリアフリー法 建築設計標準の改正（2017年）

2017年には、さらに建築設計標準が次のように改正された。

（1）オストメイト用設備を有する便房

2017年には、車いす使用者やオストメイト、子ども連れ等にも対応した多機能便房ではなく、車いす使用者用便房とその他の個別機能を有する便房への機能分散が強化され、オストメイト用設備についての配慮事項もより具体的になった。

表4 2017年のバリアフリー法 建築設計標準

<p>2. 7. 1 個別機能を備えた便房の設計標準</p> <p>(3) オストメイト用設備を有する便房</p> <p>① 設置数、配置</p> <ul style="list-style-type: none">・ 便所のうち1以上（男子用及び女子用の区別があるときは、それぞれ1以上）には、オストメイト用設備を有する便房を1以上設ける。・ 便所（男子用及び女子用の区別があるときは、それぞれの便所）が設けられている階ごとに、当該便所のうち1以上に、オストメイト用設備を有する便房を設けることが望ましい。 <p>② 部品・設備等</p> <p>ア. 汚物流し等</p> <ul style="list-style-type: none">・ パウチや汚れたもの、しびん等を洗浄するための汚物流し（洗浄ボタン・水栓を含む）、ペーパーホルダーを設ける。・ ストーマ装具を交換する際に腹部を洗浄することがあり、水栓は温水が出る混合水栓であることが望ましい。 <p>便房イラストの注意書き：温水が使用できることが望ましい 便房イラストの注意書き：利用者の身長に合わせて汚物流しの高さを変えられると使いやすい</p> <p>留意点：汚物流し等</p> <ul style="list-style-type: none">・ 腹部等を洗浄しやすいよう、水栓はハンドシャワー型であることが望ましい。・ 利用者の身長によって使いやすい汚物流しの高さは異なるため、汚物流しの高さが調節できると使いやすい。 <p>イ. その他の設備</p> <ul style="list-style-type: none">・ ストーマ装具や関連の小物等を置くことができる十分な広さの手荷物置き台（カウンター）を設ける。・ ストーマ装具の装着や身だしなみを確認するための鏡を設ける。・ 小物や手荷物をかけるフックやコート等の衣類をかけるフックを複数設ける。・ ストーマ装具の廃棄等に配慮し、汚物入れを設けることが望ましい。・ ストーマ装具の装着のための衣類の脱着、着替え等に配慮し、汚物流しの近くに着替え台を設けることが望ましい。 <p>便房イラストの注意書き：全身を鏡で確認できることが望ましい 便房イラストの注意書き：着替え(上足用)台(又はマット)があると着替えやすい</p> <p>留意点：手荷物置き台、フック</p> <ul style="list-style-type: none">・ 手荷物置き台やフックは、手荷物を置いたりコートをかけるだけでなく、オストメイトの方が脱いだ衣類やパウチを置いたりかけたり、介助者が荷物を広げたりするため等に必要である。
--

（2）オストメイト用簡易型便房

オストメイト用簡易型便房のオストメイト簡易型水洗設備を解説することばとして、「腰掛け便座の背もたれに水洗をつけたもの」とする表現がとられるようになった。

2-2 便房内を持ち込まれる多種多様な小物類

オストメイトは、外出してトイレを使用する際、健常者が使うことのない、特有の小物を持参し、使用している。使用時には当然、トイレ内にそれらを置く場所が必要である。本項では、オストメイトがどのような物を何のために持参しているかを具体的に述べる。

尚、ケア用品については、日本オストミー協会および専門看護師へのヒヤリング調査（2018年10月実施）で確認し、オストメイトの便房内行為に分けてまとめている。

2-2-1 ストーマ装具

ストーマ装具は、面板とパウチから構成されている。面板はストーマ周囲の皮膚に粘着する皮膚保護剤の着いた部分。パウチは面板に接着し、ストーマからの排泄を受ける袋である。面板とパウチが一体化しているストーマ装具をワンピース、お腹に接着した面板からパウチ部分を取り外せるストーマ装具をツーピースと呼ぶ。

面板はストーマの大きさにあった穴をあけてから腹部のストーマ周囲皮膚に貼る。面板には、はさみで穴を開けるタイプ、一定の穴が開いているタイプ等がある。また、パウチには、消化管用と尿路用がある。

コロストミー・イレオストミー（消化管）用パウチは、袋の下部が開閉できるようになっているドレインパウチ（下部開放型）、閉鎖されたクローズパウチ（閉鎖型）、水様便が出しやすいようチューブがついているイレオストミー用などがある。クローズパウチは排泄が安定している人や水泳、入浴などの用途で使われている。

ウロストミー（尿路）用パウチは、尿を出すためのタップやキャップが付いている。また、ウロストミーの方の場合、排尿が長時間できない場合のため、パウチの先を、レッグバッグという脚につける蓄尿袋に連結する場合もある。レッグバッグを装着した人の場合、排尿は大便秘器を使っても問題なくできる。



図10 ストーマ装具の種類

2-2-2 ケア用品

オストメイトが日常生活用具（ストーマ用品）の給付を受けることのできる品目として、下表の13品目がある。オストメイトは、外出時にもこのようなケア用品をトイレ内に持ちこみ、腹部のケアや装具の交換を行っている。

ケア用品13品目には、①皮膚保護剤ペースト／パテ、②皮膚保護剤パウダー、③皮膚保護剤ウエハー、④固定用ベルト、⑤サージカルテープ、⑥コンベックスインサート、⑦剥離剤、⑧皮膚被膜剤、⑨レッグバッグ、⑩ナイトドレナージ（夜間蓄尿袋）、⑪パウチカバー、⑫皮膚保護剤穴あけ専用ハサミ、⑬消臭剤がある。

13品目を中心に、オストメイトがトイレ内に持ち込む用品について、オストメイトが便房内で行う行為の内容をふまえ、ストーマ装具装着中の時、装着中のストーマ装具を外す（交換する）時、新しいストーマ装具を装着する時のそれぞれで必要とするケアをまとめた。

（1）ストーマ装具装着中の時

夏場で薄地の衣類を着ている場合、ストーマ装具のパウチ内の汚物が見えないよう、ストーマ装具を覆う⑪パウチカバーがある。

また、排泄物には油分もあるため、ストーマ装具のパウチ内の汚物を捨てた後、パウチが密着することを防ぐために潤滑剤（13品目外の用品）をパウチ内に入れる人もいる。

ウロストミーの方の場合、ストーマ装具の排泄口に管を介して⑨レッグバッグを装着している人もいる他、就寝時に使う⑩ナイトドレナージ（夜間蓄尿袋）もある。



図11 ストーマ装具装着中の時のケア用品

(2) 装着中のストーマ装具を外す(交換する)時

ストーマ装具の面板はお腹の皮膚に密着しており、⑦剥離剤を使わなければ剥がすことは難しい。従来の剥離剤は油分が多く、使用時に手やお腹についた油分を石鹸等で落とす必要があったが、数年前から油分の少ないものも発売され、より使いやすくなっている。

また、お腹の汚れを落として新しいストーマ装具を装着する際、臭いが気になる人はストーマ装具のパウチ内に⑬消臭剤を入れている。消臭剤には、水様便が出る人のために凝固剤の機能も加えた消臭凝固剤もある。



図 12 ストーマ装具を外し(交換する)時のケア用品

その他、ケア用品13品目には含まれていないが、水なしでお腹を洗える皮膚清浄剤や、一般に使用されている石けん、赤ちゃん用お尻ふき、ガーゼなども、オストメイトが外出先でお腹をケアする際に使用されている。



図 13 ストーマ装具を外す(交換する)時のその他の用品

(3) 新しいストーマ装具を装着する時

装具を装着する際、粘着テープの粘着剤や排液による皮膚障害を予防するため、速乾性のある⑧皮膚皮膜剤をまず使い（スプレー等）、腹部を乾かす。次にストーマ装具の面板部分にストーマの大きさ、形状にあわせた穴を開けてストーマの周囲に面板を貼る。面板の材質は皮膚保護剤になっているが、面板に開けた穴とストーマの隙間を埋めるために、①皮膚保護剤ペースト／パテ、②皮膚保護剤パウダー、③皮膚保護剤ウエハーを使用する。

面板の接着だけではずれることが心配な人の場合、面板をしっかり固定するための④固定用ベルトがある他、⑤サージカルテープ等を使って面板の周辺を補強することもある。



⑧皮膚皮膜剤



①皮膚保護剤ペースト／パテ



②皮膚保護剤パウダー



③皮膚保護剤ウエハー



④固定用ベルト



⑤サージカルテープ

図 14 新しいストーマ装具を装着する時のケア用品

また、面板の材質（一般的にカラヤゴムの成分が多い）はカットした断面が時間の経過で堅くなるため、使用直前に⑫皮膚保護剤穴あけ専用ハサミ（穴の形状にあわせてカットしやすいよう、ハサミ先端の刃の形状等に工夫がある）でカットする場合もある。

さらにストーマの周囲の皮膚が凹んでいる人の場合、⑥コンベックスインサート等を面板に結合させ、皮膚に排液がもれないように調整する人もいる。



⑫皮膚保護剤穴あけ専用ハサミ



⑥コンベックスインサート

図 15 新しいストーマ装具を装着する時のケア用品 続き

2-3 公共施設に混在する多様な設備

本節は、既存の公共トイレに存在するオストメイト対応トイレの設備について、メーカーが提供する設備商品と、設備が設置されている現場事例の視点から、様々な施設に存在するオストメイト用設備の課題を整理した。

2-3-1 既存の公共トイレに混在するオストメイト用設備

2003年にキャビネットの壁に汚物流し（陶器）を設置した汚物流し設備が登場して以降、主要な衛生設備メーカー（TOTO、LIXIL等）が汚物流し設備を品揃えし、2015年から2017年までは各社で同様の仕様の商品が販売されている。また、出荷量は不明であるが、2010年頃から高さ調整のできる商品（ジャワメイト）も販売されていた。2017年までに発売された汚物流し設備（オストメイト用設備）を年代別（上下方向）に並べると、表5のようになる。2003年から2017年まで、各社で商品のモデルチェンジが行われ、設備機能も改善が繰り返されてきた結果、表5の商品が、様々な公共トイレに設置されてきた。

現在は発売されていないが、建築設計標準では、表5の2007年から発売された商品をモデルにしたと思われるイラストが掲載されている。2007年時点の変更点は、オストメイトが汚物流しの前に立った時に、汚物流しの中が見やすいよう、混合水栓の本体部分がキャビネットに内蔵され、レバーハンドルのみがキャビネットの壁から出ていること。また、シャワーを使う時に邪魔にならないよう、ホースもキャビネット内に内蔵したこと。キャビネットの壁の空いたスペースに、ストーマ周辺を見るための鏡が設置されたこと等である。

こうした改善により、オストメイト用設備の使い勝手も向上してきたが、こうした改良品が各社から発売されることで、現在の公共トイレでは、表5の8種類(2018年時点)のオストメイト用設備が混在する状況となっている。また、キャビネットではなく、建物の壁に直接、汚物流しを設置したものもあり、これらを含めると種類はさらに増える。

2-3-2 設備の機能の変遷と課題

以下に、オストメイト用設備の機能の改良点と課題を、年代を追って説明する。

(1) 汚物流し

オストメイト用設備が2003年に初めて発売された当時、汚物流しは洗浄のために16リットルの水が必要であり、しかも洗い落とし式という一番古い洗浄方式であったため、陶器部分が大きく、跳ね返りも起こりやすいものであった。2007年には、2003年のタイプの横幅を縮小(幅1100mm→860mm)したが、洗浄方式等、基本機能は変更されていない。

2011年発売の商品以降の洗浄方式は旋回流方式（トルネード洗浄）であり、跳ね返りも改善されたほか、陶器そのものも汚れが付きにくいものに改良されている。

(2) 棚、フック

棚の高さは2003年当初は1200mmであったが、2011年以降は1150mmと、若干ではあるが高さが低くなった。また商品の幅が1100mmから860mm(2007年)、750mm(2011年以降)、現在では55mm(2018年2月以降)となっており、よりコンパクトなものになったが、棚の面積としては縮小している。

またフックについては、設備の幅が縮小するに伴い、設備自体に取り付けられなくなった(2007年)結果、便房内にフックのない現場もみられるようになった。

(3) シャワー

シャワーは当初(2003年ころ)、ホースがむき出しであったが、2011年からホース内蔵タイプになった。また、泡沫吐水といって、水流の中に空気の泡を含めて節水にしたものができ、水の跳ね返りも少なくなっている。

また、シャワーヘッドを固定して両手でストーマ装具を洗えることから、シャワーのヘッドに片手で水流を出し止めする機能がなくなり、レバーハンドルでの出し止めの方式に変更された。

(4) 洗浄ボタン

表5で紹介した商品はキャビネット式と俗称されているもので、メーカーが予め組み立て部品を生産し、現場でくみ上げる方式のものである。したがって、キャビネット式のオストメイト用設備は、必ずトイレトペーパーの上に洗浄ボタンを配置するJISS0026に適合する仕様であるが、在来施工(業者が設備の部品を事前調達し、現場で組み上げる方式)の場合、経験の少ない施工者がJIS規格に合わない施工をすることもあった。

(5) 鏡

2011年以降に発売されたオストメイト用設備には、汚物流しの前に立って正面に鏡が設置されるようになったが、汚物流しに腹部をあて、腰をかがめて覗きこまなければ、腹部の状態が見えない。

(6) トイレトペーパー(紙巻器)

紙巻器は、2003年の商品ではワンタッチというトイレトペーパーを片手で紙巻器に装着できるものが設置されたが、2011年頃からワンハンドカットという、片手でペーパーをカットできるものが設置されるようになった。

表5 オストメイト用設備の販売期間と使い方（その1）

		2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
設備商品	LIXIL									
						2006年4月～2010年3月				
設備商品	TOTO									
				2003年9月～2007年8月			2007年9月～2011年1月			
設備仕様	全体寸法			幅1100×奥行き270×高さ1200			幅860×奥行き270×高さ1200			
	汚物流し 洗浄方式 縁の高さ			洗い落とし式 高さ700mm			洗い落とし式 高さ700mm			
	混合水栓			シャワー水栓 シャワーヘッドの一時置き可能			シャワー水栓 (シングルレバーハンドル)			
	シャワー 吐水方式 操作			<ul style="list-style-type: none"> ・ 泡沫吐水 ・ ボタンを押している時だけ吐水。出しっぱなしにならない。吐水・止水を片手で操作可能。 ・ ホース長：600mm 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 泡沫吐水 ・ ボタンを押している時だけ吐水。出しっぱなしにならない。吐水・止水を片手で操作可能。 ・ ホース長：600mm 			
	ホース									
	紙巻器			・ ワンタッチ紙巻器 ペーパーを片手で装着可能			・ ワンタッチ紙巻器 ペーパーを片手で装着可能			
	水石けん 鏡			あり なし			あり なし			
	フック 棚			あり 幅1100×奥行き270(高さ1200)			なし 幅860×奥行き270 (高さ1200)			

表5 オストメイト用設備の販売期間と使い方（その2）

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
設備商品	LIXIL	 2009年11月～2014年1月				 2014年2月～				
	TOTO	 2011年2月～2018年1月				 2018年2月～				
						 2012年2月～				
設備仕様	全体寸法	幅750×奥行270×高さ1150								
	汚物流し 洗浄方式 縁の高さ	旋回流（トルネード）式 高さ680mm								
	混合水栓	シングルレバーハンドル （混合水栓本体はキャビネット内に内蔵）								
	シャワー 吐水方式 操作 ホース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泡沫吐水 ・ 吐水・止水はレバーハンドルを使用 ・ シャワーホースはキャビネット内に内蔵 （シャワーヘッドを引っ張るとホースが出る） 								
	紙巻器	・ ワンハンドカット紙巻器 ペーパーを片手でカットできる								
	水石けん 鏡	あり ・ 腹部を確認するための鏡あり								
	フック 棚	なし 幅750×奥行270（高さ1150）								

2-3-3 様々な建物用途のトイレに設置されているオストメイト対応トイレ

現在、様々な建物用途の公共施設にオストメイトマークのついたオストメイト対応トイレが設置されている。図16(その1)は、様々なオストメイト対応トイレ内に設置されたオストメイト用設備の現場事例である(建物用途名の前に記載した年数は、写真撮影した年数)。どの施設も汚物流しがあり、オストメイト対応トイレではあるが、建築設計標準の解説等を参照すると、それぞれ以下の課題が考えられる。

- ・①の百貨店の設備は、デザイン的にはかなり洗練されたトイレであったが、汚物流しの周辺にトイレットペーパーや石けん、シャワーがない。
- ・②のスポーツ施設にもトイレットペーパーはなく、シャワーの吐水位置が高く、汚物流しのボール水面までの距離が遠くなっていた。
- ・③の旅客施設は、2003年頃に発売されたオストメイト用設備が設置され、基本機能は備えているが、汚物流しのすぐ近くにゴミ入れ(おむつを捨てる場所)があった。
- ・④の商業施設は、2連紙巻器がセットされ、トイレットペーパーは充分ある他、着替え台まで整備されているが、②の事例と同じく、シャワーの吐水位置が高く、汚物流しのボール水面までの距離が遠くなっていた(約70cm程度)。
- ・⑤の商業施設の写真は、アンケート調査の回答者がアンケート調査票に同封して送っていただいた写真で、混合水栓になっているが温水が出なかったとのこと。
- ・⑥は温泉旅館の共用部のトイレであり、「オストメイトの方がつかえます。手洗器は別にあります。」と、丁寧な説明書きが貼られていたが、やはり、汚物流し周辺にトイレットペーパーはなかった。

図16(その2)では、旅客施設に加え、コンビニ等の小規模施設、大型商業施設の現場事例をまとめた。

- ・⑦は昨年改修されたばかりの多機能トイレであるが、汚物流しは依然のものがそのまま利用されていた。メンテナンスが良ければ、陶器の場合は何十年も使えるが、この現場でも再利用されたものと推察される。
- ・⑧は簡易型水栓設備のある広めのトイレであるが、小規模施設では⑨のように、個室内では棚や手洗器が設置されていないトイレも多い。



① 2008年百貨店



② 2009年スポーツ施設



③ 2010年旅客施設



④ 2011年商業施設



⑤ 2015年商業施設
(アンケート回答者の同封写真より)



⑥ 2016年温泉旅館

図 16 様々な建物用途のトイレに設置されているオストメイト対応トイレ

- ・⑩は2～3年前に新設されたもので、清掃等、メンテナンスも行き届いている。
- ・⑪は一般の男女別便所に子ども連れ配慮がされ、車いす使用者とオストメイト用に多機能便房が設置されていた。
オストメイト用設備を含むトイレ設備は常に進化し、設備設置現場では、過去の商品と最新の商品が常に混在している。



⑦ 2019年 旅客施設



⑧ 2013年 コンビニ



⑨ 2019年 飲食店



⑩ 2019年 旅客施設



⑪ 2019年 大型商業施設

図 16 様々な建物用途のトイレに設置されているオストメイト対応トイレ(その2)

2-4 考察

既存施設のオストメイト配慮環境整備の現状について、客観的な事実を調査分析した結果、オストメイト当事者が求めてきた法的基準は整ってきたが、オストメイトには健常者とは異なる設備（オストメイト用設備）が必要であるだけでなく、健常者が必要としない小物類も便房内に持ち込まなければならないこと。また、オストメイト対応トイレは様々な建物用途の施設で整備されてきたが、設備仕様が一樣ではなかったこと、現場によっては大事な機能が欠けていることが明らかになった。

どこのオストメイト対応トイレであっても、オストメイト用設備の仕様（最低限必要な機能）が全国一律となるよう、標準化を検討すべき時期にきていると考える。

以下は第1節から第3節のまとめである。

2-4-1 オストメイト対応トイレの基準は当事者の要求仕様を満たしていた

当事者団体（日本オストミー協会）が行政に陳情したことからスタートしたオストメイト対応トイレは、便房内に必要な設備機能として、以下の仕様を満たすことが要求され、ほとんどが基準の解説に盛り込まれるようになった。

- ・汚物が流せること（大便器、汚物流しの洗浄機能）
- ・ストーマ部位をお湯で洗えること（温水シャワー）
- ・ストーマ装具を洗えること（水栓）
- ・その他（トイレットペーパー、棚・フック、汚物入れ、姿見鏡、換気扇）

2-4-2 便房内に持ち込まれる小物類

オストメイトは一般の健常者が全く必要としていない小物、器具を使ってトイレ内処理を行う必要がある。ストーマの種類、性別等の属性によって異なるが、排泄だけでなく、ストーマ装具交換や腹部のケアの行為が加われば、使うべき小物類の数はかなり多いことがわかった。これらの小物類を便房内の取りやすい位置に置くための棚とそのスペース確保は、オストメイト配慮の必須要件のひとつであると考えられる。

また、小物類（ストーマ装具やケア用品）は、直接、腹部の皮膚等に触れるものであり、その場で手を洗う等、衛生面での配慮も必要である。

2-4-3 既存のオストメイト対応トイレの課題

(1) 既存のオストメイト用設備

大便器等の衛生陶器は何十年も使えるものが多い。オストメイト用設備が登場してから既に10年以上経過し、設備製品もモデルチェンジを繰り返した結果、現在では、古い仕様の製品から最新ののものまで、様々な製品が設置され、使い方も異なっていた。

また、バリアフリー法では温水機能は望ましい基準となっていることもあり、温水機能のない設備をオストメイト対応としている自治体も散見される。

オストメイト用設備についても、基本機能の配置や仕様について再検討する時期ではないかと考える。

(2) 既存のオストメイト対応トイレの事例

バリアフリー法の建築設計標準等の基準では、オストメイト用設備として、汚物流しやトイレットペーパーの紙巻器、水石けん、シャワー等の設備機能について記載されているが、実際には、トイレットペーパーがなく、温水が出ないなど、必要な設備機能が欠けている現場も多々見られた。

また、シャワーを固定した時の吐水位置は、ストーマ装具を洗う際、高すぎると跳ね返りも多くなるが、低すぎるとストーマ装具を洗う際に下端が汚物流しボール水面に浸かることも考えられる。適切な吐水位置を提示することも必要であることがわかった。

オストメイトにとって、必要な場所に必要な設備があることは、まず重要なことであるが、必要な設備があっても、設備の配置への配慮（動作スペースの確保）がなければ使いづらいものになる。オストメイト用設備の動作領域の確保も課題であることが確認できた。

第三章 属性と優先整備すべき建物用途

第2章では、オストメイト対応トイレの普及に関する全般的な課題について考察した。本章から第6章までは、オストメイト自身への調査（アンケート、ヒヤリング）で得た外出先でのトイレ使用実態を分析し、環境整備のための具体的な要件を絞り込む。オストメイト配慮の環境整備を促進するためには、できるだけオストメイトが必要とする建物用途（施設）に、使いやすい便房を配置することが効果的であり、またそのために、便房内で行っている行為、使用する設備の困り事などを把握する必要がある。

本章では、オストメイトのストーマ種別、性別、年代別の属性別に、トイレ使用頻度等を分析することによって、属性別に、トイレを必要としている施設、優先して環境整備すべき施設はどこかについて考察した。

3-1 アンケート回収結果

オストメイトの個別の属性の人がよく利用する施設の概要を把握するため、アンケート調査を実施した。その内容を以下に記す。

尚、アンケート調査の概要は、表6にまとめている、

3-1-1 アンケート調査の属性別内訳

アンケート調査の回収結果は、回収数1015、回収率50.75%となった。回答者の、ストーマ種別、性別、年代別の各属性の集計結果を図17に示す。

日本オストミー協会が発行した報告書の調査結果(2011年)によると、日本のオストメイトのストーマ種別人口構成は、コロストミーが過半数（60%超）を占め、ウロストミーが20%程度、イレオストミーは8%であるが増加傾向にあることが報告されており、本研究のアンケート調査結果でも同様の構成比であることが確認できた。

また、今回のアンケート調査の対象とした日本オストミー協会会員の年代は、70～80代が過半数を占めているが、ストーマを造設した年代は、30～50代が過半数であることを確認した。

図17の上段のストーマ種別では、回答者の構成比の多い順に、コロストミー(65.1%)、ウロストミー(18.6%)、イレオストミー(12.5%)、Wストーマ(3.8%)となる。図の折れ線の◇印は、日本オストミー協会が2011年に発行した報告書の調査結果（回収数572）から得たストーマ種別構成で、イレオストミーの構成比は、後から行った本研究のアンケート調

査結果の方が高くなっているが、比率の高い順番は本研究の結果と同じであった。

性別の有効回答者の内、男性は56.6%、女性は43.4%で、男性回答者が多かった。

年代別^{注3}では70代から80代の回答者が最も多いが、図の折れ線の○印で示すストーマを造設した年代では、30代から50代で造設した人が全体の53%を占めていた。つまり、過半数のオストメイトは、30代から50代の就労世代の時にオストメイトになっていた。

当事者団体である日本オストミー協会会員の人口構成は高齢化しているが、実際のオストメイトには就労世代の人も多いことが推察される。また、インフラ整備に関しては、トイレで特別の設備を必要としているオストメイト全体についてのバリアフリー化の指針はあるが、就労世代を焦点とした配慮事項は見あたらない。就労世代のオストメイトを対象とした環境整備は、これから優先的に取り組まなければならない課題であると考えられる。

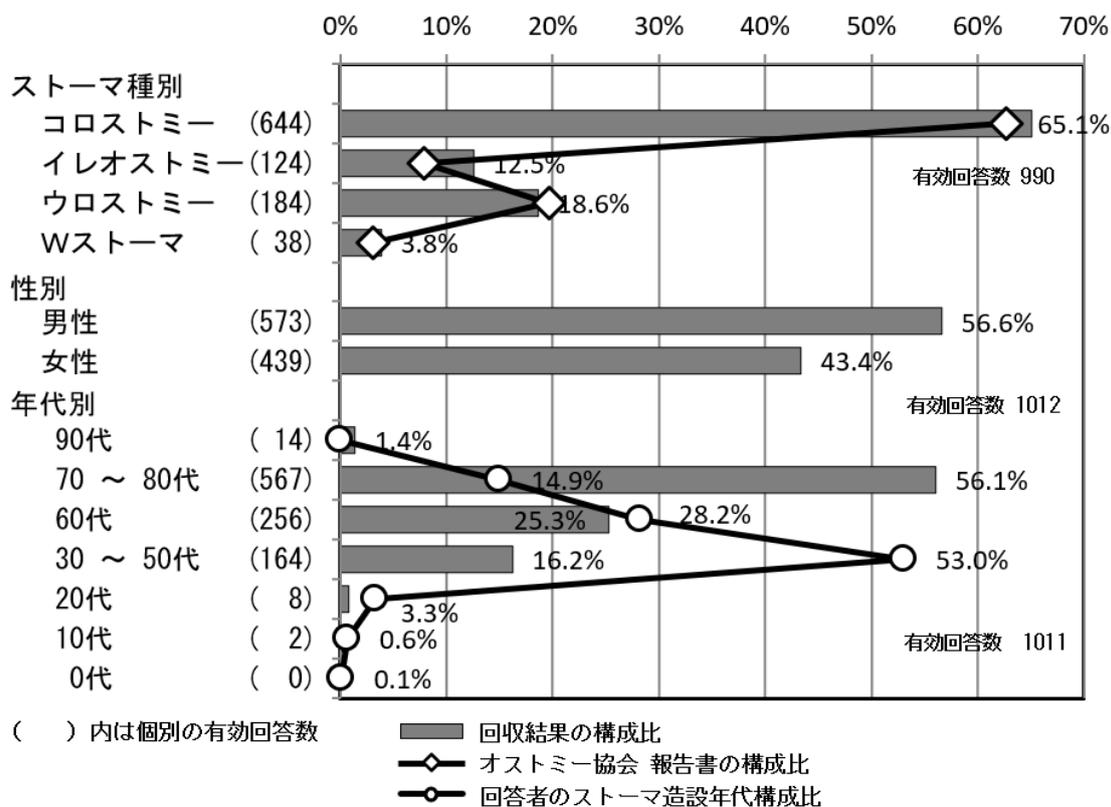


図17 回収結果

表6 アンケート調査の概要

1. 調査対象
調査は、無作為抽出した日本オストミー協会会員2000名を対象とした。
2. 調査方法
調査票を日本オストミー協会本部から全国の各支部（58支部）の会員へ配布し、各会員から郵送で調査票を回収した。調査票は無記名とし、住所は都道府県のみとし、個人を特定できないよう配慮した。
3. 調査内容
調査票は4枚構成とし、設問項目は以下のように設定した。
 - (1) 回答者の日常生活に関する設問（調査票1枚目）
 - ・基本情報
居住地域（都道府県）、性別、年齢、車いす使用有無、身長、ストーマ種別、ストーマ造設経験年数
 - ・外出について
安心して外出した時期、外出頻度、外出目的、外出時に持参する用品
 - ・自宅での排泄
使用する便器、洗腸（大腸内のものを強制的に流し出す行為）の有無
 - (2) 外出先での排泄についての設問（調査票2枚目）
 - ・頻度
排便／排尿のみの頻度、ストーマ装具交換頻度、腹部ケア（お腹を洗う／お腹を拭く）の頻度、トラブル処理頻度
 - ・処理時間
排便／排尿の処理時間、ストーマ装具交換時間、腹部ケア（お腹を洗う／お腹を拭く）の処理時間、トラブル処理時間
 - ・トラブル処理
トラブル時の具体的な行為、トラブル処理の場所
 - ・外出先でトイレを使用する施設
日常使用しているトイレのある施設、トイレを必用とする施設、オストメイトマークの認知、トイレでクレームを受けた経験の有無、トイレで気が引けた経験の有無
 - (3) 外出先のトイレで行う行為（調査票3枚目）
 - ・日常で一番よく使うトイレの種類とその理由
選択肢は、多機能便房、オストメイト用設備を有する便房、簡易型便房、一般便房
 - ・トイレ内での行為について
多機能便房（オストメイト用設備を有する便房）、一般便房に分けて行為を確認。また、選択肢とした行為には、汚物を捨てる～装具交換～腹部のケア等も含めた。
 - ・自由記述欄
行為に関するコメントを記載する欄を設け、選択肢とした行為とは異なる場合の回答に備えた。
 - (4) 外出先で使用するトイレの設備、機能について（調査票4枚目）
 - ・外出先で使うトイレの設備について
排泄処理をする設備、その設備の満足度とその理由、外出先で使う設備の機能（器具）を確認
 - ・シャワー機能について
シャワーの必用度と使用用途を確認
 - ・汚物流しの高さについて
高さ調整機能の必用度を確認
 - ・温水について
温水設備の必用度と、使用するお湯の量について確認
 - ・オストメイト用設備の困り事について
オストメイト用設備の個別機能（器具）について、困り事がある機能を確認。またその理由等について自由記述欄を設定して確認した。
4. 分析手法
結果の単純集計に加え、クロス集計、独立性の検定を実施した。
5. 調査期間：2015年9月～10月

3-2 外出の頻度と目的

本節では、アンケート調査票の1枚目（回答者の日常生活に関する設問）の、外出に関する設問結果をまとめた。

3-2-1 外出頻度

オストメイトの外出頻度（下図）は、週に複数回以上外出する人が87.8%。で、その内、毎日外出する人が56.5%、週に2回以上外出する人が31.3%であった。

尚、図18のN=939はアンケート回答の有効回答数を表す。

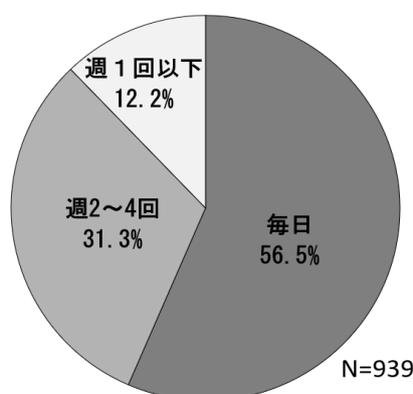


図18 オストメイトの外出頻度

3-2-2 安心して外出した時期

オストメイトは大腸癌等の疾患が原因で、腹部にストーマを造設する手術を受けており、その後のリハビリテーションによって外出する時期には個人差がある。

(1) 安心して外出した時期に関する集計結果

安心して外出した時期について設問した結果（図19）、2ヶ月以内に外出した人が一番多かった。しかし、イレオストミーやWストーマの人は1年以上かかった人の比率も高く、オストメイトの大半が安心して外出するまでには、2ヶ月以上かかるとも言える。

(2) 安心して外出した時期に関するコメント

アンケート調査の自由回答欄にあった安心して外出した時期に関するコメントを表7にまとめた。コメントには、下痢、便の調子、旅行等、トイレの事が心配で外出できない人の他、排泄に起因すると考えられる外出不安が多く見られた。

尚、アンケート調査の自由回答欄にコメントを記入した回答者は36名で、表7はその抜粋である。

また、表7の回答番号とは、郵送で返信されたアンケート調査票を届いた順に番号を振り分けたもので、S0001は一番最初に届いたアンケート調査票の回答者を表す。

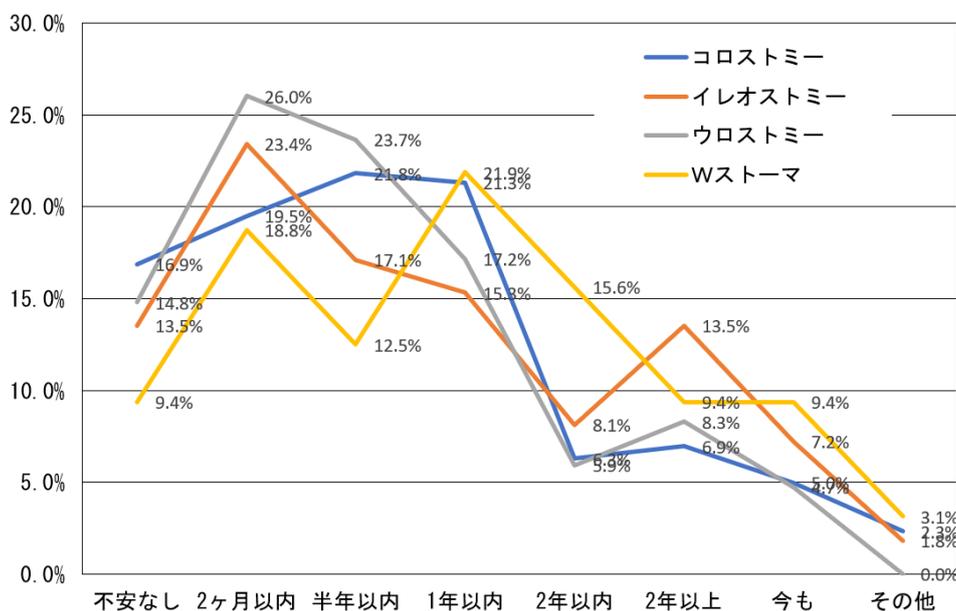


図19 ストーマ造設の手術後に安心して外出する時期

表7 安心して外出した時期に関するアンケート調査コメント

回答番号 性別	ストーマ種別 年代 経験年数	コメント(総数36)
<今も不安である(42%)>		
S0615 女性	コロストミー 30~50代 5年	安心してはいない。仕方なく気をだして外出している
S0315 男性	コロストミー 30~50代 6年	今も不安はある。安心はできない
S0890 女性	コロストミー 70~80代 18年	トイレの事が心配でいつも便利な所を選ぶ
S0170 女性	Wストーマ 70~80代 23年	外出はすぐにしましたが 現在も不安は何時もあります
<その他>		
S0817 女性	コロストミー 70~80代 12年	最近出先のトイレが良くなり前ほど気にならなくなった
S0783 男性	コロストミー 60代 9年	車で30分の近場は最初から。遠方は半年後から徐々に。

3-2-3 外出目的

外出の目的（下図）は、買物、通院、趣味の順に、全属性の40%以上の方が回答したが、仕事、旅行については年代で異なる。特に30から50代の方は、仕事目的の外出が70%以上であった。

尚、図中のカッコ内の数字は、それぞれの属性（年代）の有効回答数を表す。

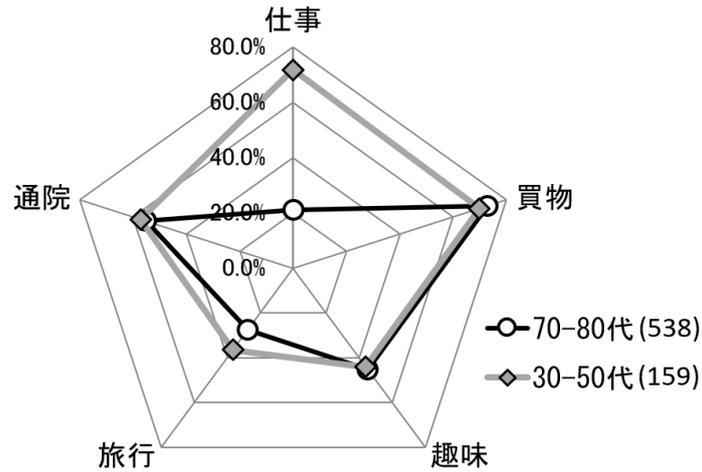


図 20 外出目的の年代別内訳

また、設問の選択肢にはなかったが、自由記述欄に記入されたコメントとして、30代から50代の方には、ウォーキング(10)、60代以上の高齢者にはボランティア(20)などもあがっていた。

3-3 トイレ使用頻度と使用時間

健常者とは異なる排泄方法が想定されるオストメイトの排泄頻度や時間の構成比率を知ることが、オストメイト対応トイレやオストメイト用設備を公共トイレに配置する検討を行う場合の目安ともなる。本節では、アンケート調査票の2枚目（回答者の外出先での排泄に関する設問）の設問結果の分析で、オストメイトの公共トイレ利用に関する量的、時間的な実態をまとめた。

3-3-1 トイレ使用頻度

外出先のトイレで行う行為と頻度についての属性別集計結果を図21にまとめた。

(1) 全属性についての集計結果

図の上段は、外出先でのトイレ使用頻度についての全属性の集計結果であり、1日1回以上排泄する人（図の横棒）、週に1回以上装具交換する人（図の■印）、半年に1回以上トラブルがあった人（図の○印）の比率を表したものである。

外出先での排泄トイレ使用頻度では、オストメイトの68.6%の人が1日1回以上、外出先で排泄をしており、外出先で毎日、トイレを使用している人がオストメイト全体の7割は存在していた。さらに、排泄だけでなく、週に1回以上は装具も交換する人は、オストメイト全体の41.7%となっていた。つまり、オストメイトの4割程度は、外出先で排泄に加えて装具交換等、健常者にはない行為をトイレ内で行っていた。

また、腹部のストーマ装具がズレて汚物が漏れる等のトラブルは、オストメイト全体の6割（59.9%）が半年に1回以上は経験していた。

(2) 属性別内訳

図の下段は、1日1回以上排泄する人（図の横棒）、週に1回以上装具を交換する人（図の■印）、半年に1回以上トラブルがあった人（図の○印）の比率を属性別にグラフ化したものである。以下、属性別に結果を述べる。

ストーマ種別では、コロストミーの頻度が60.9%で他のストーマ種別の人より相対的にトイレ使用頻度が低い。コロストミーには洗腸（5-3-2で後述）という行為があり、自宅でまとめて排泄処理をしておけば1から2日程度は外出先での排泄が不用となる人もいるため、コロストミーの人の外出先のトイレ使用頻度が低くなっていることも推察される。逆にイレオストミーの91%は外出先で毎日トイレを使用しており、頻度は高い。また、ウロストミーの場合、外出先トイレでの排泄、装具交換の頻度は他の属性と比較して特徴がないが、トラブル頻度が他の属性より低い。ウロストミーの外出先トイレ使用は、他の属性と比べて相対的に安定した処理行為であることがうかがえる。

性別では、装具交換やトラブルの頻度は男性が10%程度高いことがわかった。

年代別では70～80代の人比率が少し低く、年代が若いほど外出先トイレ使用頻度が高くなる傾向が見られる。しかし、30～50代の方は外出先トイレでの排泄頻度が一番高い(83.9%)にもかかわらず、装具交換頻度が30%に止まっており、他の年代(40%以上)とは異なった傾向があることが確認できた。

尚、属性別の便房内各行為の有効回答数内訳は、別途、表8にまとめた。

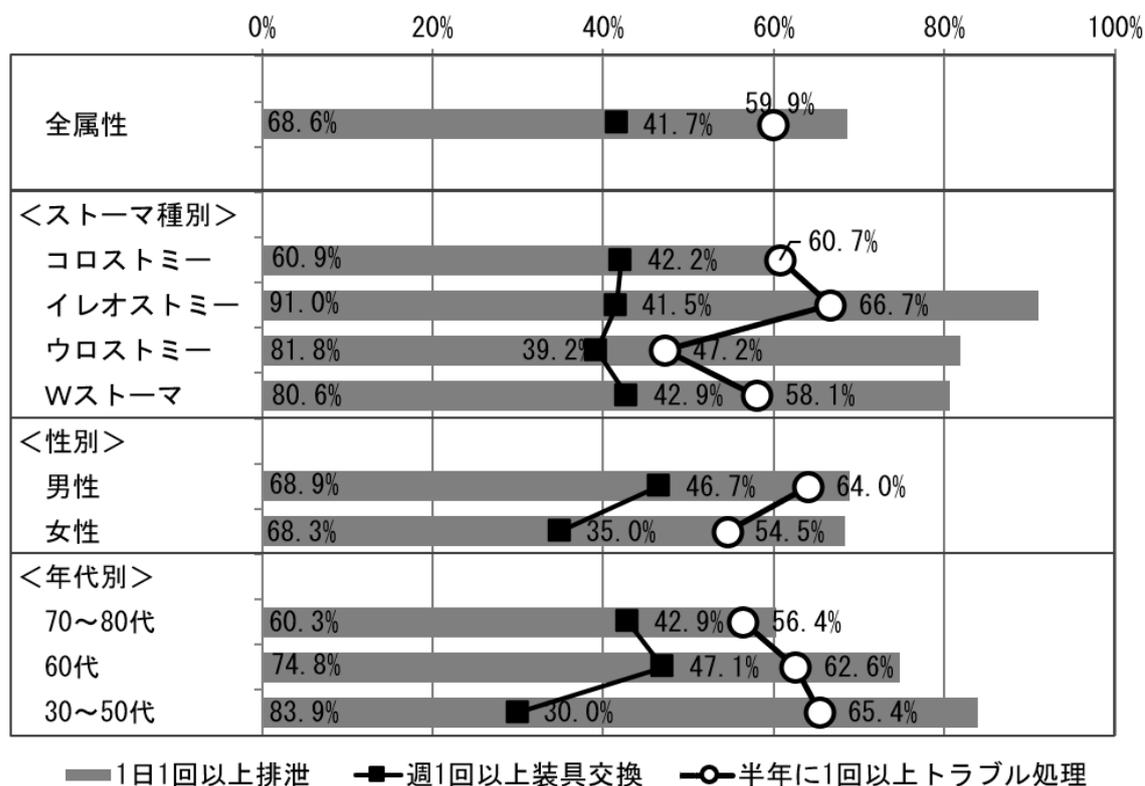


図 21 外出先での排泄・装具交換・トラブルの頻度

表 8 属性別の便房内各行為の有効回答数内訳

	1日1回以上 排泄	週1回以上 装具交換	半年に1回以上 トラブル処理	排泄頻度 回答者	装具交換頻度 回答者	トラブル処理 頻度回答者
全属性	579	337	464	844	809	775
＜ストーマ種別＞						
コロストミー	354	232	334	581	550	550
イレオストミー	101	44	70	111	106	105
ウロストミー	99	49	42	121	125	89
Wストーマ	25	12	18	31	28	31
＜性別＞						
男性	325	216	281	472	463	439
女性	254	121	183	372	346	336
＜年代別＞						
70～80代	277	188	232	459	438	411
60代	172	104	132	230	221	211
30～50代	130	45	100	155	150	153

3-3-2 トイレ使用時間

外出先のトイレで行う行為と時間についての属性別集計結果を図 22 にまとめた。

(1) 全属性についての集計結果

図の上段は、外出先でのトイレ使用時間についての全属性の集計結果であり、排泄に 10 分以上かかる人（図の横棒）、排泄と装具交換に 10 分以上かかる人（図の◆印）、トラブル処理で 10 分以上かかる人の比率を全属性でまとめたものである。

排泄のみで 10 分超の時間がかかる人の比率は 18.7%であるが、装具の交換行為が加わると、10 分超が 51.9%を占め、時間がかかっている比率が増える。さらにトラブル処理では、10 分超の時間がかかっている人が 64.8%となっている。排泄のみだと短時間で終わるが、装具交換やトラブル処理の行為が加わると 10 分を超え、トイレ内の行為で時間がかかる人がオストメイトの大半を占めていることがわかった。

(2) 属性別内訳

図の下段は、排泄に 10 分以上かかる人（図の横棒）、排泄と装具交換に 10 分以上かかる人（図の◆印）、トラブル処理で 10 分以上かかる人の比率を属性別にグラフ化したものである。以下、属性別に結果を述べる。

ストーマ種別では、コロストミー、イレオストミー、ウロストミーと、軟便、水様便になるほど排泄時間が短い傾向にあるが、イレオストミーの場合、装具交換やトラブル処理では他の属性より時間がかかる傾向が読み取れた。コロストミーやウロストミーの排泄物は一般健常者に近いものであるが、イレオストミーの排泄物は小腸から直接出てくるものであり、他の属性とは皮膚に触れた時の状況が異なっており、そのような事情もあることが推察される。

性別では、排泄にかかる時間（10 分超）が男性に多いことがわかる。

年代別では、若い世代ほど排泄処理時間が短い傾向にあるが、逆に装具交換やトラブル処理の時間では、特に 30～50 代の人が高時間がかかっていることが読み取れた。

外出先でのトイレ使用行為が排泄のみに止まらない場合、イレオストミーや 30～50 代の人が高時間がかかることがわかった。

尚、属性別の便房内各行為時間の有効回答数内訳は、別途、表 9 にまとめた。

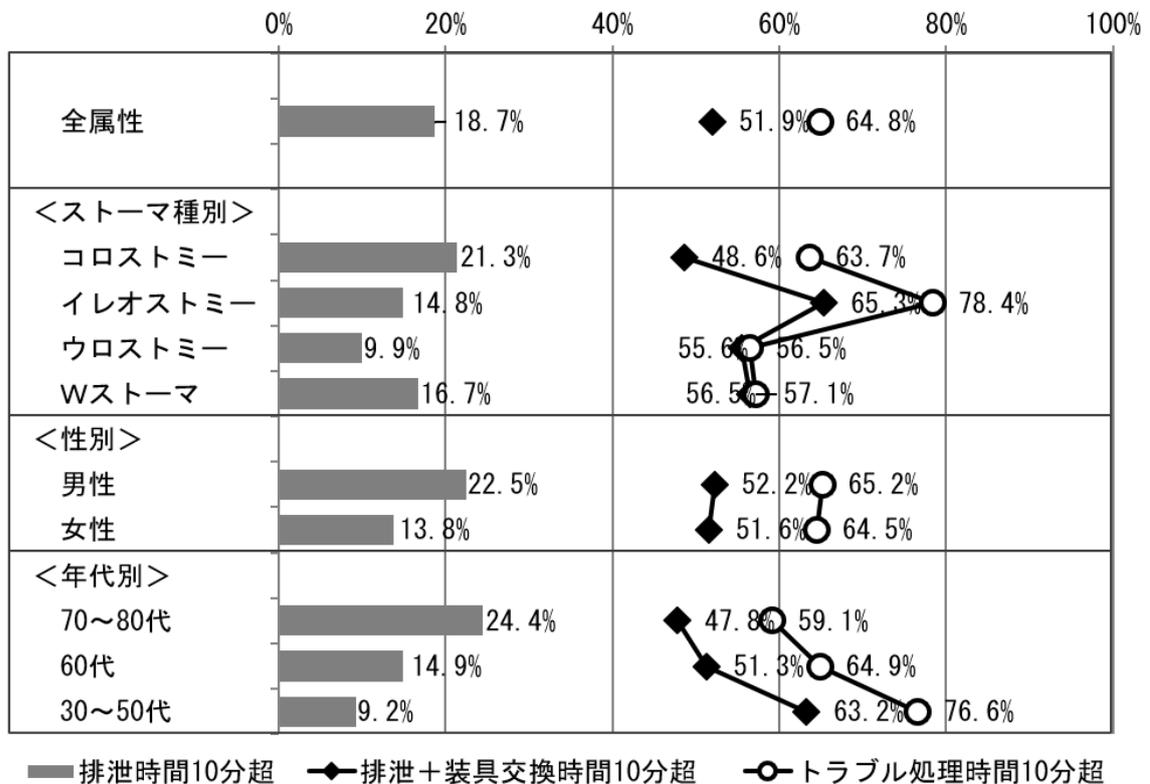


図 22 外出先でのトイレ使用時間とトラブル処理時間(10分以上の比率)

表 9 属性別の便房内各行為時間の有効回答数内訳

	排泄時間10分超	排泄+装具交換時間	トラブル処理時間10分超	排泄時間回答者	排泄+装具交換時間回答者	トラブル処理時間回答者
全属性	143	295	343	765	568	529
<ストーマ種別>						
コロストミー	112	198	247	526	407	388
イレオストミー	16	49	58	108	75	74
ウロストミー	10	35	26	101	63	46
Wストーマ	5	13	12	30	23	21
<性別>						
男性	97	163	187	431	312	287
女性	46	132	156	334	256	242
<年代別>						
70~80代	97	140	152	398	293	257
60代	32	81	96	215	158	148
30~50代	14	74	95	152	117	124

3-4 トイレを必要としている施設（建物用途）

本節は、アンケート調査票の2枚目（回答者の外出先での排泄に関する設問）を設問した結果を分析したものである。

尚、オストメイトが日頃使用している施設のトイレは、必ずしもオストメイトの必要ニーズを満たしたものであるとは限らないことも考えられる。そこで設問では、日常使用しているトイレのある施設と、トイレを必要とする施設の両方について選択肢を設けた。

3-4-1 トイレを必要としている施設の全体像

オストメイトが日常、トイレを使用している施設と、トイレを必要とする施設について、下図に全属性のアンケート集計結果をまとめた。アンケートでは、22施設を選択肢としたが、下図ではその内、回答数の多い14施設をグラフ化している。図の◆印は、回答者全体が日常使用している施設として選択した施設の回答率を表し、○印が必要施設として選択した施設の回答率を表した。日常使用施設は、回答率の高い順に、病院、スーパー、百貨店、旅客施設と続き、その次が飲食店、コンビニ、ホテルの順となるが、必要施設は、病院、スーパー、旅客施設、百貨店の次がホテル、役所の順であった。しかし、回答者の年代別の内訳は、70～80代が358人、60代が191人、30～50代が134人であり、施設別の回答率は、70～80代の高齢者の影響が大きいことがうかがえた。

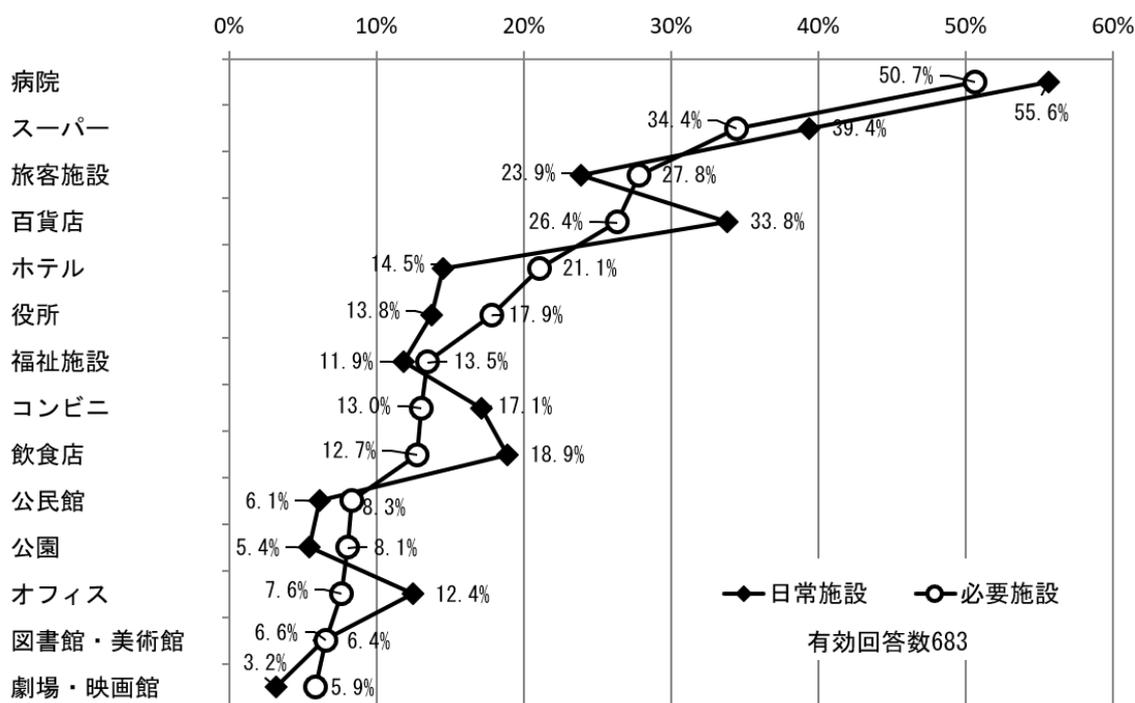


図23 日常使用施設とトイレが必要な施設

3-4-2 年代で異なる施設用途別回答率

下図は、回答率の高い7施設にさらに絞り、日常使用施設と必要施設について、年代別に回答率をまとめたものである。図の○印が30代から50代、■印が60代、◆印が70代から80代の年代別の回答率を表わしている。

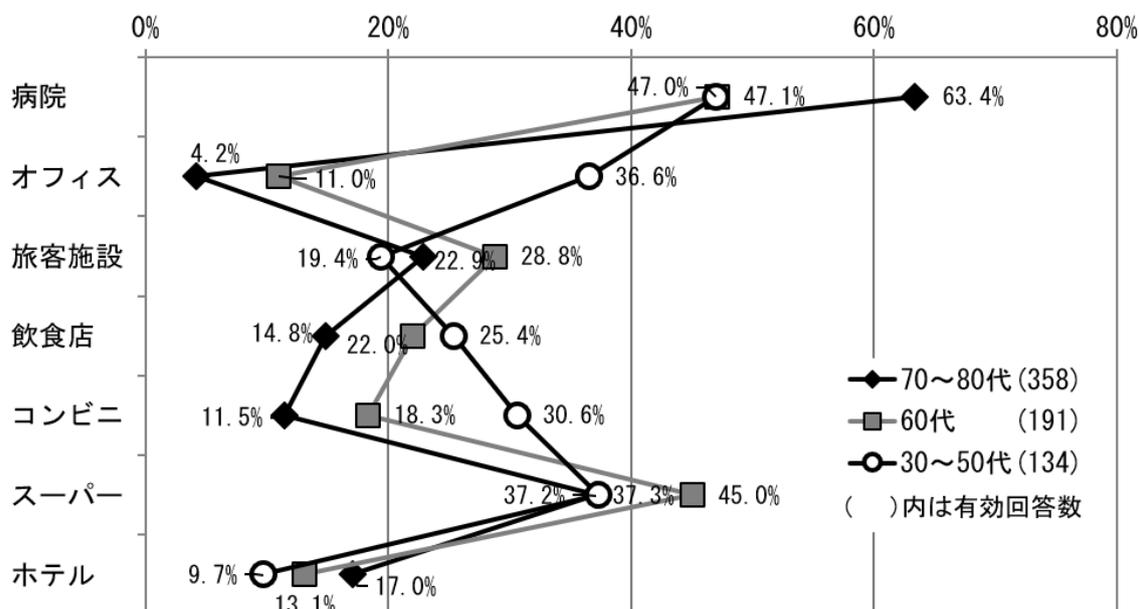


図 24 日常使用施設の年代別回答率

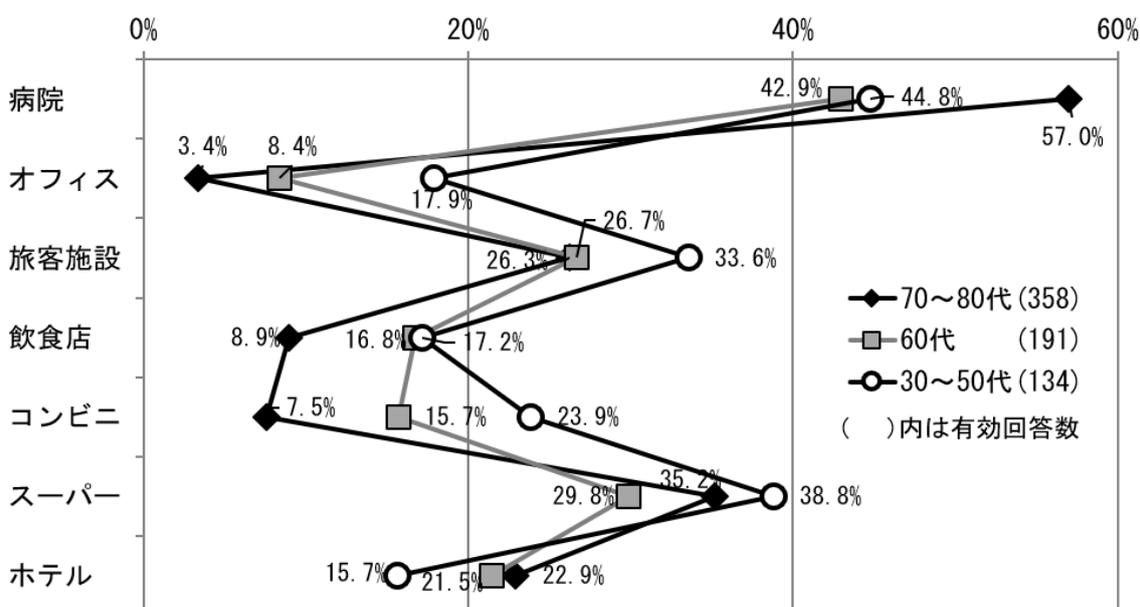


図 25 トイレを必要とする施設（必要施設）の年代別回答率

日常使用施設の年代別回答率では、60代と70～80代がそれぞれ病院、スーパーで高い比率を示している他は、オフィスから旅客施設、飲食店、コンビニまで類似した順位と比率で推移しているのに対し、30～50代は全く異なる比率を示している。30～50代は病院、スーパーの次にオフィス、コンビニ、飲食店の順に高い比率を示していた。

また、必要施設の年代別回答率では、70～80代が病院の回答率が他の年代より高く、60代が飲食店、コンビニの回答率が70～80代と比較して高い傾向がみられるが、30～50代はオフィス、コンビニの比率が他の年代より依然として高い他、旅客施設、スーパーの比率が高くなっていった。オフィス、コンビニ、旅客施設、スーパーは、30～50代が他の年代とは異なった外出活動（就労等）を行う結果であるとも考えられる。

尚、施設と年代別の内訳を下表にまとめた。

表 10 日常施設と必要施設の年代別内訳

	日常、トイレを使用する施設			トイレが必要な施設		
	70～80代	60代	30～50代	70～80代	60代	30～50代
病院	63.4%	47.1%	47.0%	57.0%	42.9%	44.8%
オフィス	4.2%	11.0%	36.6%	3.4%	8.4%	17.9%
旅客施設	22.9%	28.8%	19.4%	26.3%	26.7%	33.6%
飲食店	14.8%	22.0%	25.4%	8.9%	16.8%	17.2%
コンビニ	11.5%	18.3%	30.6%	7.5%	15.7%	23.9%
スーパー	37.2%	45.0%	37.3%	35.2%	29.8%	38.8%
ホテル	17.0%	13.1%	9.7%	22.9%	21.5%	15.7%

3-4-3 必要施設に関する独立性の検定

オストメイトがトイレを必要とする施設について、30代から50代と、70代から80代の年代毎に有意差があるかを確認するため、独立性の検定を行った。帰無仮説は「年代別で必要とする施設(コンビニ、オフィス)に差はない」とした結果、有意確率は有意水準0.05を下回ったことで有意差があり、帰無仮説は棄却され、コンビニとオフィスのトイレ必要度が年代で異なることが確認された(下表)。

表 11 コンビニとオフィスのトイレの必要性に関する独立性検定結果

属性項目	設問項目	自由度 (ϕ)	統計量 (χ^2)	有意水準 (α)	有意確率 (P値)	帰無仮説 (H_0)
年代別	コンビニのトイレの必要性	1	27.20	0.05	0.000	棄却される
年代別	オフィスのトイレの必要性	1	40.25	0.05	0.000	棄却される

3-4-4 ヒヤリング調査

本稿では、アンケート調査では得られなかった情報を補うための補足調査として、ヒヤリング調査も実施している。ヒヤリング調査の概要は表9のとおりである。また、面談にあたっては、対象者が全ての属性（ストーマ種別、性別、年代）になるように配慮し、コロストミーの方11名、イレオストミーの方7名、ウロストミーの方2名、Wストーマの方3名の、計23名の方について行った。また、年代では、アンケート回答者数が他の年代に比べて少ないが、トイレの使用頻度が高く、装具交換等では得に時間もかかっていた30代から50代の人をできるだけ多く取材した（30代から50代の人9名、60代が9名、70代～80代の方が5名）。

尚、N01は、一番最初に面談ヒヤリングした人を表すようにした。

表12 ヒヤリング調査の概要

<p>1. 調査対象 面談可能な日本オストミー協会会員23人。</p> <p>2. 調査方法 予め調査票等で質問事項を準備し、面談者が指定する日時場所に訪問し、面談による調査を実施した。</p> <p>3. 調査内容 調査は、アンケート調査の質問項目に加え、トイレに持ち込んでいる小物類の現物や困り事に関する詳しい内容等を質問し、記録した。</p> <p>4. 所要時間 面談者の負担にならないよう、60分から90分で全ての調査を完了させた。</p> <p>5. 面談場所 日本オストミー協会事務所や、面談者のご自宅近くの福祉施設等を利用した。</p> <p>6. 実施期間 2015年9月～2018年2月に行った。</p>
--

ヒヤリング調査を実施した23名のオストメイトの方の属性別内訳は表10のとおりである。ヒヤリング調査面談者は、日本オストミー協会から斡旋していただいたが、30代から50代の人には仕事目的での外出が多く、アンケート調査結果と同じく、トイレが必要な建物用途として、オフィスやコンビニなどをあげた人が多数存在した

尚、ヒヤリング調査面談者の内訳は、巻末に一覧表としてまとめている。

3-4-5 トイレが必要な施設に関するコメント

表13では、トイレを必要とする施設用途について、アンケート調査票の自由記入欄で得たコメントに加え、30代から60代にヒヤリングした結果を下表にまとめた。いずれの調査でも、病院、スーパー、旅客施設、コンビニ、ホテル等、様々な施設で、オストメイトが使うトイレの数が足りていないというコメントが得られた。

尚、トイレを必要とする施設用途についてのアンケート調査票の設問では、全部で23件のコメントがあったが、この内、具体的な文で説明があったものを記載した。

表13 施設に関するコメント

回答番号 性別	ストーマ種別 年代 経験年数	コメント(総数23)
<病院/スーパー>		
S0615 女性	コロストミー 30~50代 5年	病院はもっと沢山、スーパーは全部にトイレが必要。 (日常は多機能便房使用)
N17 女性	イレオストミー 60代 42年	オストメイト対応トイレがある施設を探して使う。いつも行くスーパー(中規模)にはあるが、同じ規模でもないところが多い。 (日常は多機能便房使用)
<オフィス>		
S0116 女性	コロストミー 30~50代 2年	オフィスは一番必要だけれども、ない。 (日常は一般便房を使用)
<ホテル>		
S0140 男性	イレオストミー 30~50代 6年	どこも安心して使えれば装具交換のために貸切温泉やビジネスホテルに行く必要なく旅行や外出しやすい(日常は多機能便房使用)
<旅客施設>		
S0799 女性	コロストミー 60代 24年	旅客施設には障害者用トイレは絶対必要。時間がかかり、他の人に迷惑になってしまうので。(日常は一般便房使用)
<コンビニ>		
N13 女性	イレオストミー 30~50代 3年	休日のウォーキングで、途中1km毎にコンビニにトイレがあると助かる。(日常は一般便房使用)
N17 女性	イレオストミー 60代 42年	田舎の駅やコンビニにもあると安心して遠出ができる。 (日常は多機能便房使用)

3-5 トイレが必要な施設等に関する事例

本章ではオストメイトの外出先トイレの使用頻度や時間、使用する施設等について分析した。この中で特にトイレの使用頻度が高く、時間がかかっている就労世代の人が、日常生活でトイレを使用する実態についての具体例を以下にまとめた。排泄の頻度は非常に多いが、仕事や趣味に活発に活動されている、50代女性(面談者N13)のヒヤリング結果である。

3-5-1 面談者(N13)の日常とトイレ利用施設

- ・基本情報：イレオストミー, 女性, 50代, 身長160cm, ストーマ造設後3年
- ・安心外出：手術後半年、今は毎日外出
- ・外出目的：仕事(保育士)、趣味(ウォーキング。スポーツジム通い)
- ・排泄頻度：1日10回以上(1.5時間に1回)
- ・排泄時間：10分以内(トラブル：3~4ヶ月に1回経験)
- ・使用便房：一般便房(多機能もあれば使う)
- ・日常施設：オフィス(職場)、公民館、旅客施設
- ・必要施設：役所、公民館(スポーツジム)、コンビニ
- ・必要設備：洋式便器、汚物流し、棚、ペーパー、荷物置き台、便器前スペース
- ・取材日：2016年10月23日

3-5-2 便房使用状況(ヒヤリング時のコメント要旨)

(1) 職場での便房使用状況

図26は、面談者N13の1日のトイレ使用状況を、ご本人に書いていただいたものである。この方は平日、2ヶ所の保育所を掛け持ちで働いておられ、かなり忙しい状況であるが、その間のトイレの回数は、1日10回は軽く超えており、トイレでの排泄もかなり頻繁に行っている。仕事ではご自身がトイレ掃除も担当していることから、職場のトイレを自由に使い、1.5時間に10分程度の排泄があっても、就労は支障なくできている。しかしそのために、頻度の高い排泄を仕事に支障がないよう意識して管理し、工夫している。

以下はご本人のコメントの要旨である。

「あれば汚物流しのあるトイレを使うが、なければ一般便房を使う。勤め先(保育所)のトイレ(一般便房)で1日8回以上排泄している。トイレ掃除は自分の係りなので気兼ねなく使える。一般便房は、便器の前に中腰でかがめるスペースが必要。」

(2) 余暇での便房使用

趣味のウォーキングをしている時、いつもトイレがあるとは限らない。一定距離を移動すれば、確実にトイレのあるコンビニ等があれば、面談者N13の方のようにウォーキング等を趣味とする人にも、安定外出をバックアップする基盤となる。これは、公共交通機関

3-6 考察

以下のことから、特に配慮が必要な属性は就労世代のオストメイトであり、優先整備すべき建物用途（施設）は、オフィス等の仕事に直結する施設、コンビニ等の立地や利便性を求める施設であることがわかった。

就労世代、就労者を対象としたバリアフリー指針、法規はみあたらない。外出時のトイレ使用で特に困っている世代は就労世代であり、また、必要とする施設がコンビニやオフィス等、バリアフリー関連法規では基準のない施設でもあることから、何らかの整備指針は必要である。

3-6-1 トイレ利用の実態と特に配慮が必要な属性

外出先で1日に1回以上排泄するオストメイトの方の比率は、イレオストミーに限ると91.0%、半年に1回以上のトラブル経験は66.7%であり、他のストーマ種別の人と比べると特に高かった。また、年代では30代から50代の若い世代に排泄とトラブルの頻度が高い傾向にある一方、週1回以上装具交換する比率は低いことがわかった。

就労中の場合、頻繁にトイレを使うことには時間的な制約が多い。しかし就労世代やイレオストミーの方は外出時の排泄頻度は高く、排泄のみだと時間は短い、装具交換、トラブル時には他の年代より時間がかかっていた。装具交換は日常生活用具給付事業の給付額の制限もあって3日に1回程度の人が多いが、就労世代が外出先で装具交換するのは30%程度であり、他の世代(40%以上)より明らかに少ない。結局外出時・就労時のトイレ使用時間を減らすため、トイレ使用は排泄のみに留めてこまめに排泄し、装具交換やトラブルで時間をかけない工夫をして、あとは自宅で処理するしかない人が多いことが推察される。30～50代の就労世代とイレオストミーの方は、外出時のトイレ使用で最も困っている人ではないかと考える。

3-6-2 優先整備すべき建物用途

本調査ではオストメイトの9割が、週2回以上外出していることが判明した。特に30代から50代のオストメイトは、就労による外出頻度が高い(7割)。結果、オストメイトがオストメイト対応設備を必要としている施設は、利用頻度や障害の特性にも起因して、病院、スーパー、旅客施設の順に回答率が高い。オストメイトの過半は、30代から50代でストーマを造設している。以上の結果から、オストメイトはストーマ造設後も引き続き外出頻度、トイレ使用頻度が高く、一般便房を含めたオストメイト対応トイレ整備の必要性が高い。

本調査からは、オフィスや旅客施設等、仕事に直結する施設、コンビニやスーパー等、立地や利便性を求める施設に整備が必要とみなせる。

第四章 属性別の便房ニーズ

オストメイトは、車いす使用者や子ども連れの方とは異なり、外見上は健常者とほとんど見分けがつかない。オストメイトのトイレ使用では、外見上からはトイレ使用の困難さを押し量れないことが、逆に彼らの気苦労の元となっている。本章では、本来、オストメイトが使うべきトイレを使えないでいる実態を分析し、便房の使い分けの視点から、環境整備の進め方を考察する。

4-1 便房種別の利用者属性別使用比率内訳

本節では、アンケート調査票の3枚目（外出先のトイレで行う行為について）の、日常で一番よく使うトイレに関する設問結果をまとめた。

4-1-1 日常使用する便房の属性別比率

多機能便房、一般便房を日常使用している人について、それぞれの属性別比率を下図にまとめた。

ストーマ種別では、ウロストミーの方が一般便房を日常使用している比率（74.4%）が高く、性別では男性が多機能便房を使用している比率（24.4%）が高かった。

また、年代では60代以上で多機能便房使用比率（24.9%）が高い一方、30代から50代の方の8割近く（76.8%）は一般便房を日常使用していた。

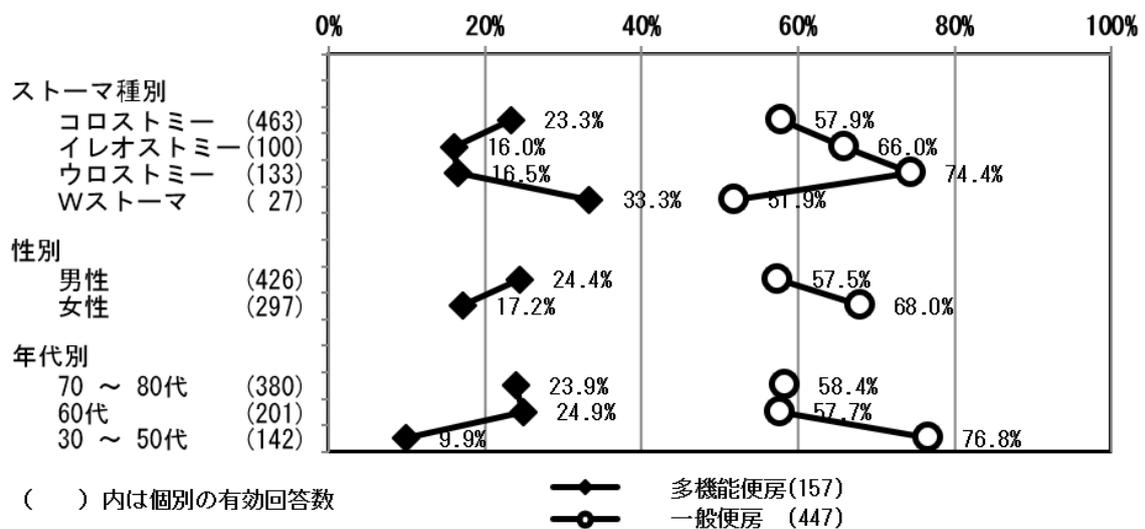


図 27 多機能便房、一般便房利用者の属性別内訳

4-1-2 日常使用する便所の属性別比率の違いに関する独立性の検定

多機能便所か一般便所を日常使用するオストメイトは、それぞれ属性別に差があるのかを確認するため、独立性の検定を行った。帰無仮説は「日常使用する便所が多機能便所か一般便所かは属性別に差はない」とした結果、共に有意確率は有意水準 0.05 を下回ったことで有意差があり、帰無仮説は棄却され(表 14)、多機能便所と一般便所の日常使用率が属性によって差があることが確認された。

表 14 日常使用する便所が多機能便所か一般便所に関する独立性検定の結果

属性項目	設問項目	自由度	統計量	有意水準	有意確率	帰無仮説
ストーマ種別	多機能便所か一般便所か	2	9.19	0.05	0.000	棄却される
性別	多機能便所か一般便所か	2	7.13	0.05	0.000	棄却される
年代別	多機能便所か一般便所か	2	16.75	0.05	0.000	棄却される

4-1-3 日常使用する便所を使う理由

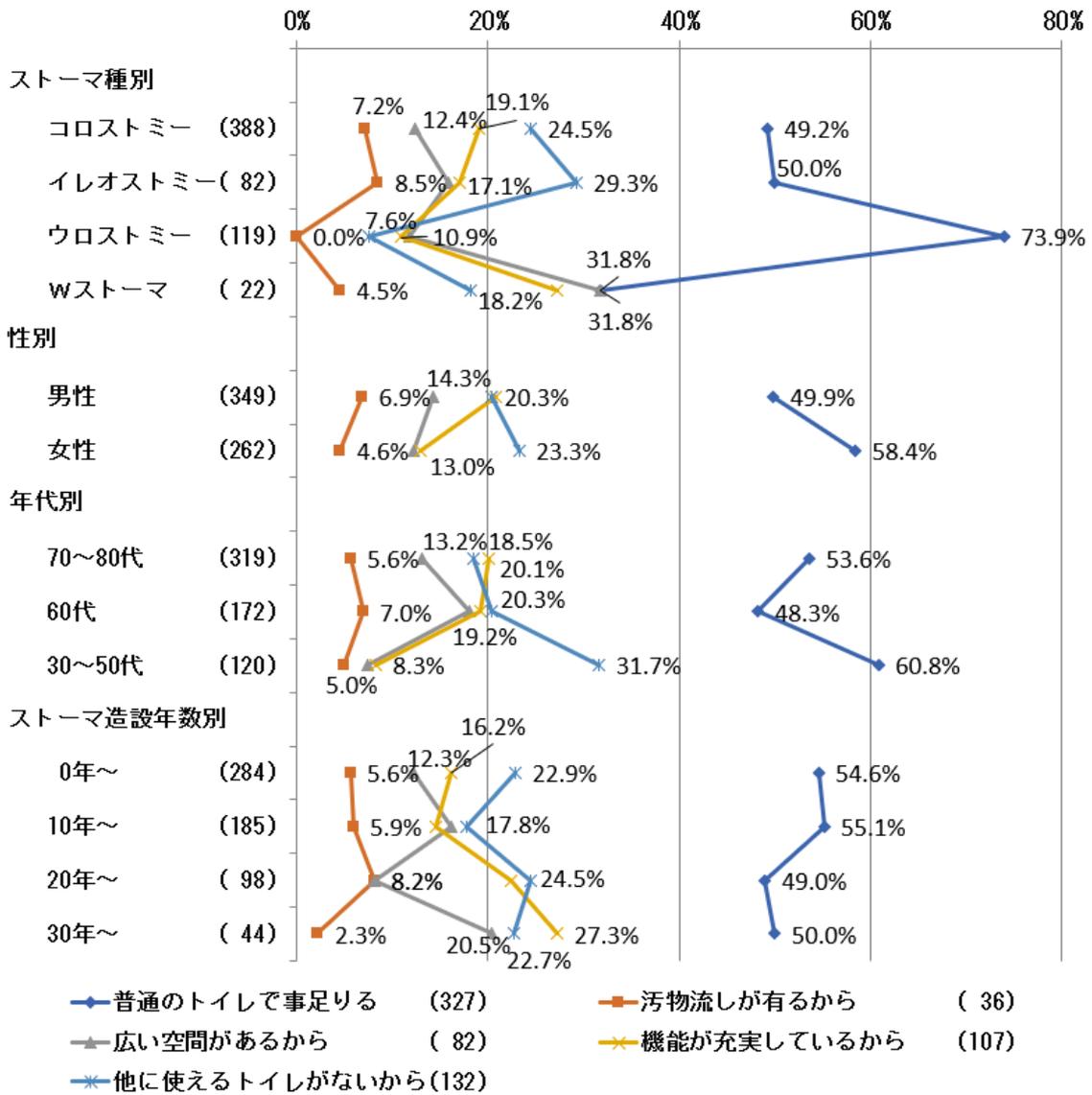
日常使用する理由について、7つの選択肢(普通のトイレで事足りる、汚物流しがあるから等)を設けて設問したところ、多機能便所か一般便所を使用している回答者からは、図 28 のように5つの選択肢についての属性別の回答率を得た。

一般便所を日常使用している人は、前項の図 27 の属性別内訳では60%前後であったが、図 31 では普通の(一般便所)トイレで事足りる人が50%前後であった。前項の図 30 では、ウロストミーの一般便所を使用する回答率が74.4%であったが、図 28 でも普通のトイレで事足りる人が73.9%となっていた。ウロストミーの排泄では、尿を捨てるだけで、不便を感じる人が少ないことも考えられる。

年代別では、30~50代の人で普通のトイレで事足りる人が60.8%である一方、他に使えるトイレがないからと答えた人が31.7%あり、他の年代より高い回答率を示していた。

また、ストーマを造設した年代では。造設の経験年数が20年を超え、経験を増すことで普通のトイレで事足りる人が少し減り、「機能が充実している」等、多機能便所選定の理由となる回答が増え、多機能便所利用の習慣化が進んでいることが推察される。

尚、「普通のトイレで事足りる」と回答するのは一般便所使用者であると考えていたが、実際には多機能便所使用者の回答もあったため、使用する便所とその理由の内訳を表にまとめた。「普通のトイレで事足りる」、「他に使えるトイレがないから」は一般便所使用者、「汚物流しがあるから」等は多機能便所使用者が大半であった。



()内は、属性、便房を利用する理由の選択肢それぞれの有効回答数を表す。

図 28 日常使用している便房を使う理由に関する属性別回答率(複数回答)

表 15 便房を使う理由回答者の使用便房有効回答数内訳

理由	多機能便房使用者	一般便房使用者	有効回答数 計
普通トイレで事足りる	4	323	327
汚物流しがあるから	34	2	36
広い空間があるから	74	8	82
機能が充実しているから	103	4	107
他に使えるトイレがないから	4	128	132

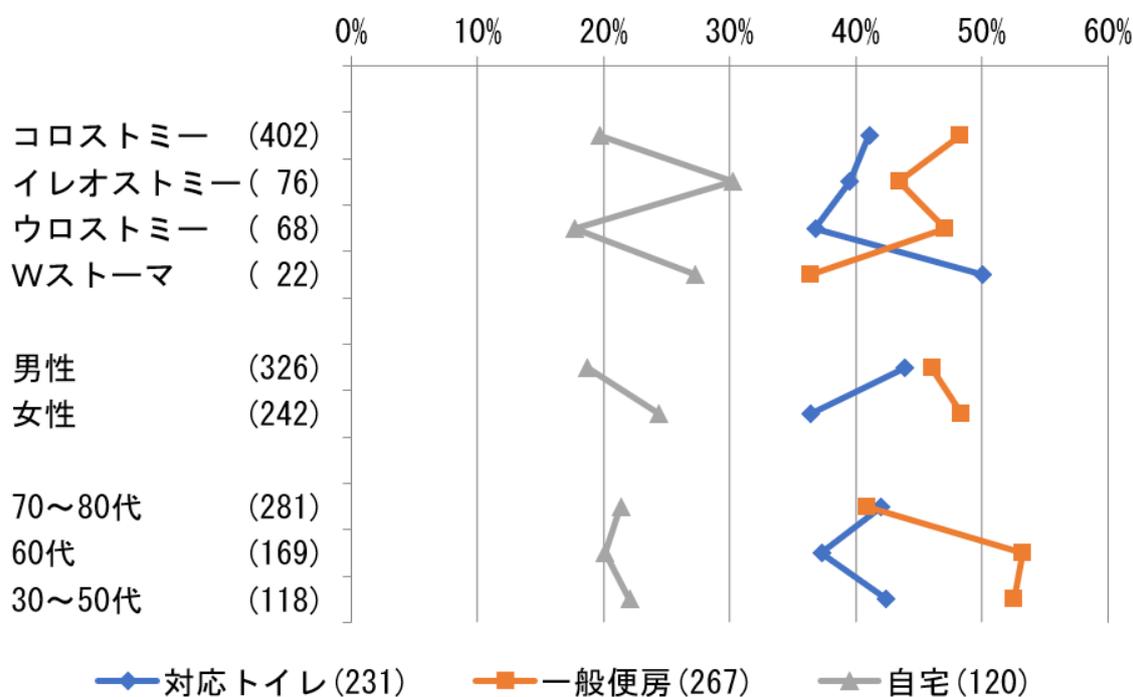
4-2 外出時のトラブル対処

オストメイトの外出は、身体特性上、パウチが破れる、ズレるといった、オストメイト特有のリスクを伴っている。第2節では、外出先でトラブルが発生した場合にオストメイトがトラブル対処した場所（便房の種類）や処理内容について分析した。

4-2-1 トラブル処理した場所

トラブルの経験があるオストメイトに対し、トラブル処理した場所について、オストメイト対応トイレ（多機能便房か専用便房）、一般便房、自宅、その他の選択肢を設けて設問した結果、下図の結果を得た（複数回答、有効回答数 568）。

回答率としては、全属性を通じ、概ね一般便房の比率が高く、次にオストメイト対応トイレ、自宅の順となっていた。しかし、複数回答であるので、身近にあった一般便房で全てのトラブル対処ができたかどうか、トラブル発生と同時に帰宅したかなどは、この結果からは定かでないが、オストメイト対応トイレ（多機能便房等）の回答率は40%前後であり、日常使用する多機能便房（図27）が20%前後であったことと照らし合わせると、トラブル時には確実にオストメイト対応トイレ使用比率が増えている。



()内は、各属性と設問選択肢の有効回答数を表す。

図29 外出先でトラブルを処理した場所（複数回答）

4-2-2 トラブル処理の内容

トラブルがあった場合、具体的にどのように処理したかについて、「そのまま自宅に帰った」、「手持ちのケア用品等で応急処理した」、「排泄処理、ストーマ装具交換と腹部のケアした」、「衣類も洗った」を選択肢として設問したところ、下図の回答を得た。

トラブル処理内容では、まず手持ちのケア用品を使って最寄りのトイレで処理する人が50%前後、その程度で済まない場合は、オストメイト対応トイレを探すか自宅で処理するしかないものと考えられる。自宅に帰って処理した人と、腹部を外出先トイレで洗った人の比率がどちらも30%前後。外出先で腹部を洗う処理ができるのであれば、自宅に直行することはなく、トラブル後も外出を継続できる。

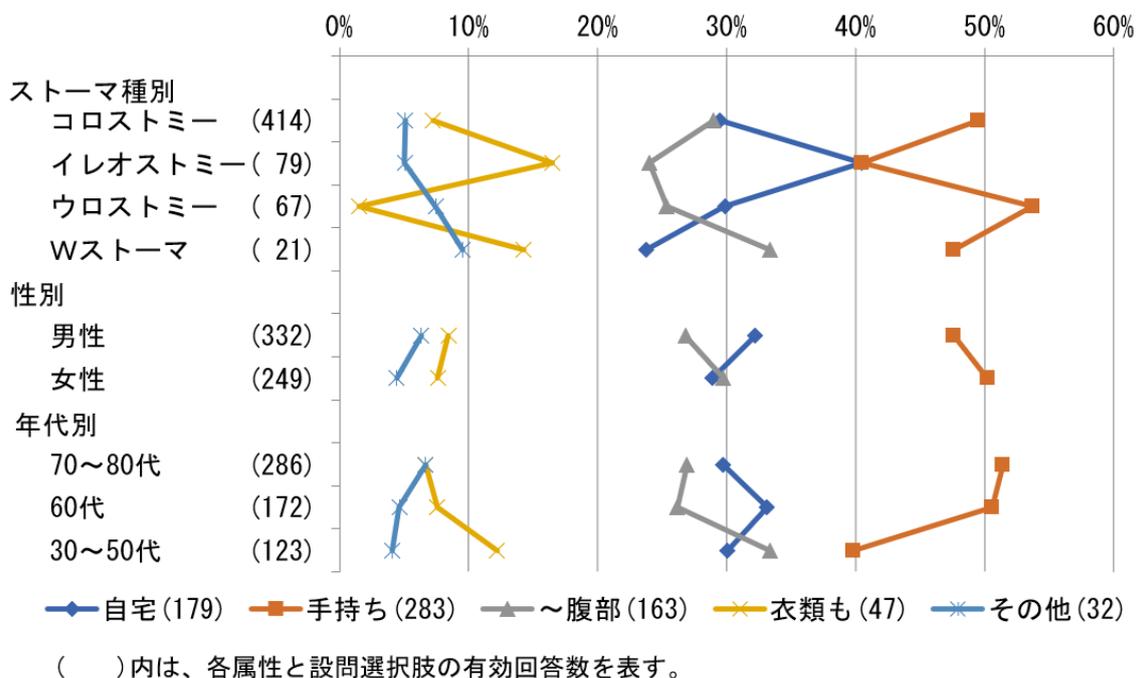


図 30 外出先でトラブルを処理した内容

4-2-3 トラブル事例に関するコメント

アンケート調査票の自由記述から得たコメントに、ヒヤリング調査で得たコメントも合わせてまとめた。

ヒヤリング調査の結果、外出時にトラブルが起きた場合について、二つの事例がある（表16）。また、アンケート調査票からも、トラブル処理について具体的に説明されたものがあったので、下表に合わせてまとめた。いずれの場合も、トラブルは施設内ではなく、移動中に発生していた。また、移動中に便が漏れていることに気がつくと、とにかく最寄りのトイレに駆け込むが、汚れた衣服を処理できる個室、腹部のケアができる設備がなければ、自宅でしか対処はできなかった。

尚、アンケート調査票でトラブルに関する何らかのコメント（単語のみも含む）があった人は、123名いた（トラブルなしというコメントは除く）。

表 16 トラブルの処理事例

回答番号 性別	ストーマ種別		コメント(総数123名)
	年代	経験年数	
＜応急処置をして自宅で処理した＞			
S0023 女性	コロストミー 30～50代	1年	装具を使った後にまた便もれし、45リットルのビニール袋を身体に巻きつけて帰宅したことがあります。
N15 女性	イレオストミー 30～50代	2年	暑い夏の日に路上で汚物が漏れて出てきた。靴にまでついたのが見えたので、近くにあったコンビニのトイレに駆け込んだ。それから知人の家に電話し、屋外の水道で衣類を洗わせてもらい、夫に車で迎えにきてもらって帰った。（日常は一般便房使用）
S0997 女性	コロストミー 70～80代	10年	漏れ出すのがわかるのですぐ家に帰った。トイレに入ってすぐ止まらず、ズボンやトイレマットを汚し、捨てた。
＜最寄りのトイレで処理した＞			
N13 女性	コロストミー 60代	3年	装具が破れたのでサービスエリアで止まり、多機能トイレで交換し、大型ベッドで着替えた。（日常は多機能便房使用）
S0867 男性	コロストミー 70～80代	13年	仕事帰り＜自宅まで1時間20分＞途中、便がいっぱい出てパウチがはずれ、衣類全部汚れ、途中のスーパーの障害者トイレで全裸になり処置した。専用でない障害者トイレでペットボトルを利用して処置した。

4-2-4 トラブル処理した場所に関するコメント

アンケート調査票の自由回答欄のトラブル処理した場所に関するコメントでは、最終的にトラブル処理した場所（施設または便房）について50件のコメントを得た。この内、コメントが多かった順は、自場所としてはこの他に、自宅12件、車内5件、親戚知人宅3件、ホテル3件、旅客施設3件、職場2件、スーパー2件、病院2件の他、草むら、コンビニ、商業施設、道路脇、道の駅、旅行先が各1件であった。

下表は、トラブル処理した場所に関するコメント50件の一部をまとめたものであるが、トラブルが起きると多機能トイレを探すというコメントが多く見られる。しかし、トラブル時に使える多機能トイレを見つけて、使ったというコメントは少なかった。

表17 アンケート調査自由回答欄のトラブル処理した場所に関するコメント

回答番号 性別	ストーマ種別 年代 経験年数	コメント(総数50)
<一般便房を使用 (12%)>		
S0457 男性	コロストミー 70~80代 27年	手持ちのケア用品で応急処理をして汚れた衣類はビニール袋に入れて持ち帰った。多機能トイレがあまりないので一般便房でしかできない。(一般便房使用)
S0391 女性	コロストミー 60代 16年	袋の一部が切れていたため、近くでセロテープ等を買って応急手当をして、なるべく早く帰宅した。(一般便房使用)
S0217 男性	ウロストミー 70~80代 3.3年	外出時 下着、ズボンの替えを常時持ち歩いている。汚れ物はビニール袋で持ち帰っている。(一般便房使用)
S0519 男性	コロストミー 60代 18年	多機能が近くにない時は一般トイレ(多機能便房、一般便房使用)
<多機能便房等を使用 (12%)>		
S0281 男性	コロストミー 70~80代 18年	衣類を洗った。多くなかったのでそのまま電車(15分)で家に帰った。たまたま多機能便房があったのでよかったが、ない場合は一般便房になる。(多機能便房使用)
S0189 女性	コロストミー 70~80代 7年	外出する時はかならず前日に新しく大丈夫の様に出かけます。近くなら自宅。いつもテープを持っているので、応急処置する。(多機能便房、専用便房、自宅)

4-3 相反するマーク認知度とトイレ利用意識

本節では、アンケート調査票の2枚目（外出先での排泄について）の、外出先で日頃使用しているトイレに関する設問結果をまとめた。

4-3-1 オストメイトマーク認知率とトイレ利用意識

オストメイトのオストメイトマーク認知率(下図)は、全属性を通じて89.1%と高く、マークがあるトイレがオストメイト対応トイレであることは理解されている。

2017年9月実施の世論調査では、障害者への周知度に関する調査結果で、オストメイトマークに関する周知度が14.1%となっている。一般の人とオストメイト当事者では、その認知度に大きな違いがあった。

オストメイト対応トイレで気が引ける人は、人工肛門（コロストミー45.2%、イレオストミー51.4%）の人、性別では女性が51.1%、年代では30代から50代の人（60.1%）に多かった。

また、トイレを出た時に、「遅い」と言われたなど、クレームを受けた経験のある人は、全属性で14.5%で、全属性の人が経験している。

特にイレオストミー、女性、30代から50代のオストメイトは、半数以上がトイレ使用で気が引けた経験があった。

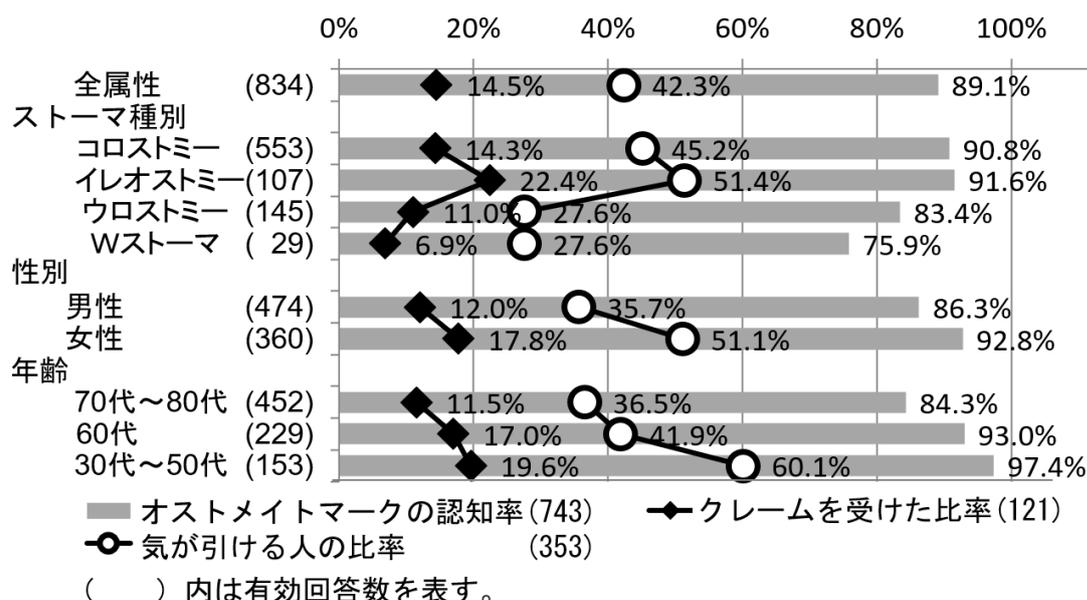


図31 オストメイトマーク認知度とトイレ利用意識等

4-3-2 クレームに関するコメント

アンケート調査の自由回答欄にあったクレームに関連するコメント数は31であった。この内、特に具体的なクレームを示す内容としては下表のコメントがあった。

クレームの原因は、見かけが健常者とかわらないのに、トイレ使用時間が長いこと、臭いが残ることであると、オストメイト自身が認識していることがわかる。

10年位前はみんなのトイレ、誰でもトイレと言われていた多機能便房は、今では一部のオストメイトが入りづらいほど、利用頻度が高くなっていることが推察される。結果として、オストメイトの多機能便房利用では、他の使用者への意識をせざるを得ない状況となっていると考えられる。

表 18 アンケート調査の自由回答欄のクレームに関するコメント

回答番号 性別	ストーマ種別 年代 経験年数	コメント(総数31)
<長時間使用へのクレーム(19.4%)>		
S0911 女性	コロストミー 70~80代 20年	「遅い」と言われた。
S0615 女性	コロストミー 30~50代 5年	「車いすの人がまってるから早く出て！」
<においへのクレーム(6.5%)>		
S0676 男性	コロストミー 30~50代 2年	「臭い」と言われた。
S0027 女性	コロストミー 30~50代 4年	「臭い」と言われた。
<外見上は健常者とかわらないことから起こるクレーム(19.4%)>		
S0865 男性	コロストミー 60代 6年	次の人が車いすの人の場合、その人より、また、車いす同行者より にらみつけられた。一般の人にはオストメイトとはわからないから でしょう。
S0164 女性	ウロストミー 60代 4年	外見上、障害がわからない為 女性用トイレはあちらですとか云わ れる。
S0122 女性	イレオストミー 記載なし 5年	ベビーカーの方や、車いすの方に「何で健康なアンタがここ(多目 的トイレ)使うんよ！」とどなられたことがある。
<クレームを受けることへの不安(6.5%)>		
S0085 女性	イレオストミー 30~50代 4年	今は幼児をつれてはいつているので言われたことはないがひとりだ とわからない。
S0870 女性	コロストミー 70~80代 32年	外出時 障害者用トイレを使用する時はオストメイトマークのつい たカード(ストラップ?)を前から下げてトイレに行くようにしてい る

4-3-3 気が引けることに関するコメント

アンケート調査の自由回答欄にあったトイレ利用でオストメイトが「気が引ける」ことに関するコメントは全部で27あり、その内、具体的な内容を示すものとして、下表のコメントがあった。

気が引ける原因も、クレームと同じく、見かけが健常者とかわらないのに、トイレ使用時間が長いこと、臭いが残ることであった。

多機能便房の利用が多く、次の人が待っている状況では、臭いは消臭スプレー等があれば、自助努力で解消することは可能な問題であるが、時間がかかることは避けることが難しい課題である。しかも待っている人が車いす使用者だと、外見上は障害者とは見えないオストメイトにとっては、理解を求めることも困難である。

表 19 アンケート調査の自由回答欄のトイレ利用で気が引けることに関するコメント

回答番号 性別	ストーマ種別		コメント(総数27)
	年代	経験年数	
<長時間使用で気が引ける(33.3%)>			
S0463 男性	コロストミー 60代	2年	コンビニのトイレはすぐ混雑するので
S0435 女性	コロストミー 70~80代	3年	時間がかかって。汚さないように。
S0840 女性	コロストミー 70~80代	19年	時間がかかる。特に後に人が居る時等、先に使ってもらったこともある。
S0771 女性	コロストミー 70~80代	33年	洋式を使用するので、少ないトイレで使用する時は待ってもらう事がある
<においが出ることで気が引ける(22.2%)>			
S0027 女性	コロストミー 30~50代	4年	におうから
S0217 男性	ウロストミー 70~80代	3.3年	残臭が気になる
S0404 女性	イレオストミー 70~80代	6年	排泄後の臭い。自分で消臭剤を持参しているが。
<外見上は健常者とかわらないことで気が引ける(11.1%)>			
S0189 女性	コロストミー 70~80代	7年	どうしても健常者に見られるから気が引けます。
S0366 男性	コロストミー 60代	6年	車いすの人ににらまれた。
S0288 女性	コロストミー 30~50代	3.5年	多目的トイレに併設されているので、他の使用者がいると思うと使用しづらい

4-4 オストメイト対応トイレへの潜在的なニーズ

本節では、アンケート調査票の3枚目（外出先のトイレでの行為について）の、外出先で日頃使用しているトイレの使用理由に関する設問結果のコメントやヒヤリング調査のコメントからまとめた。

4-4-1 オストメイト対応トイレへの意識とニーズ

日常使用しているトイレの苦勞話やオストメイト対応トイレに望むこと等について、ヒヤリング調査と、アンケートの自由記入欄で得たコメントをまとめた結果(表 20)から、以下のことがわかった。

尚、アンケート調査票からは、日頃使用しているトイレに関するコメント 56 件の内、特にオストメイト対応トイレの必要性を示す事例を採りあげた。

(1) トイレ利用意識

オストメイトは、日常は一般便房を使用しているも、オストメイト対応トイレの必要性はオストメイト自身が理解しており、そのようなトイレがあれば、安心して外出できることを表明する人もいた。

また、トラブルが起きた時のことを考え、いざという時にはどこに行けばオストメイト対応トイレがあるかを日頃から調べ、備えている人もいた。

(2) オストメイト用設備の機能分散ニーズ

車いす使用者や高齢者、子ども連れの人など、様々な身体状況の人に対応する多機能便房が、大型商業施設等の男女共用便所で普及しているが、それ以上に利用者も多く、オストメイトは、他者とからあうことに気が引け、混雑時には多機能便房を使えない。しかし、多機能便房を日常使用する人は、汚物流しで排泄できることが必要であり、男女別一般便所等、機能分散で、他の場所にもオストメイト用設備を配置することを希望していた。

また、オストメイト専用便房設置の要望もあった。

(3) オストメイトマークへの期待

多機能便房でからあうことへの対応策は、オストミー協会等、当事者レベルでも考えられている。オストメイト対応トイレへの出入りの時にオストメイトマークのついた携帯ストラップ（右の写真）を見せること等であるが、その成果はまだ把握されていない。



写真7 オストメイトが持ち歩くストラップ

表 20 オストメイト対応トイレに関する意識

回答番号 性別	ストーマ種別 年代 経験年数	コメント(総数56)
<処理に時間がかかるのでオストメイト対応トイレが必要>		
S0799 女性	コロストミー 60代 2.4年	汚物を捨てる時とかは障害者用トイレは絶対必要。時間がかかり、他の人に迷惑になってしまうので。旅客施設(駅、空港)は絶対必要。国内、海外とも現在は充実しているので助かる。
<多目的トイレではなく専用トイレを>		
S0129 女性	Wストーマ 30~50代 3年	多目的トイレではなく、オストメイト専用トイレを作ってもらいたいです。広いスペースは必要ないです。使いたい時に使えないことが多々あります。
<オストメイト対応トイレは全国的に同型を>		
S0381 女性	コロストミー 70~80代 22年	外出先のトイレは、場所によって型が違うことが多い。全国的に同型になれば安心して使用出来る。
<オストメイトマークのトイレがあると安心>		
S0044 女性	コロストミー 70~80代 22年	オストメイトマークのあるトイレがあると嬉しいです。安心します。
<いざという時に使いたい>		
S0279 女性	コロストミー 70~80代 11年	多機能便房は待つ事が多いのでまだ使用したことがありません。ただ、アクシデント(下痢)が起きた場合は一般便房では対応しにくいので、経験しておきたいと思います。
<職場でのトイレ確保>		
S0820 男性	コロストミー 70~80代 24年	仕事をしている建物内に多機能トイレはあるが遠いので、普段は一般トイレを利用し、時間があったり必要に合わせて多機能を使う。
N14 女性	コロストミー 30~50代 11年	大規模施設のテナントで働いている(店員)。普段はバックヤード(従業員用)の腰掛便器を使う。トラブル時は店の近くの多機能便房を使うことを、施設管理会社に了承してもらっている。店の制服は着替え、お客を装って使う。
<商業施設の男女共用便所は気が引ける>		
N14 女性	コロストミー 30~50代 11年	商業施設は、平日は高齢者、休日は子ども連れの人が多く、多機能便房は気が引ける。
<男女別一般便所は緊急時に使用困難>		
N14 女性	コロストミー 30~50代 11年	オストメイト用設備が男女別の一般便所の中にあると、女子便所は並んでいる人が多く、緊急の時、その中に入ることは難しい。
<かちあい対策>		
N17 女性	イレオストミー 60代 42年	ストラップをスマホに付けて持ち歩き、人に見えるようにしてトイレを出入りする。

4-4-2 日常使用便房の使用理由

アンケート調査の自由回答欄にあった日頃使うトイレに関するコメント 56 件の内、下表では、そのトイレを日頃使う理由について、オストメイト対応トイレに関連する事例を集めた。オストメイトが一般便房を使う理由は、必ずしも一般便房で事足りるからではなく、処理に時間がかかること等、クレームや気兼ねに加え、オストメイト対応トイレの数そのものが少ないことも原因であることも確認した。

尚、日頃使うトイレを使う理由についてのコメントは、多い順に「オストメイト対応トイレが少ない(9)」、「オストメイト対応トイレがあれば安心(4)」、「気が引ける(8)」などが記入されていた。

表 21 アンケート調査の自由回答欄の日頃使うトイレを使う理由に関するコメント

回答番号 性別	ストーマ種別 年代 経験年数	コメント(総数56)
<オストメイト対応トイレが少ない／あれば利用する>		
S0435 女性	コロストミー 70～80代 3年	オストメイトトイレがあれば利用する（なければ一般トイレ）
S0349 男性	コロストミー 70～80代 12年	オストメイトトイレが少ないから
S0879 女性	ウロストミー 30～50代 32年	オストメイトマークがあれば利用する
S0439 女性	コロストミー 30～50代 5年	オストメイト専用は少なくて（見かけが）障害者と思われないので入りにくい
S0249 女性	イレオストミー 70～80代 36年	すべての施設に多機能トイレがあるとは限らない為
S0267 女性	イレオストミー 30～50代 4年	できればオストメイト用を使いたい但し車イスとかと共同だったりして他の人が使用されている事が多いので。
<その他の理由>		
S0368 女性	コロストミー 70～80代 10年	多機能トイレははいりにくい。他人の目がきになる。
S0523 男性	コロストミー 70～80代 5年	多機能トイレを見かける事もあるが使用法がわからない
S0839 男性	コロストミー 70～80代 11年	臭気がひどく、他人に悪影響を与える
S0115 女性	イレオストミー 30～50代 5年	障害者用トイレを使うと、たまに汚れていることがあるので
S0982 男性	コロストミー 60代 16年	多機能トイレは使用中が多い。洋式トイレで空いていたら使う。

4-5 便房使い分けでトラブルに備える事例(面談者 N14)

日頃は排泄での困り事は少ないが、いざという時(トラブル時)を考え、仕事に取り組まれている、40代女性(面談者 N14)のヒヤリング結果を以下に記す。

4-5-1 面談者(N14)の日常とトイレ利用施設

- ・基本情報：コロストミー, 女性, 40代, 身長 168cm, ストーマ造設後 11年
- ・安心外出：最初から、毎日外出
- ・外出目的：仕事(商業施設テナントの店員)、買物
- ・排泄頻度：外出先で排泄はほとんどしない
- ・排泄時間：5分以内(トラブルも経験なし)
- ・使用便房：一般便房(多機能もあれば使う)
- ・日常施設：旅客施設, 飲食店, スーパー(職場)
- ・必要施設：病院, 旅客施設, ホテル
- ・必要設備：洋式便器, 手洗器, ペーパー, 汚物入れ
- ・取材日：2016年10月28日



写真8 面談者 N14 のケア用品

4-5-2 便房使用状況

(1) 職場での使用便房

面談者(N14)は、商業施設のテナントの店員をわさされており、接客を仕事としている。勤め先の商業施設の店の前には共用トイレ(多機能トイレ)があり、介助者同伴で車いすで共用トイレを使う高齢者や子供連れ等をよく目にされている。勤務中にトイレを使う時は、店の制服を着ているので店の前の共用トイレの隣にある男女別トイレも使わず、店の裏にある従業員用のバックヤードのトイレ(一般便房)を使用している。下図(左側)は、面談者 N14 の職場周辺のイメージである。

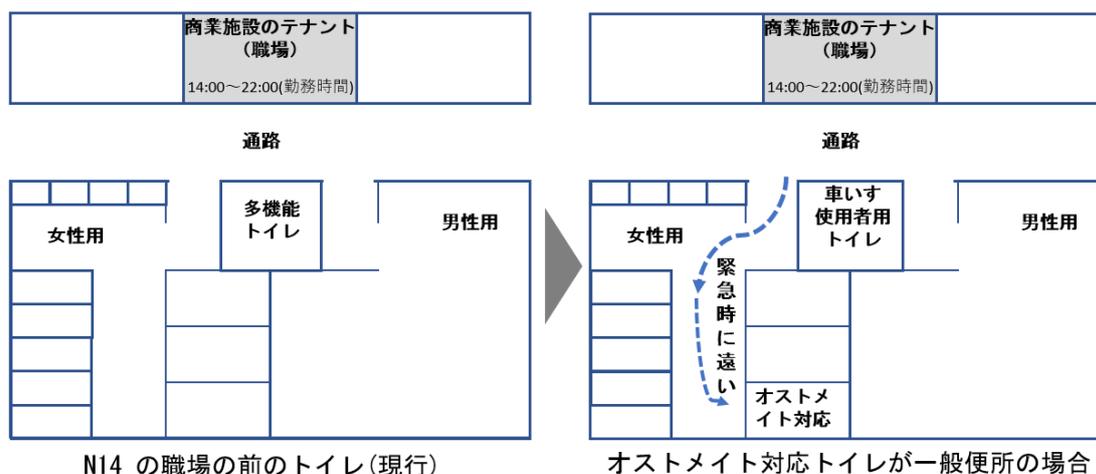


図32 面談者 N14 の職場周辺の状況

(2) オストメイト対応トイレ利用意識

面談者 N14 からは、以下のコメントの要旨を得ている。

「コロストミーであるが、外出先ではほとんど排便していない、小用はテナントのバックヤードのトイレで済ませている。多機能トイレは、高齢者等、他に困っている人がいるのを見ているので、気が引ける。」とのこと。

では、トラブルが起こった場合にどうするか尋ねたところ、以下のコメントを得た。

「トラブル時は店の近くの多機能便房を使うことを、施設の管理会社に了承してもらっている。店の制服は着替え、一般のお客を装って使う。商業施設は、平日は高齢者、休日は子ども連れの人が多く、気が引けるので多機能便房は使えない。オストメイト用設備が男女別の一般便所の中にあると、女子便所は並んでいる人が多く、緊急の時、その中に入ることは難しい。」

面談者 N14 の場合、外出時に排泄をすることは少ないようであるが、ストーマ装具等が突然ずれたり、破れたりするトラブルは起こり得る。その時、面談者 N14 は共用のトイレ（多機能トイレ）を使うことを意識し、準備している。

ただし、面談者 N14 が多機能トイレを使うために施設管理者の事前承認まで得ているという事例は、特殊な場合である。日本オストミー協会の若いオストメイトを担当する事務局の WOC ナースに相談したところ「就業しているオストメイトは、トラブル時に限らず、装具を一組もしくは数組、常に持っていると思います。ただ、特別な配慮をもらっているかどうかは、ケースバイケースになりますね。職場にオストメイト対応トイレがない場合のほうが多いと思うので、普通に職員トイレなどを使うことになると思います。」との回答を得た(取材日:2019年6月)。就業中のオストメイトは、替えのストーマ装具をいつも持っている等、トラブルへの意識は高いが、そのための準備の度合いは人によって異なっていた。

4-5-3 一般便房内での行為手順

N14 は一般便房を使用し、その行為は以下の手順で行われる。ストーマ装具内の汚物を捨てることを除けば、ほとんど健常者の行為と変わらない。

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| ① ドアを閉めて荷物を置く | ⑤ 小用を済ませる |
| ② 衣類を脱ぎ、便座に座る | ⑥ 便座から立ちあがり、衣類を着る |
| ③ 座ったまま、ストーマ装具内の汚物を
大便器内に捨てる | ⑦ 大便器の洗浄をする(流すボタンを押す) |
| ④ 装具先端をペーパー等で拭く | ⑧ 荷物を持ち、ドアを開けて出る |

4-5-4 オストメイト用設備機能のニーズ

トイレに必要な設備機能としては、洋式便器、手洗器、ペーパー、汚物入れを挙げている。基本的には、日常使用している一般便房の設備機能を必要としており、汚物流し、温水設備、高さ調整、シャワーは必要としていない。

4-6 考察

本章の結果からは、多機能便房が混雑していること。オストメイト対応トイレが機能分散で、男女別一般便所の専用便房へと移行する必要があることを間接的に裏付ける結果となった。また、30～50代のオストメイトは、他の年代と比較してオストメイト対応トイレへの意識が高く、少なくともトラブル時には使うため、日頃から準備をしていた。

4-6-1 トイレ使用実態とオストメイト対応トイレへの潜在ニーズから明らかになったこと

(1) オストメイト全体で9割近くがマークを認知していたが、オストメイト対応トイレを毎日利用している人は少なかった(全体で20%前後)。30～50代は10%未満であった。

(2) 特に30～50代の方は、一般便房使用率が高かった(76.8%)一方で、オストメイトマーク認知率は10割近く(97.4%)、日頃は一般便房を使っているが、いざという時のためにオストメイト対応トイレの場所を事前把握していた。また、一般便房を使う理由として、普通のトイレで事足りる人が多い(60.8%)一方、他に使えるトイレがないからと答えた人も、30～50代が他の年代より高い回答率(31.7%)を示していた。

(3) 大規模商業施設等の男女共用の多機能便房で、混雑時に他者と待ちあうという課題は、専用便房等が普及すること等、機能分散の進展で軽減されることが期待されることが改めて²⁾裏付けられた。

トラブルの時、オストメイトはとにかくオストメイト対応トイレをめざすが、仮に混雑していた場合、他のトイレを探すか自宅に帰るしかない。その時、機能分散が進んでいれば。素早く対処できる確率も増す。特に30～50代のオストメイトは、他の年代よりもトラブルの頻度が高く(1回以上/半年が65.4%, p51)、クレームを受けることも多く(19.6%)、多機能便房の日常使用には気が引けている(60.1%)一方、トラブル時には使いたいために日頃から(最低限でも替えの装具は持参している等)準備をしている人も多いことが判明した。

(4) 日本オストミー協会幹部への面談結果(取材日:2019年7月)

男女別一般便所への機能分散について、「緊急時に遠い」という意見があることを伝えた結果、「オストメイトをもっと知ってもらいたい」との回答を得た。オストメイト対応トイレの普及活動をしていた当初(2003年頃)は障害者用トイレの中にオストメイト用設備を設置する活動を進めてきた協会も、障害者用トイレ(多機能便房)が混雑するようになった今、機能分散で使えるトイレを増やしたい。しかし、外見上は健常者でトイレ使用時間の長いオストメイトには、オストメイト対応トイレがあっても使えないという現状がある。

第五章 便房内行為の実態と整備課題

一般的に、トイレの中で行う行為については個人差があり、誰がどのように使うのかはあまり意識されていない。オストメイトの場合も同様に個人差はあるが、汚物を捨て、ストーマ装具を交換し、お腹をケアし、装具を洗うという行為に分類することはできる。

本章では、これらの行為が実際にはどの程度行われているのか、また、便房内行為から考えられる整備課題は何かについて、オストメイト対応トイレ内、一般便房内、自宅のトイレ内に分けて結果分析するとともに、その際に使用するオストメイト特有の小物類（ケア用品等）についてもまとめた。

5-1 オストメイト対応トイレ内での行為

本節では、アンケート調査票の3枚目（外出先のトイレでの行為について）の、外出先で日頃使用しているトイレの使用理由に関する設問結果のコメントやヒヤリング調査のコメントからまとめた。

5-1-1 オストメイト用設備で排泄する人の行為

オストメイト対応トイレを日常使用するオストメイトがトイレ内で行っている行為の比率を下図にまとめた（回答者 152 名）。オストメイト対応トイレ内では、半数未満ではあるが、汚物を捨てる事に加えて装具交換や腹部のケア（腹部を洗う、腹部を拭く）が日常的に行なわれていた。

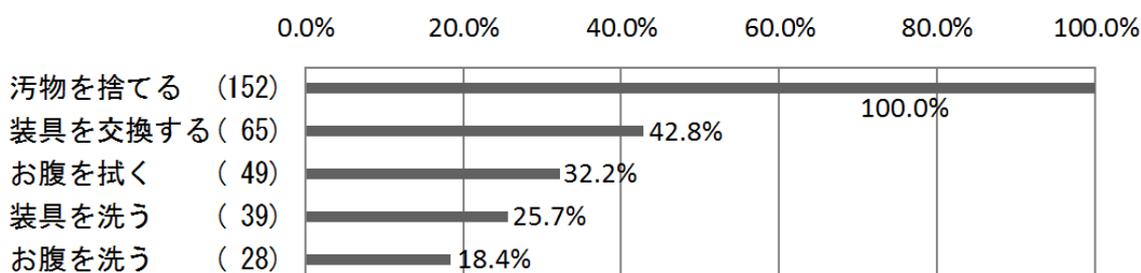


図 33 オストメイト用設備で排泄する人の行為の比率

5-1-2 行為の手順

アンケートにおける設問で、よく使うトイレがオストメイト対応トイレとした回答者がトイレ内で行う行為について、①から⑫の選択肢の中で、該当行為を選択してもらったが、

選択肢と異なるコメントも得られた。その主な内容を、表 22 に整理した。

尚、表中の小用は、人工肛門保持者の場合で、人工膀胱保持者(ウロストミーの方)の場合は排便が該当する。

表 22 オストメイト対応トイレ内での行為の手順とそのコメント

オストメイト対応トイレ内行為	行為に関するコメント
① ドアを閉めて荷物を置く	◆リュックをフックにかける ◆ベッド等、コートやカーデガンを置ける位置をセットして置く。バッグも置く。
② ストーマ装具やケア用品を取りやすい位置に置く	◆トイレットペーパーを、3回分ほど先に用意する
③ 汚物流しの前に立ち衣類を脱ぐ	◆③衣類を上下にずらす ◆③服は脱がなくてもいいように洗濯バサミを2ヶ持っている ◆③ひもの先にクリップを付けたもので衣服のすそをつる
④ ストーマ装具内の汚物を捨てる	◆④の前、汚物を便器に流す時トイレットペーパーを便器に敷いて流すと汚れが便器に残らない ◆2ピースなのでパウチだけ洗い、面板に付ける。 ◆装具内に湯を入れて体を上下に振る。数回繰り返す
④' ストーマ装具内の尿を捨てる (ウロストミーの方の場合)	◆④' カテーテルで導尿をしてカテーテルを洗浄する ◆④' 導尿型新膀胱のためカテーテルのみを使用する ◆④' カテーテルでストマーより導尿
⑤ ストーマ装具を外し、置きやすい場所に置く	◆パウチは付けたまま処理する。(装具交換なしの場合) ◆④の後 潤滑剤を入れる。(装具交換なしの場合)
⑥ お腹をシャワーで洗う。	◆トイレットペーパーで袋の周囲水分を拭き取る ◆(⑥の後)乾いたガーゼ等で服の水分をとばす
⑥' 石鹸やお湯で濡らしたガーゼ等でお腹を拭く	◆⑥および⑥' は状況により処置が異なる
⑦ 新しいストーマ装具を装着する	
⑧ 衣類を着て、外したストーマ装具を洗う	
⑨ ストーマ装具をビニール袋等に片付けるか汚物入れに捨てる。	
⑩ 汚物流しの洗浄をする (流すボタンを押す)	
⑪ 小用(人工肛門の人の場合)を済ませる。	◆①と②の間に⑪小用が入る
⑫ 荷物を持ち、ドアを開けて出る	

5-1-3 行為に関するコメント

アンケート調査とヒヤリング調査から得られた、オストメイト対応トイレ内の行為に関するコメントを抽出し、表 23 にまとめた。コメントの内、アンケート調査からは、表 22 の行為手順に関する自由記述として 66 件のコメントを抽出している。内容は、排泄行為関連 (10 件)、装具交換 (8 件)、腹部を拭く (2 件)、腹部を洗う (4 件)、装具を外さずに装具内洗浄 (11 件)、脱衣の工夫 (2 件) のほか、行為の順序が異なること等があった。

コメントから以下のことがわかった。

- (1) 腹部を洗うひとつの例として、美容院で髪を洗ってもらった要領で腹部を洗う人がいる。これはヒヤリング調査で得た一例であるが、確かに、便房内で衣類を脱ぎ、お腹を洗っている人がいる。この方は、時間があればオストメイトマークのあるトイレに入り、様々なオストメイト用設備を試している。シャワーをあてると床がびしょ濡れになることを気にされており、コメントのような洗い方に気がついたとのことであった。

また、表 20 には記載していないが、「腹部をシャワーで洗う」、「石けんや濡らしたガーゼ等でお腹を拭く」という行為について、「状況によって異なるのでチェックを入れていない」というコメントもあった (S0087, イレオストミー, 男性, 30~50 代, 20 年)。ストーマ周辺の状況 (汚れ具合等) やトイレの混み具合等を見て、拭くだけで良いのか、腹部を洗う必要があるのかを判断しており、「腹部をシャワーで洗う」ことが日常の選択肢のひとつとして定着している人もいることが推察される。

- (2) ガーゼに湯を浸して腹部の汚れを拭く人がいる。最近では腹部の清浄剤 (泡状の石けん) で、水なしでふき取ることも可能なものもある。この場合、シャワーで腹部を洗わなくても、簡易的な腹部洗浄ができる。

ただし、清浄剤 (ケア用品) は、日常生活用具として助成されている品目のひとつではあるが、自治体によっては対象品目とはならない場合もある。

- (3) 装具交換では、取り外した装具はまず一時置きし、先に新装具を腹部に装着する。この場合、装具をはずした時にお腹から排泄物が出てこないよう、素早く外した装具を置く。手の届く位置にフックがあれば、予めビニールの手さげ袋をフックにかけ、外した装具の一時置きの場所となる。

- (4) 装具から汚物を捨てても、においが残るので、お湯で装具内をきれいにしておきたいため、装具内を洗うというコメントが 16.7% あった。ストーマ装具内を洗う行為は、医療機関から推奨されている行為ではない^{注4}が、一定数のオストメイトに、そのような行為が定着していることが推察される。ケア用品として、ストーマ装具内に入れる消臭剤もあるが、値段は 1 回あたり 100 円から 200 円であり、かなり高い。

- (5) イレオストミーで腹部の調子が悪い人の場合、装具から汚物を出す時に飛び散りやすいため、装具内に凝固剤を入れる人もいた。
また、汚物を捨てる時、水で洗っても装具内がくっつき、汚物を溜めにくくなるので、装具内に潤滑剤を入れる人もいた。
- (6) 装具の排泄口を持って汚物を捨てる際、上着やワイシャツのボタンを外したままだと汚れやすいので、まくり上げて洗濯ハサミ等で固定して、排泄行為をする人もいた。

表 23 オストメイト対応トイレ内の行為に関するコメント

回答番号 性別	ストーマ種別 年代 経験年数	コメント(総数66)
<脱衣(4.5%)>		
S0040 男性	Wストーマ 60代 8年	(脱衣の工夫) ひもの先にクリップを付けたもので衣服のすそをつる。
<汚物を捨てる(15.2%)>		
S0117 男性	コロストミー 30~50代 1.5年	(排泄の準備) トイレットペーパーを、3回分ほど先に用意する
<装具を交換する(12.1%)>		
S0373 女性	イレオストミー 30~50代 13年	(装具交換と腹部のケア) もれそうな時、もれてしまった時、外出先で交換。装具を交換する場合はいつも腹部ケアする。体調の悪い時、お腹の調子が悪い時30分以上かかることもある。
<腹部を拭く(3.0%)>		
S0090 女性	コロストミー 70~80代 10年	(お湯が必要) ストーマまわりを洗ったり、ガーゼで拭いたりするのにお湯を使い
N17 女性	イレオストミー 60代 42年	(清浄剤を使う) 清浄剤を使えば、水なしで簡易的に汚れを拭き取る等、腹部のケアができる。
<腹部を洗う(6.1%)>		
N06 女性	イレオストミー 30~50代 2年	(腹部洗浄方法) オストメイトマークのついてトイレがあれば使っている。汚物流しでお腹を洗うには、美容院で髪を洗うように、蛇口からお湯を出しながら、それを手のひらで受け、お腹にあてるようにすれば、あまりこぼれないで使えた。
<装具を洗う(16.7%)>		
S0975 女性	コロストミー 70~80代 14年	(装具の中を洗う) 便を出してお湯で洗い、装具の中をきれいにしてお湯ですすいで出します。

5-2 一般便房内での行為

本稿はアンケート調査票3枚目(外出先のトイレでの行為)のデータを中心にまとめた。

5-2-1 行為の手順

アンケートにおける設問で、よく使うトイレがオストメイト対応トイレとした回答者がトイレ内で行う行為について、下表のような選択肢①から⑨の中で、該当行為を選択してもらった結果、表の右側にある、選択肢とは異なる行為のコメントも得られた。

コメントの主な内容は、一般便房内では立ったまま処理する人やひざをつけて処理する人、ペットボトルに水を入れて持ち込む人、先に小用を済ませる人、臭いが特に気になる人がいることである。また、下表の中の小用は、人工肛門保持者の場合で、人工膀胱保持者(ウロストミーの方)の場合は排便が該当する。

表 24 一般便房内での行為の手順とそのコメント

一般便房内行為	行為に関するコメント
① ドアを開けて荷物を置く	<p>【立ったまま処理する人】</p> <p>◆③は立位で腰をかがめて捨てる</p> <p>◆④便器にむかって中腰になって汚物を捨てる。座ったままでは処理できにくい。</p> <p>【ひざをつけて処理する人】</p> <p>◆便器の脇にひざをつけて便を出す。床がきれいであることが必要。便座には腰掛けない。便器脇にひざをつけて処理。床にペーパーをおく。</p> <p>【ペットボトルに水を入れて持ち込む人】</p> <p>◆④の後に、予め用意しておいたペットボトルの水で2~3度、ストーマ装具の中をすすぐ。</p> <p>◆容器に水を入れて持ち込む。立ったまま、ストーマ装具(2ピース)の面板からはずしたドレインバック(袋)に水を入れて溜まっていた便を流す。(面板の中央の)ストーマをトイレットペーパーできれいに拭き、バックの先端を拭き止めて衣類を着る。便器に水を流して終わる。</p>
② ストーマ装具やケア用品を取りやすい位置に置く	
③ 衣類を脱ぎ、便座に座る	
④ 座ったまま、ストーマ装具内の汚物を大便器内に捨てる	
⑤ ストーマ装具先端をトイレットペーパー等で拭く	
⑥ 小用(人工肛門の人の場合)を済ませる。	<p>【先に小用を済ませる人】</p> <p>◆(先に)小用を済ませ、立ち上がって洗浄した後、ストーマ装具内の汚物を大便器内に捨て、先端をペーパーで拭き、便器洗浄をして、衣類を着る。</p>
⑦ 便座から立ちあがり、衣類を着る	
⑧ 大便器の洗浄をする(流すボタンを押す)	
⑨ 荷物を持ち、ドアを開けて出る	<p>【臭いが気になる人】</p> <p>◆①→②→③→⑥→⑦ショーツのみはく→また座り、滴下用消臭剤を垂らす→④→⑤消臭剤をまく→⑦→消臭剤スプレー→⑧→消臭スプレー→ふた閉め→⑨</p>

5-2-2 行為に関するコメント

アンケート調査とヒヤリング調査から得られた、一般便房内の行為に関するコメント（アンケート調査票の自由記述欄では169件）を抽出し、表25にまとめた。

結果として、オストメイトは、一般便房内でも排泄だけでなく、装具交換等、様々な用途や姿勢で便房を使用しているという実態が明らかになった。

一般便房内では、座って排泄処理をする人に加えて、「立って処理する」人や「ひざをついて処理する」人のほか、「便座に横向きに座って処理する」人も存在した。

アンケート調査では座って処理することを前提とした質問であったが、この質問に関して得た169件のコメントの内、立って処理するとコメントした人は66人(39.1%)であった。また、便器の前や横に膝をついて処理するとコメントした人は5人、便座に横向きに座るといふ人も1名いた。

この内、立って処理する人の行為の手順は以下のようになった。

- ① 便器の前に立つ。
- ② ケア用品やカットして折りたたんだペーパーを棚等に置く。棚がなければ、新聞紙やビニール袋等を床に敷き、その上に並べる。
- ③ 便器ボール面に、跳ね返りが起こらないようにペーパーを敷く。
- ④ 衣類を腰からずらす（脱がない）。
- ⑤ 中腰になって、装具先端をできるだけ便器ボール面に近づける。
- ⑥ 装具先端の口を開け、汚物を捨てる。
- ⑦ 装具のにおいが気になる人は、この段階で、ペットボトルに入れた水を装具内にそそぎ、装具内を洗浄する。
- ⑧ 片手で装具の先端を持ったまま、もう片方の手でペーパーを取り、装具先端の汚れを落とす。ペーパーが片手で切れない場合は予めカットし、使いやすい寸法に折って、便器周辺に置いておく。
- ⑨ 清浄剤をガーゼに浸すかスプレーし、腹部を拭く。

ただし、立って処理すると回答した66人(39.1%)は、一般便房内での行為手順に「便座に座る」という選択肢しかなかったため、丁寧に回答(にコメント)された回答者数であり、オストメイトの一般便房内での正確な行為比率であるとは言えず、あくまでも参考値である。

立って処理する理由は、表 25 にある通り、便座の穴が狭いこと、装具先端が届かないことなどであった。

また、オストメイトは一般便房でも排泄の他、装具交換や腹部のケアを簡易的に行っている人もいることも明らかになった。

表 25 一般便房内の行為に関するコメント

回答番号 性別	ストーマ種別 年代 経験年数	コメント(総数169)
<立って処理 (39.1%)>		
N22 女性	コロストミー 60代 28年	理由 1 : 便座の穴が狭い 座ると前の穴が狭いので出しにくい。(排泄の姿勢は)中腰になる。(排泄物を)便器に捨てると跳ね返るので、ボール水面にペーパーを浮かべてする。自宅でも同じ。装具交換は風呂あがりに洗面所で立ってする。
N16 男性	コロストミー 60代 17年	理由 2 : 装具の先端が便座まで届かない 主に多機能便房を使っているが、なければ一般便房も使う。一般便房で便座に座ると、装具の先端が便器のボールに届かず、処理できないので立ってする。
S0374 女性	コロストミー 60代 16年	理由 3 : 大腸菌を付けたくない 便の処理をした後、大腸菌を他につけたくないので。また、衣類は全部脱ぐのは大変なので、下着を下げるだけ。したがって、処理は立ったまましている。
N06 女性	イレオストミー 30~50代 2年	行為 1 : 排泄 洋式便器のボール面にペーパーを敷き、中腰になって、跳ね返りがないようにして排泄している。ケア用品は床に新聞紙(常時持参)を敷いて置いている。
N05 男性	コロストミー 30~50代 10年	行為 2 : 装具交換 洋式便器を立ったまま使っている。排泄の都度、装具交換する。新装具はいつも5~6枚持参で外出する。腹部はウェットティッシュで拭いている。
S0156 男性	コロストミー 70~80代 14年	行為 3 : 装具内洗浄 外出先で装具の交換はせず。 ペットボトル500mlに水を入れ、お腹に付けたまま装具内を洗う。
N04 女性	Wストーマ 30~50代 38年	行為 4 : 腹部のケア 排泄後(の腹部のケア)は赤ちゃん用のお尻拭き、ウェットティッシュで拭く。
N18 男性	Wストーマ 30~50代 9年	その他 : 尿(ウロ)と便(コロ)の排泄姿勢は異なる 尿も便も排泄だけなら5分以内でできる。一般便房では尿は立ったまま、便は座ってしている。ウロ(尿)のパウチはお腹の左右2ヶ所に離れている。

膝をついて処理する人には、次の表（表 26 続き）に記載があるように、便器の前や横の床にスペースが必要であることもわかった。

また、便座に座って処理する人も、汚物が軟便のため、飛び散りやすいので便器に座るといったコメントがあった。軟便の人がオストメイト用設備を使う場合にも、できるだけ汚物流しの縁の中に近づけて処理する必要があることも推察される。

表 26 一般便房内の行為に関するコメント 続き

回答番号 性別	ストーマ種別 年代 経験年数	コメント(総数169)
<ひざをついて処理(3.0%)>		
S0938 男性	イレオストミー 70~80代 42年	便器の脇にひざをついて便を出す。床がきれいであることが必要。便座には腰掛けない。便器脇にひざをついて処理。床にペーパーをおく。
<座って処理(57.4%)>		
N23 女性	コロストミー 60代 11年	理由：軟便のため 軟便にする薬を飲んでいるので便が飛び散りやすく、便器に座って処理する。
S0258 男性	コロストミー 70~80代 32年	行為 1：便器に深く腰掛け 便器に深く腰掛け、股の間に便器の空を作り、小用を足しながらパウチの排泄物を捨てる。ペーパーでパウチの口と中をペーパーできれいにして終了。
S0863 女性	イレオストミー 30~50代 0.9年	行為 2：ペーパーで便座をカバー 便座、便器が汚れないようにペーパーでカバーし、ビニール手袋を付けて処理。最後に消臭スプレーをふる
S0718 男性	ウロストミー 70~80代 25年	その他：ウロストミーの場合 特殊タイプのウロストミーでストーマより直に膀胱へカテーテルを挿入し排尿しているので普通の人と変わらない。
<便座に横向きに座る(0.6%)>		
S0863 女性	イレオストミー 30~50代 0.9年	私は家でも外出時の職場でも一般のトイレしかなく、また、今は便もれなどのトラブルもないので、どうしても多機能トイレでなければならないということはありませんが、やはりあれば安心です。また、一般の洋式トイレの場合、便を排気する時は少し後ろに下がって、とか、ふたに向かって反対向きに座って、などと指導されましたが、特に後者では足を広げなければならず、閉じた肛門がひきつる感じで苦痛で、しかも廃棄作業がしにくいです。私は小用をしたあと、下着をつけてから便座に横向きに座り、廃棄できるので普段はスムーズですが、太った方や体の大きい男性の方は大変なのではないかと思います。

5-3 自宅での排泄

本節は、ヒヤリング面談者のご自宅を訪問した際に確認した自宅での排泄行為、アンケート調査票1枚目で確認した洗腸に関する情報等についてまとめた。オストメイトが自宅で排泄する環境は、楽な姿勢（座位）で各自の身体特性に応じた操作がしやすいように設備や小物類が配置されていた。

5-3-1 コロストミーの方の場合

ヒヤリング調査で面談した方（面談番号N16 コロストミー、男性、65歳）、以下、N16さんとする。

N16の自宅での排泄は、便器に座らず、便器の前にイスを置き、イスに座って腹部からストーマ装具を出して、便器に汚物を捨てる。N16さんの場合、背が高いこともあり、便座に座ると、ストーマ装具の先端が大便秘器のボールに届かないため、シート面が便座面より少し高いイスを使うようになったとのこと。また、イスは動かしやすいよう、軽いものを選んでる。

汚物をストーマ装具から大便秘器に捨てた後、臭いが気になるので、写真左側の壁に混合栓を設置し、その先端に樹脂で変形可能なノズルを付け、ノズルの先端をストーマ装具の排泄口に入れて、中をお湯で洗っている。「先端が自在なノズルからお湯が出るようにしたので、装具の中を洗うのが便利になった。」とのこと。

ケア用品や替えのストーマ装具は、イスに座った状態で取りやすいよう、天井に洗濯棒を付け、そこから吊り下げていたが、トイレの隣に浴室があり、そこで腹部洗浄も含めたケアも行っている。

また、外出先では主に多機能トイレを使っているが、なければ一般便房も使う。一般便房では立って処理しているが、座ってする方が楽とのこと。



写真9 コロストミーの方（N16）の自宅トイレ

5-3-2 自宅で洗腸する人について

コロストミーの方の場合、外出先でトイレを利用しない方策として、自宅で洗腸という行為を行っている人がいる。本稿のアンケート調査では、下図のとおり、洗腸を行っている人が16%程度いた(有効回答数 842)。



図 34 自宅での洗腸の有無について

また、アンケート調査の自由回答欄にあった洗腸に関するコメントは下表のとおりである。洗腸には自宅で1時間以上の時間がかかり、身体的負担があるのでやめる人もいる。

表 27 洗腸に関するコメント

回答番号 性別	ストーマ種別 年代 経験年数	コメント (6/33)
< 洗腸すると答えた人のコメント >		
S0847 男性	コロストミー 60代 13年	下痢等、緊急の場合は(トイレを)使用するが、外出先では排泄処理はしない
S0690 女性	コロストミー 70~80代 27年	毎朝洗腸している
S0207 女性	コロストミー 60代 27年	旅行等で外泊する時等
< 洗腸しないと答えた人のコメント >		
S0459 男性	コロストミー 70~80代 48年	20年洗腸をしていたが、止めた
S0453 男性	コロストミー 70~80代 23年	H4年10月人工肛門造設依頼洗腸を続けてきたが去年11月より自然排便とする。 理由：今までと違った状態となる。出る勢いが弱々しい。長年の洗腸で腸が弱ってきたのでは？
S0090 女性	コロストミー 70~80代 10年	病院の先生から流さなくとも良いと言われました。

5-3-3 イレオストミーの方の場合

ヒヤリング調査で面談した方(面談番号N17 イレオストミー、女性、69歳)以下、N17さんとする。

N17さんは、写真のように大便器の前に介護用のイスを置き、そこに座って処理をしている。

便座は前広便座を使用し、便器前に座ってもストーマ装具先端が届きやすい。便座の上には清浄剤等のケア用品が置かれている。

また、替えのストーマ装具はイスに座って左下のボールに置いている、装具交換で汚物を捨てて汚れた装具は、このボールの下に置いてある、ビニール袋でカバーしたバケツに入れる。

便器に向かって左奥には、温水の出るシャワーホースがあり、装具交換が終わった後に汚れた装具を洗い、ビニール袋に入れて、生ゴミ(家庭ゴミ)として処理している。捨て方は、自治体によっても異なるとのこと。

N17さんの自宅は、写真のトイレがN17さんご本人専用であり、浴室を挟んで反対側には他の家族の方が使うトイレがある。



写真10 イレオストミーの方(N17)の自宅トイレ

5-4 ケア用品

本節は、アンケート調査票1枚目（日常生活について）のケア用品に関する設問の結果、ヒヤリング時に撮影した面談者のケア用品の写真等を中心に、オストメイトが外出先の便房内に持ち込む小物類の実態をまとめた。

5-4-1 ケア用品に関する集計結果

オストメイトが外出する際、替えのストーマ装具や様々なケア用品が持参されている。本研究のアンケート調査から集計したオストメイトの方が持参するケア用品の集計結果は以下のとおりであった。

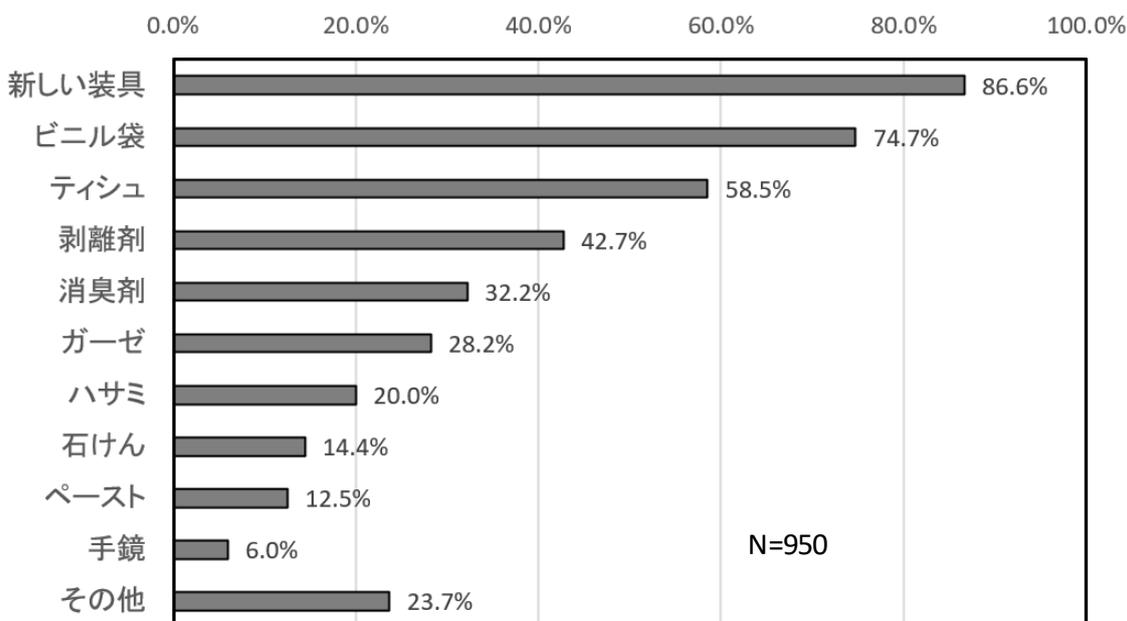


図 35 オストメイトの方が外出時に持ち運ぶケア用品等の内訳

オストメイトの方が持ち運ぶケア用品は、替えのストーマ装具のほか、交換して捨てる装具を入れるためや新装具を置くためにトイレ内に敷くためのビニール袋、ストーマ装具を外す際に使う剥離剤や、消臭剤を持ち込む人が多い。コロストミー、イレオストミー、ウロストミー等のストーマの種類や、体調等によって持ち込まれるケア用品は異なるが、一般のトイレ利用者とは異なり、オストメイトの方は常にこのような小物類をトイレに持ち込み、使用しなければならない。

5-4-2 外出先に持参するケア用品の事例

以下は、ヒヤリング面談者がいつも持ち歩いているケア用品等をA3サイズの紙の上に置いて撮影、記録した事例である。

ヒヤリング調査で面談した人の場合、トイレ内にA3サイズ用の紙面積のスペースがあれば、トイレに持参された小物類を並べて置くことができることがわかった。

(1) コロストミーの方の場合

ヒヤリング調査で面談した方(面談番号N16 コロストミー、男性、65歳)の場合、あれば多機能トイレを使用されている。2011年の東日本大震災でトイレが停電になった経験があり、その後はケア用品ではないが、常時ヘッドランプも持参されている。また、洗濯バサミは汚物流しで処理する際、シャツや下着が垂れないように固定するためとのこと。このような小物類一式をは、写真の左の袋にひとまとめにしてカバン等に入れて持ち歩かれている。



写真11 コロストミーの方が外出先に持参するケア用品の事例

(2) イレオストミーの方の場合

ヒヤリング調査で面談した方(面談番号 N17 イレオストミー、女性、69 歳)の場合、外出先のオストメイト対応トイレで装具交換、お腹を洗う行為もされている。写真の左下はビニール風呂敷で、これを2つに折り、サージカルテープ(写真の左橋)でお腹に固定して洗うための道具である。

また、ストーマ装具(面板とパウチ)や面板をカットするためのはさみ、腹部から面板を外す時に使う、剥離剤、水なしで使える腹部清浄剤も持参されていた。



写真 12 イレオストミーの方が外出先に持参するケア用品の事例

(3) ウロストミーの方の場合

ヒヤリング調査で面談した方(面談番号 N20 ウロストミー、女性、66 歳)の場合、自宅でも外出先でも大便器に座って排泄処理をされており、排尿だけだと特別な設備はいらないとのこと。しかし、トラブル時に備え、替えのストーマ装具等は持参されている。また、N16の方と同じく、懐中電灯を持参されている。

「自宅でも外出先でも大便器に座って排泄処理する。お風呂でお腹を洗い、ベッドで装具を交換している。」とのこと。

写真の左側は、替えのストーマ装具で、その下に隠れているのはガーゼである。ウロストミーの方の場合、装具交換時には、ストーマから尿が漏れないよう、ガーゼ等で押さえている人が多く、ガーゼや赤ちゃんのお尻ふき等を持参している人が多数いた。

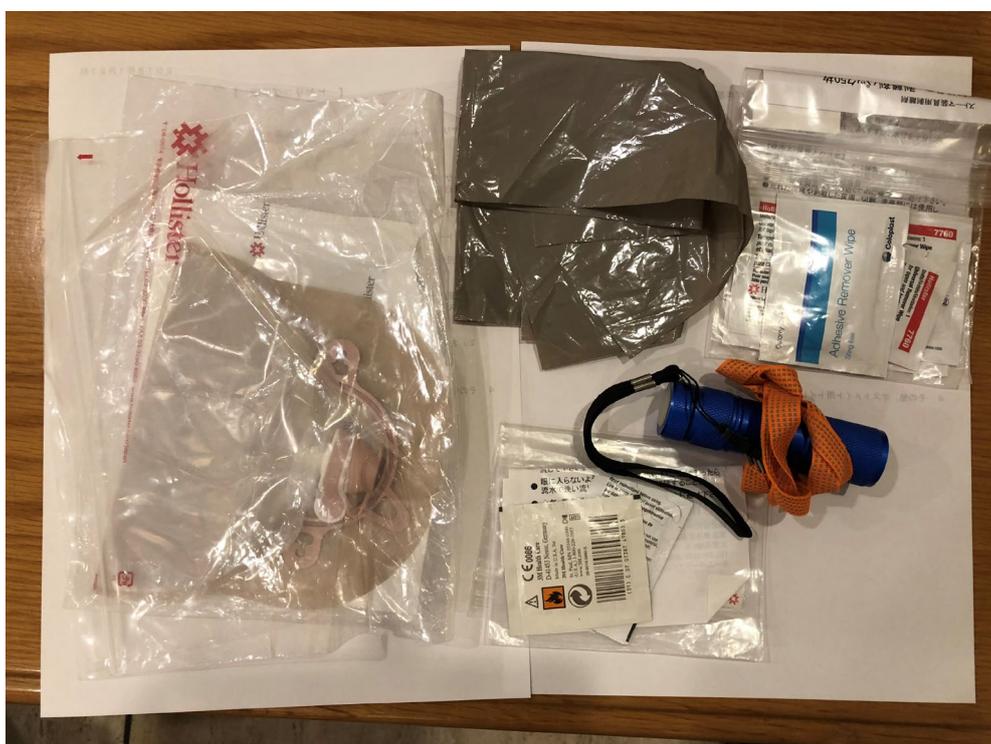


写真 13 ウロストミーの方が外出先に持参するケア用品の事例

(4) Wストーマの方の場合

ヒヤリング調査で面談した方(面談番号 N23 Wストミー、男性、30 歳)の場合、会社と家との往復が多いので、日常は替えのストーマ(この方はウロのストーマ装具を 2 ヶ所、コロのストーマ装具 1 ヶ所の系 3 ヶ所にストーマがある)のみを持参するとのこと。

しかし、旅行の時は写真の左上のように、かなりのストーマ装具とケア用品を持ち歩く必要がある。写真 7 の右下は旅行時に持ち運ぶケア用品等を入れる小物入れである。

写真左下にあるハサミは、ストーマ装具をストーマ周辺に通す穴を開けるためのものであり、穴をカットしやすいよう、先端が少し曲がっている。ストーマ装具でお腹に付ける部分(面板)の穴は、時間の経過に伴って表面が堅くなるので、ハサミで切ってすぐに腹部に付けるのが痛くなくて良いとのこと。

従って、持ち歩くケア用品のひとつとしてハサミを持参する人もいる。

日常持ち歩く小物(替えのストーマ装具一式)



旅行時に持ち歩く小物類

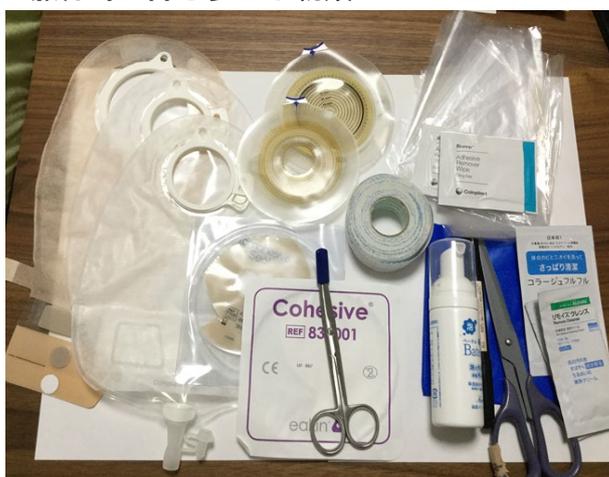


写真 14 Wストーマの方が外出先に持参するケア用品の事例

5-5 便房内行為の事例(面談者 N18)

面談者 N18 は W ストーマであり、腹部に装着するストーマ装具は、コロストーマ（便）用が 1 ヶ所、ウロストーマが 2 ヶ所の計 3 枚である。3 ヶ所のストーマと体との位置関係は図のようになっている（ご本人の記載）。

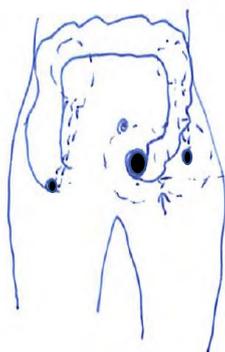


図 36 W ストーマのストーマ位置

5-5-1 面談者(N18) の日常とトイレ利用施設

以下に面談者 N18 に関する情報を箇条書きする。

- ・ 基本情報：W ストーマ, 男性, 30 代, 身長 175cm, ストーマ造設後 9 年
- ・ 安心外出：緊急手術で 1 年 4 ヶ月入院後は最初から、毎日外出
- ・ 外出目的：仕事(研究所)、買物、趣味、旅行他
- ・ 排泄頻度：3~4 回/日（職場で）
- ・ 排泄時間：5 分以内(トラブルは年 1 回程度)
- ・ 使用便房：一般便房(多機能もあれば使う)
- ・ 日常施設：オフィス(職場), 旅客施設
- ・ 必要施設：オフィス(職場), 旅客施設, スーパー
- ・ 必要設備：洋式便器, ペーパー, (あれば)汚物流し・荷物置き台・温水設備
- ・ 取材日：2017 年 10 月 15 日

5-5-2 便房使用状況

面談者 N18 の場合、普段移動する場所が職場と自宅の往復が多く、利用するトイレも決まっており、トイレ使用に困ることは少ない。

以下にトイレ使用状況コメントの要旨を記す。

- ・ 排泄時間は、尿と便を合わせても 5 分だが、交換をする場合は 40 分かかる。腹部のケアは浴室で行っている。

- ・就職活動中にパウチが破れ、電車で帰ったことがある。
- ・現在は医療の研究機関に勤め、職場に多機能トイレもある。また、職場にもストーマ装具やケア用品を置いている。
- ・日常は、職場と自宅の往復が多いので、替えのストーマ装具一式を持ち運ぶ
- ・旅行の時に持ち運ぶケア用品は、替えのストーマ装具（面板＋パウチ）、面板をお腹から剥がす時に使う剥離剤、腹部のケアで使う泡のスプレー清浄剤（ベータール）、水を使わずに皮膚を洗浄する清浄クリーム（リモイスクレンズ）、面板の穴をカットする専用のハサミ、サージカルテープ、ビニール袋等。

※) 写真 13 のケア用品は、面談者 N18 の事例である

5-5-3 一般便房内での行為手順

面談者 N18 が多機能トイレを使う時は、一般便房が空いていない時で、基本は一般便房を使用している。一般便房では尿は立って、便は座って処理するとのことで、行為の手順は以下のようなになる。

- ①ドアを閉めて荷物を置く
- ②排尿、排便のみの時はケア用品は使わないので、置かない。
- ③衣類を脱ぎ（ずらし）、便座に座る。
- ④便を捨てる。
- ⑤コロストーマの装具の先端をペーパーで拭く。
- ⑥立って尿を捨てる。
- ⑦衣類を着る。
- ⑧大便器の洗浄（洗浄ボタン）をする
- ⑨荷物を持ち、ドアを開けて出る。

5-5-4 オストメイト用設備について

あれば使うオストメイト用設備も含め、設備については以下の事項がコメントされた。

- ・絶対必要な設備機能は、洋式便器と紙巻器が片手で切れること。
- ・汚物流しはあれば使う。高さ調整やシャワーは必要ないが、温水は絶対必要。

面談者 N18 の場合、職場で自分が使えるトイレがあることで、外出時の排泄については、コートや荷物を便房内に持ち込むことは必要なく、ケア用品も都度持ち込めば良い。また、Wストーマであることから、排尿と排便の両方の処理が必要であるが、一般便房では排尿は立って処理し、排便は座って処理している。使い分けることはストーマ造設前からの習慣が影響していると推察するが、上記の行為手順のように効率の良い手順を確立している。

その上で、さらに効率を追求すると、紙巻器が片手で切れる等の使い勝手の良さが必要となるが、外出時の排泄が職場でなければ、一般便房での処理は困難なものと考えられる。

5-6 考察

オストメイトはオストメイト用設備を使い、排泄だけではなく、持参する小物類を使って装具交換、腹部のケア等を行っている。具体的な行為（設備の使い方）や工夫は個々に異なるが、腹部を日常的に洗う人が2割程度はいたこと、水（湯）がなくても簡易的に腹部を拭く方法等、一部のオストメイトには設備の利用が定着してきていることが明らかになった。また、一般便房内でも排泄だけではなく、装具交換や簡易的な腹部のケアも行われていたが、立って処理する人がいるなど、想定していなかった行為も明らかになった。

5-6-1 便房内行為について明らかになったこと

オストメイトが日常使用しているオストメイト対応トイレ、一般便房内での行為について、以下の事が明らかになった。

(1) オストメイト対応トイレ内では、オストメイトは便房内で汚物を捨てる他に、42.8%の人が装具を交換し、18.4%は腹部を洗っていた。オストメイト、特に30代から50代の方は、それらの行為で時間がかかり、臭いが残り、床が濡れることを心配して、トイレ利用に注意を払っている人もいることが判明した。

(2) オストメイトが常時持ち歩くケア用品には、腹部清浄剤等、水がなくても腹部のケアができるものもあり、一般便房内でも簡易的にこれらの行為を行うことが可能であることもわかった。

(3) オストメイト対応仕様でない一般便房では、立ったまま中腰になるという身体的負担や、汚物の跳ね返りや床に清潔なケア用品を置くこと等の衛生面でも問題が多い行為が行われていることが判明した。オストメイト、特に30代から50代の方が日常使用する比率が高い一般便房にも、最低限、装具交換がしやすい棚やフック等の整備が望まれる。

(4) 自宅での排泄では、大便器の座面には直接座らず、便器の前にイスを置く方が楽に処理できるという人の事例がわかった。オストメイトの自宅内での処理では、楽な姿勢、手が届く位置に小物類が置いてあることが基本となっていた。

(5) オストメイトが日常的に外出先で持ち歩く、替えのストーマ装具やケア用品は、概ね、A3サイズの手紙の面積があれば収まることがわかった。

5-6-2 ヒヤリング面談者が持参していた小物類

参考として、ヒヤリング調査面談者(2015年9月～2018年1月)のうち、持参したケア用品を写真撮影させていただいた事例写真12枚を図37にまとめている。

「図37」の上段、中斷、下段の各2枠の中に記載した寸法は、A3サイズ(297mm×420mm)の大きさを表している。「図37の続き」も同様である。また、「図37」の6枠は全てコロストミーであり、「図37の続き」ではコロストミー1名、イレオストミー3名、ウロストミーとWストーマが各1名である。

コロストミーという同一のストーマ種別(図37)でも、人によって毎日持参する小物類は異なる。ストーマ造設経験が長い人は慣れており、小物類も少ないと考えていたが、実際には経験年数とは関係なく、多い人も少ない人もあった。その人の排泄の状態(排泄が安定しているかどうか)にもよると考えられる。また、「図37」の上段の2名と、「図37の続き」のWストーマの人はともに30～50代で、比較的小物が少ない。お二人とも仕事でも外出されており、職場のように拠点があれば、そこにケア用品を置いており、持ち運ぶ小物は少ないということも考えられる。

個別には以下のことがわかった。

上段左と中斷右の人、「図37の続き」の中斷右の人はハサミも持参されていた。これは、造設したストーマの大きさが変わる(膨張や伸縮する)ことがあり、装具交換の際、ストーマの大きさに合わせて装具の面板部分の穴を調整して開けて装着するためと、面板の材質の影響で切った後は柔らかいので調整がしやすい(時間が経つと堅くなる)ためであった。ストーマ種別によらず、造設したストーマの形状、寸法は個人差が大きいことがわかった。

2011年の大震災以降、トイレでの処理中に停電が発生した経験から、懐中電灯を持参する人もいた。「図37」の下段右と「図37の続き」の下段左の人である。「図37」下段右の人はお薬手帳まで持参されている。出張が多いのでいざという時のことを常に意識されているようであった。

また、同じイレオストミーでも「図37の続き」の中斷左の人は持参する小物が少ないが、排泄回数が多いので職場での管理をきちっと行っている結果、普段の持ちものが少ない(3-5の事例)ようであるが、上段右と中斷右のイレオストミーはお二人ともかなり小物が多い。腹部のケアにはかなり気を遣っていることがわかった。

「図37の続き」のウロストミーは、コロストミー等の消化管系のオストメイトと同様に小物類をそろえているが、この面談者の場合は大便器に座って処理しており、特別な設備はいらないとのこと。

ウロストミーの中には汚物流しが不要な人もいることも、ウロストミーへのヒヤリングで明らかになった。

			
420mm		420mm	
297mm		297mm	
属性(N10)	主な小物類	属性(N14)	主な小物類
取材時期：2015年10月 ストーマ：コロストミー 性別：女性 年代：30～50代 造設年数：4.5年	ストーマ装具(替え), ハサミ, 剥離剤, 消臭剤, 皮膚保護剤, 上着固定 具	取材時期：2016年10月 ストーマ：コロストミー 性別：女性 年代：30～50代 造設年数：11年	ストーマ装具(替え), 装具カバー, 剥離剤, ウェットティッシュ, 小物入れ(ポーチ)
			
420mm		420mm	
297mm		297mm	
属性(N23)	主な小物類	属性(N09)	主な小物類
取材時期：2018年1月 ストーマ：コロストミー 性別：女性 年代：60代 造設年数：11年	ストーマ装具(替え) ×2セット, 剥離剤, 消臭剤, ビニール袋, 皮膚保護剤(ペースト)	取材時期：2015年10月 ストーマ：コロストミー 性別：男性 年代：60代 造設年数：14年	ストーマ装具(替え), ハサミ, 消臭剤, 剥離剤 皮膚保護剤(パテ) 他
			
420mm		420mm	
297mm		297mm	
属性(N11)	主な小物類	属性(N16)	主な小物類
取材時期：2015年10月 ストーマ：コロストミー 性別：女性 年代：60代 造設年数：16年	ストーマ装具(替え), 清浄剤, ティシュペー パー, ビニール袋, 小物入れ(ポーチ)	取材時期：2017年5月 ストーマ：コロストミー 性別：男性 年代：60代 造設年数：17年	ストーマ装具(替え), 潤滑剤, 剥離剤, テープ 洗濯ハサミ, 懐中電灯, ティシュペーパー 他

図 37 ヒヤリング面談者が持参したケア用品とそのサイズ

			
420mm		420mm	
297mm		297mm	
属性(N22)	主な小物類	属性(N15)	主な小物類
取材時期：2018年1月 ストーマ：コロストミー 性別：女性 年代：60代 造設年数：28年	ストーマ装具(替え), 剥離剤, 清浄剤, テープ, ビニール袋, オストメイトマーク他	取材時期：2016年12月 ストーマ：イレオストミー 性別：女性 年代：30~50代 造設年数：2年	ストーマ装具(替え), 剥離剤, 洗濯ハサミ, おむつ, ビニール袋, 皮膚保護剤(パウダー) 他
			
420mm		420mm	
297mm		297mm	
属性(N13)	主な小物類	属性(N17)	主な小物類
取材時期：2016年10月 ストーマ：イレオストミー 性別：女性 年代：30~50代 造設年数：3年	ストーマ装具(替え), ペーパータオル, 消毒 液, ビニール袋, タオル(別途)	取材時期：2017年8月 ストーマ：イレオストミー 性別：女性 年代：60代 造設年数：42年	ストーマ装具(替え), 剥離剤, テープ, ハサミ 懐中電灯
			
420mm		420mm	
297mm		297mm	
属性(N21)	主な小物類	属性(N18)	主な小物類
取材時期：2018年1月 ストーマ：ウロストミー 性別：女性 年代：60代 造設年数：10年	ストーマ装具(替え), 剥離剤, ビニール袋, 懐中電灯	取材時期：2017年10月 ストーマ：Wストーマ 性別：男性 年代：30~50代 造設年数：9年	ストーマ装具 (ウロストミー用×2, コロストミー用×1)

図 37 ヒヤリング面談者が持参したケア用品とそのサイズ(続き)

第六章 設備機能の課題と改善の方向性

オストメイト対応トイレが誕生して10年以上が経過した。まだ日常使用していないオストメイトも多いようであるが、設備の課題を知り、より多くのオストメイトに使ってもらうための設備改善の方向性を探るためには、日頃からその設備を使っているユーザーに直接確認することが必要である。

本章では、オストメイト全属性に日常使用で必要とする設備について確認したことに加え、日頃からオストメイト用設備を使っていると回答したオストメイトに、設備の個々の機能の必要性、困り事にも踏み込んで分析を行った。

6-1 設備商品とその機能

6-1-1 オストメイト用設備

下図は建築設計標準に掲載されたオストメイト用設備の例であり、本研究のアンケートやヒヤリングでもこの図を使用している。

この図では、オストメイト設備の機能の一部として、シャワー、流す（汚物流しの洗浄）ボタン、紙巻器、汚物流し、棚、水石鹸、混合水栓（お湯が出る水栓）があることを表している。

オストメイト対応トイレの設備としては、この他に、汚物流しの近くに設置するフックや、着替え台、荷物置き台、換気扇、鏡や照明が必要である。

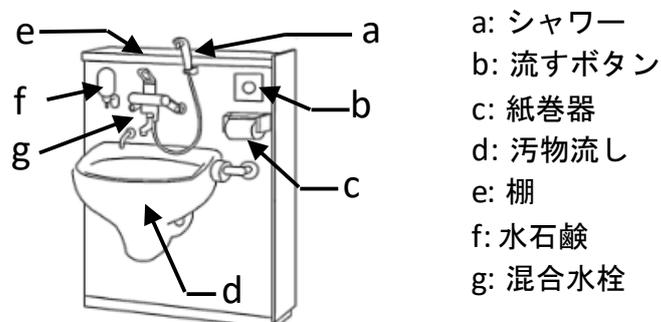


図 38 オストメイト用設備

6-1-2 簡易型水栓設備

2017年に改正された建築設計標準（ガイドライン）では、オストメイト用簡易型便房とオストメイト簡易型設備として、下図（左側）の設備が掲載されている。また、下図右側の絵は、東京都福祉のまちづくり条例の施設整備マニュアルに掲載されている絵で、下図左側の絵と同じものを示している。

この設備は、大便器の背もたれに付けられた水栓で、背もたれ側に隠れた水栓の吐水口を手前に倒すと、大便器内に直接、水を流せるようになっている。ストーマ装具を交換した際、汚れたストーマ装具を洗浄して持ち帰ることができる。

この設備があれば、オストメイトが便房内で行える行為として、ストーマ装具内の汚物（便、尿）を捨てることに加え、ストーマ装具の交換、交換したストーマ装具の洗浄ができるが、お腹を洗う、拭くという行為は想定されておらず、温水も出ないことから、簡易型という名称になったものとする。

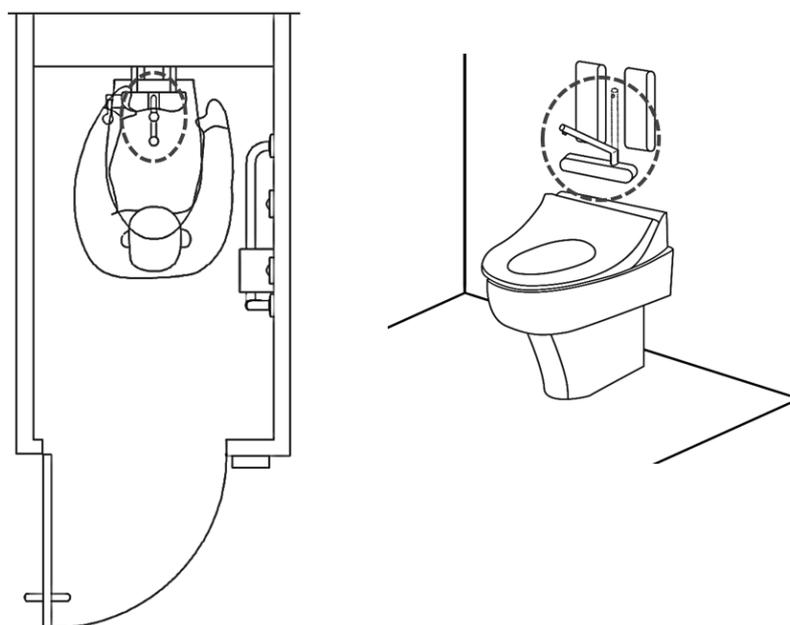


図 39 オストメイト用簡易型便房とオストメイト簡易型設備

6-1-3 必要設備機能

アンケート調査で、「あなたが外出先で使われるトイレ設備の機能で、絶対に必要なものは何ですか？ 全てお選びください。」と設問し、下図の17の機能を選択肢（複数回答）としたところ、以下のことがわかった。

尚、アンケート調査当時、オストメイト用設備がある便房はほとんどが多機能便房であったため、設問では手すりを除き、多機能便房にある設備を網羅して設問した。

日常、多機能便房を使用する人（図の○印）が必要な設備には、洋式便器、荷物置き台、ペーパーの次に汚物流し、棚、手洗器、汚物入れがあり、フックや水石鹸の次にシャワーや鏡が続く。このグラフでは、オストメイト対応トイレ使用者の30%超が温水設備、20%超がシャワーを必要な設備としている。鏡を必要としている人もシャワーと同程度存在し、20%超であった。シャワー、鏡を必要とする比率は、オストメイト対応トイレ内で腹部を洗うと回答した比率(18.4%)とも近似していた。また、汚物流しは60%超が必要とされていたが、洋式便器を必要とする人は一般便房使用者より低いものの、70%超であった。

オストメイト対応トイレを使用する人の20%は腹部を洗うためにシャワーを必要とし、汚物流しと同様に洋式便器も必要としていることがわかった。

また、一般便房使用者には、洋式便器、荷物置き台、ペーパーの次に棚や手洗器等、一般便房内に必ずしも設置されていない設備のニーズも高いことがわかった。

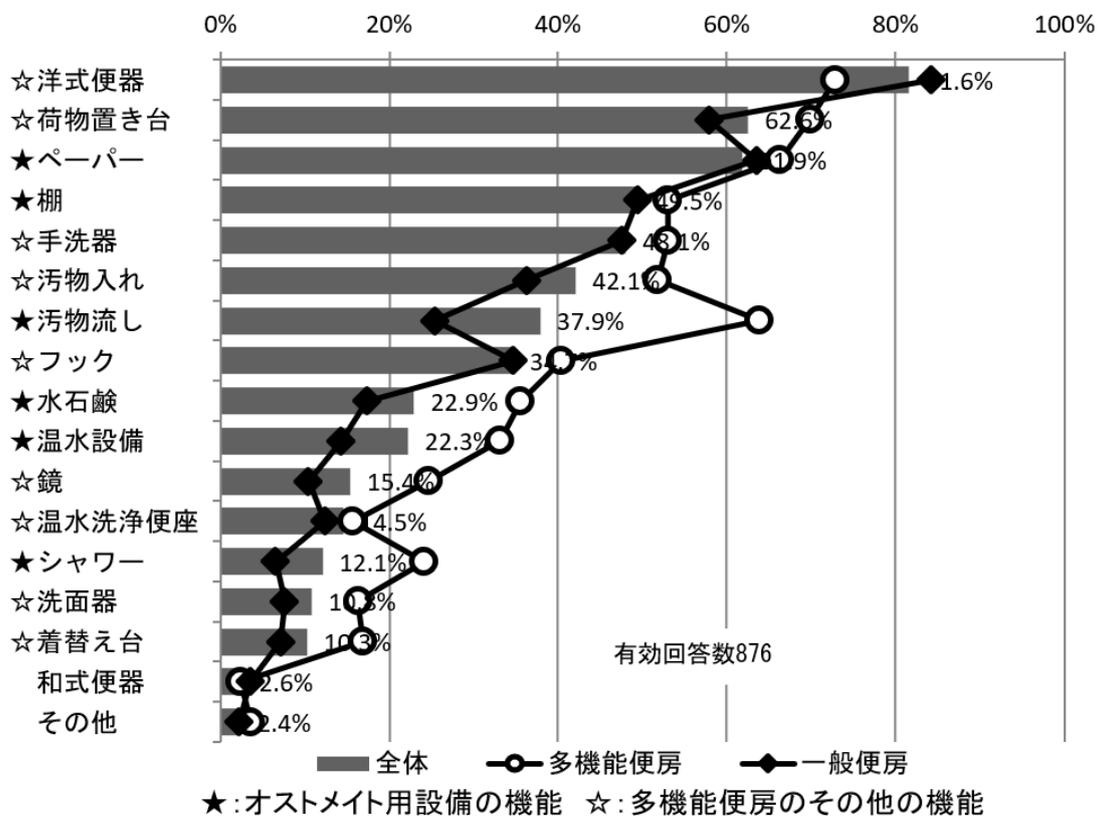


図40 オストメイトが外出先のトイレで必要とする設備機能

6-2 設備の困り事

6-2-1 オストメイト用設備で困っている機能

(1) オストメイト用設備の困り事の内訳

アンケート調査で、オストメイト用設備を日常使用している人に、設備について困っている事を機能別に確認したところ、下図のような回答比率を得た。

オストメイト用設備機能として困り事が一番多いのは「汚物流し」機能で、次に多い困り事は、位置が高いことや面積が小さいことなどの「棚」の機能、三番目は温水設備であった。その他にも、「混合水栓」では操作がわからないこと、「照明」が暗いこと、「洗浄ボタン」の位置がわからないこと等が困り事としてそれぞれあがっていた。

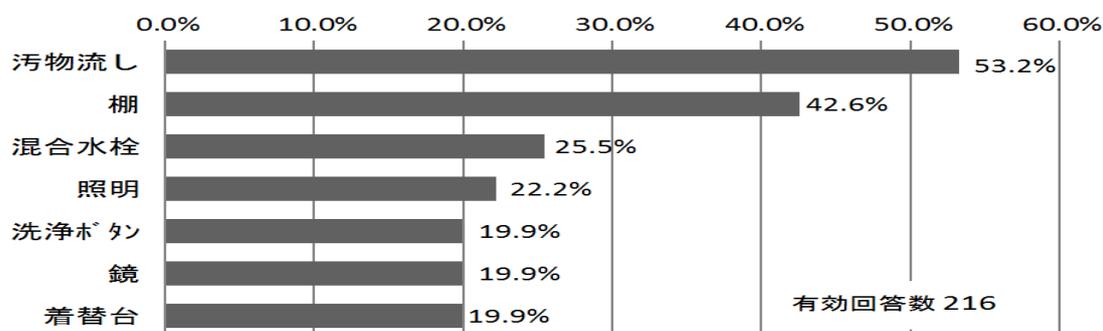


図 41 オストメイト用設備に関する困り事の内訳

なお、アンケート調査での設問の内容は、以下のように、それぞれの選択肢について困り事の例を記している。これとは異なる事項があれば、その下のコメント欄に書いてもらうようにした。

- 汚物流し (例：排泄物を落とすと跳ね返りがある)
- 混合水栓 (例：操作がよくわからない)
- 洗浄ボタン (例：どこに付いているかわからない)
- 棚 (例：棚にケア用品等が置けない、スペースが狭い)
- 照明 (例：暗いのでお腹が見えづらい)
- 鏡 (例：ストーマ装具交換の時にお腹が見えない)
- 着替え台 (例：汚物流しの下に置いて欲しい)
- 上記以外に必要な機能[]について

汚物流し、混合水栓、洗浄ボタン、棚、照明、鏡、着替え台の各困り事を選択した回答者の属性別の集計結果を以下に示す。

本データは、2015年8月に実施したアンケート調査で困り事項目にチェックをいただいた236名の回答の集計結果である。ストーマ種別、性別、年代別のいずれの場合も、汚物流し、棚に関する困り事の上位1位と2位を占めているが、属性間で違いがあるのかどうかは不明である。

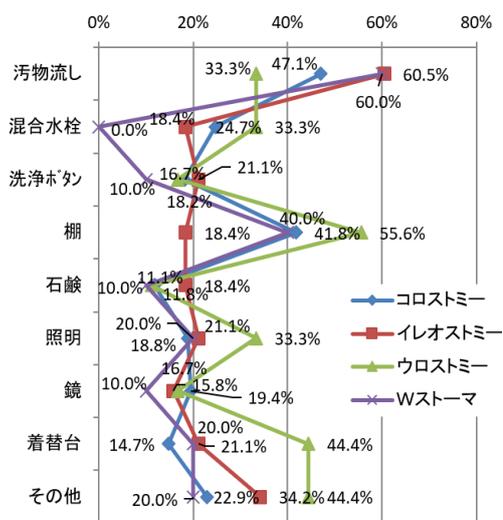


図42 1) ストーマ種別の困りごと内訳

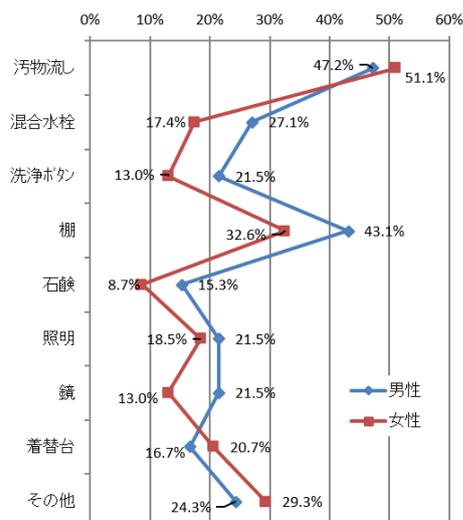


図42 2) 性別の困りごと内訳

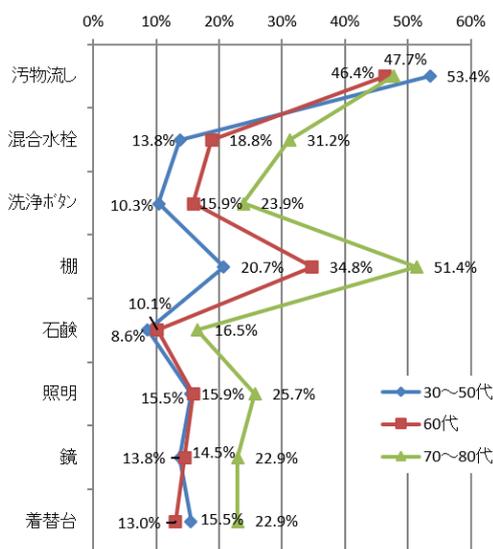


図42 3) 年代別の困りごと内訳

図 42 属性別の困りごと内訳

そこで、属性と困り事項目のクロス集計表を作成し、属性間で困り事に関して有意差があるかについて、対応分析（コレスポンデンス分析）を行った。以下はストーマ種別の対応分析結果である。

表 28 ストーマ種別のクロス集計

	汚物流し	混合水栓	洗浄ボタン	棚	石鹸	照明	鏡	着替台
コロストミー (170)	80	42	31	71	20	32	33	25
イレオストミー (38)	23	7	8	7	7	8	6	8
ウロストミー (18)	6	6	3	10	2	6	3	8
Wストーマ (10)	6	0	1	4	1	2	1	2

※) カッコ内はストーマ種別の回答者数を表す。

表 29 ストーマ種別の対応分析結果

軸	特異値	固有値	寄与率	累積寄与率
第1軸	0.1465	0.0215	0.4923	0.4923
第2軸	0.1243	0.0154	0.3542	0.8465
第3軸	0.0818	0.0067	0.1535	1.0000

行間差・列間差の有意性の検定	カイ二乗値	自由度	P 値
第1軸	10.0359	9	0.3476
第2軸	7.1993	7	0.4084
第3軸	3.1059	5	0.6837

以上の分析結果は、P 値が全て 0.05 を超えており、ストーマ種別間で有意差があるとはいえない結論となった。性別や年代別についても同様の結果であった。

以後、設備の困り事については、個別属性も尊重するが、属性で共通の困り事、例えば汚物流しの高さが低い、棚に手が届かないなど、属性によらない身体特性等を重視して設備の機能を考えることとした。

(2) シャワー機能の必要性

アンケート調査では、困り事とは別に、シャワー、温水設備、高さ調整の機能がどの程度必要なものなのかを明らかにするため、それぞれの機能について、絶対必要、あれば便利(使う)、必要でないの3つの選択肢を設け、設問している。

シャワー機能について、日常、オストメイト対応トイレを使用する人に絞って集計した結果、下図のような比率を得た。尚、必要な理由は無回答の人も含めている。

シャワーが絶対必要な人は、全属性で 19.3%であり、イレオストミー、ウロストミー、男性の比率が高く、年代では若い世代(30~50代)の比率が高い。

シャワーが必要な理由として、腹部を洗うことをあげている人(22人)の内、絶対必要な人は 68.2%であり、データ数は少ないが、シャワーと腹部を洗うことは、特に関係性が深いことが推察できる。

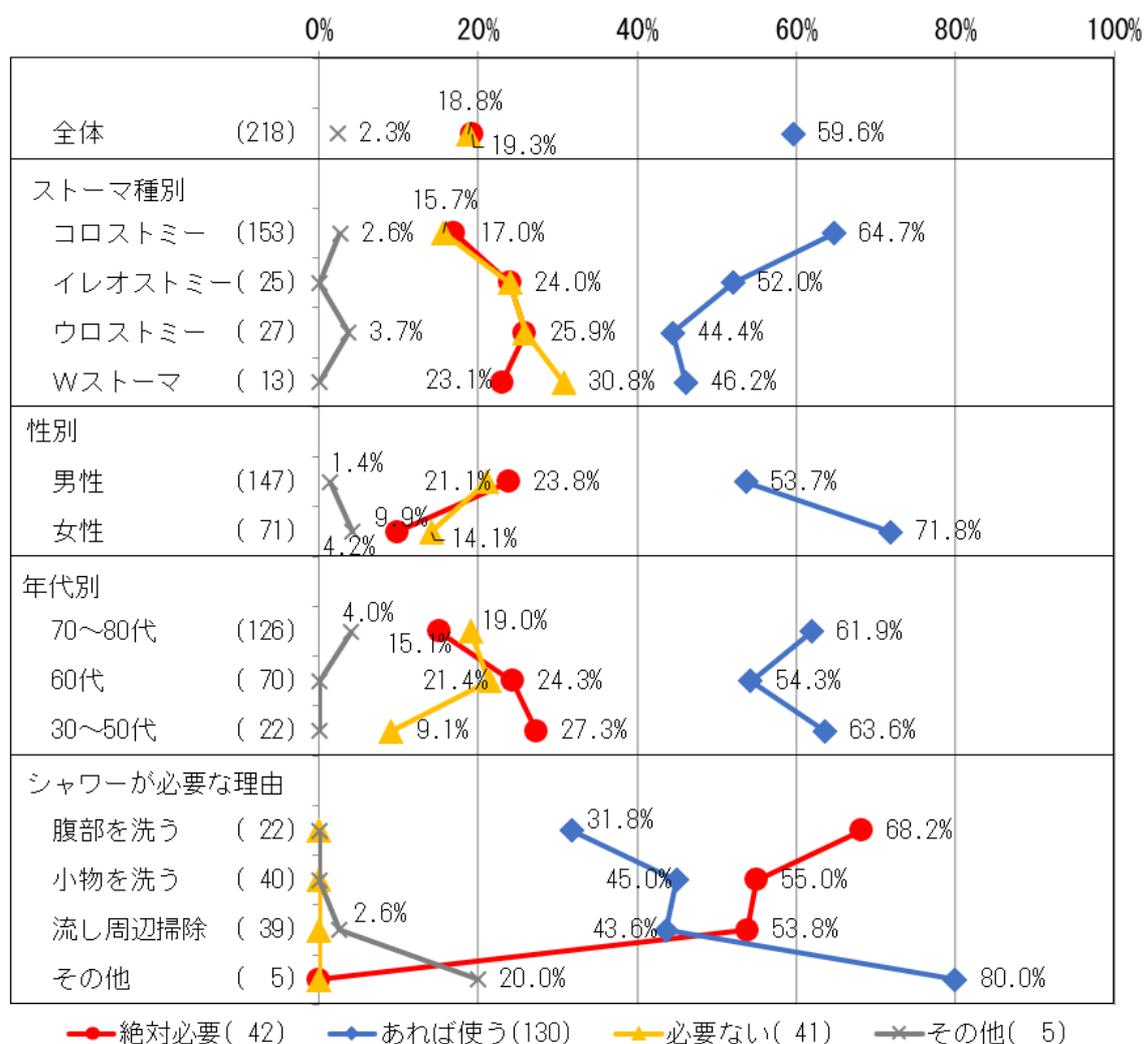


図 43 シャワー機能の必要度

(3) 温水設備の必要性

温水設備機能について、日常、オストメイト対応トイレを使用する人に絞って集計した結果、下図のような比率を得た。

全体では、あれば使う人が 69.7%で最も多いが、温水設備については絶対必要な人と必要でない人が 15%前後で拮抗していた。しかし少なくとも 30～50 代で温水設備が必要ないと答えた人は非常に少なかった(4.3%)。

下図の設問では、様々な設備の中で、温水設備が絶対必要な設備とするオストメイト対応トイレ使用者が 30%超であったが、温水設備単独の設問では 15%程度になった。日頃、オストメイト対応トイレを使っている人も温水設備を使う行為は週に数回の人が多く、毎日使うこと人が少ない機能であるため、単独で温水の価値を問われれば、温水機能があるトイレを使う時には器具交換や腹部のケアで使うことが浮かばず、絶対必要の回答率が低かったものではないかと推察する。

しかし、あれば使うと回答した人も含めると、少なくとも 80%超の人がオストメイト用設備の機能として温水が出ることを望んでいた。

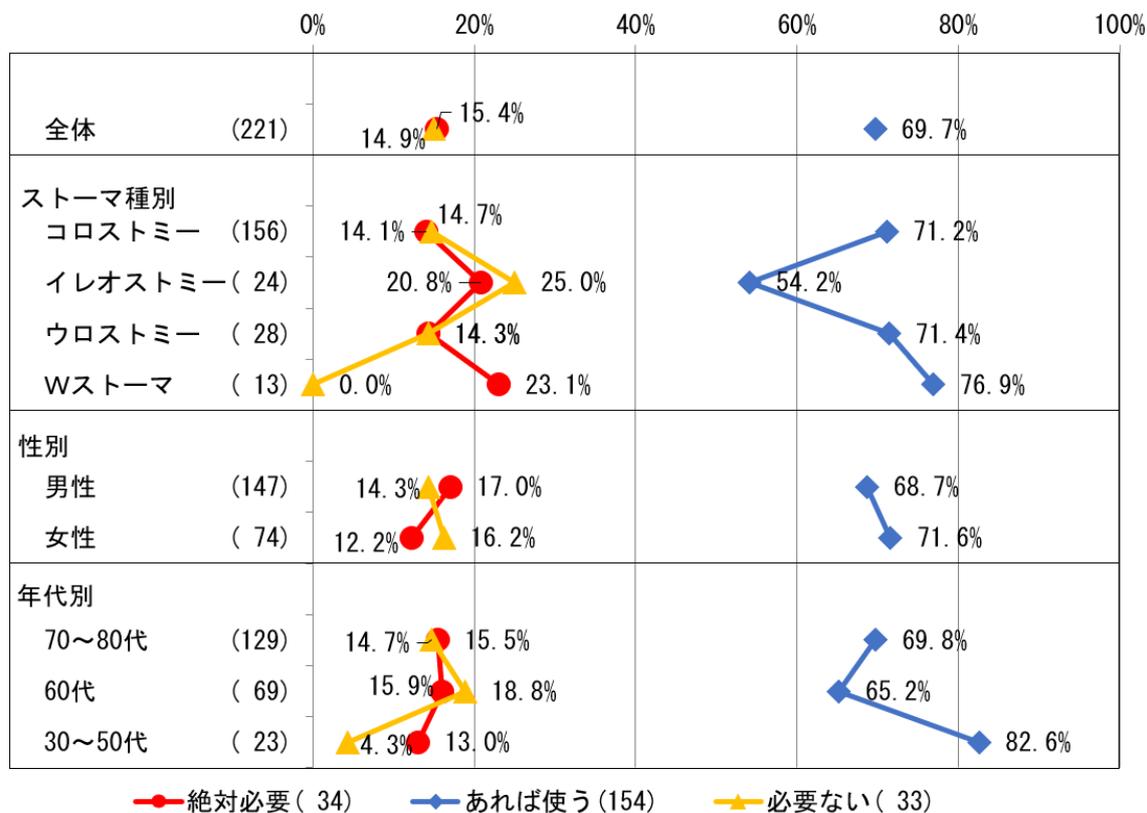


図 44 温水設備の必用度

<参考値>

シャワー等の温水設備の必要湯量は、設備仕様を検討する際、重要な要件のひとつとなり得る。本調査では、3~4リットルの出湯が可能な電気温水器があれば、オストメイトの方のニーズに概ね応えられることを確認した。

ただし、集計はデータ数を増やすため、日常は一般便房を使用するが多機能便房もあれば使う人も含めた。

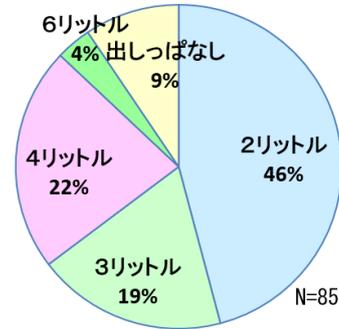


図 45 絶対にシャワーが必要と答えた人が必要とする湯量

(4) 汚物流しの高さ調整の必要性

汚物流しの高さ調整機能について、日常、オストメイト対応トイレを使用する人に絞って集計した結果、下図のような比率を得た。

しかし、汚物流しの高さ調整は、設備の困り事としての回答数も多く、(1) オストメイト用設備の困り事の内訳で、属性間で有意差があるとはいえないという分析結果もあり、下図は参考データとし、身長差等について分析することとした。

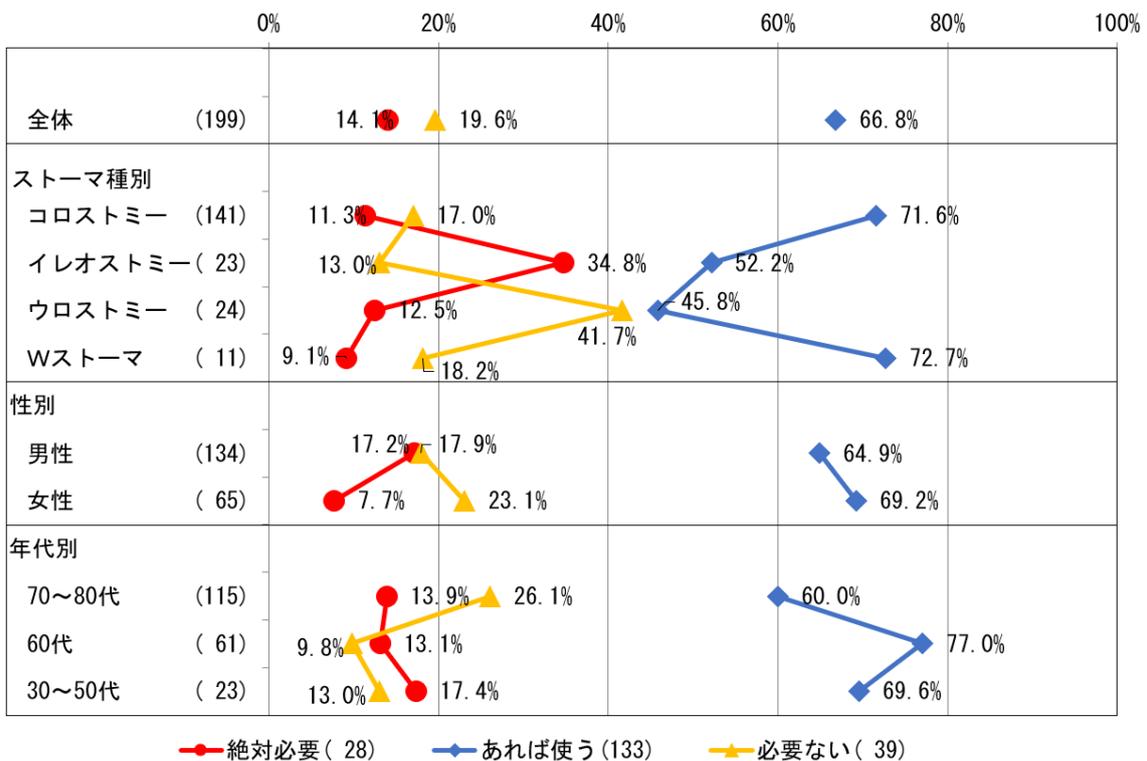


図 46 汚物流しの高さ調整機能の必用度

(5) 汚物流しの縁の高さ

汚物流しの縁の高さは、成人で背の低い人を配慮し、床から 68 cm となっているが、背の高い人にとっては、不自然な排泄姿勢を強いられることになる。

ヒヤリング調査で面談した 22 名の方に、その場でストーマの床からの距離(靴の厚みも含む)を測定させていただいた結果、ストーマ種別毎に、下図のような身長・ストーマ造設高さのデータを得ることができた。

ストーマ造設高さの最低値は 80 cm で、汚物流しの縁の高さ (68 cm) よりは 10 cm 以上高く、最高値は 102 cm で、最低値とは 22 cm の差があることがわかった。

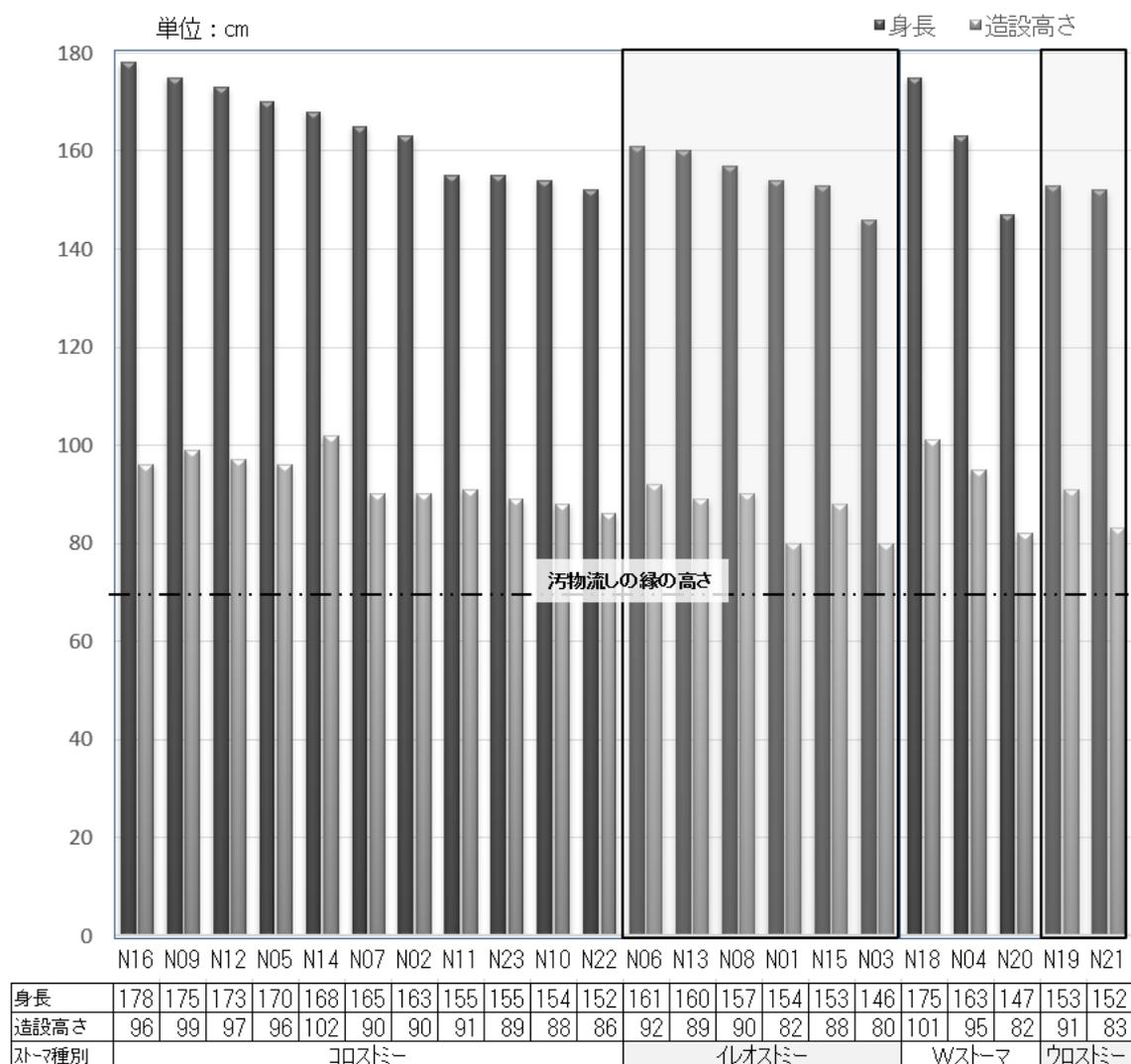


図 47 ヒヤリング調査面談者の身長、ストーマ造設高さ

図 47 の身長とストーマ造設高さのデータを散布図で表すと、下図を得た。
 下図の横軸は身長 (cm) をプロット、縦軸にはストーマ造設高さ (cm) をプロットした。
 身長とストーマ造設高さには、相関係数 $R=0.8662$ とする正の相関があることが確認できた。

尚、図の赤点線で囲ったデータははずれ値のように見えるが、このデータの人は身長 168 cm のコロストミー (ストーマはおへその左下が多い) の方で、ストーマがおへその上 (横行結腸) なので、データとしては正しい。

従って、強い相関ではないが、概ね正の相関があると考えられる。

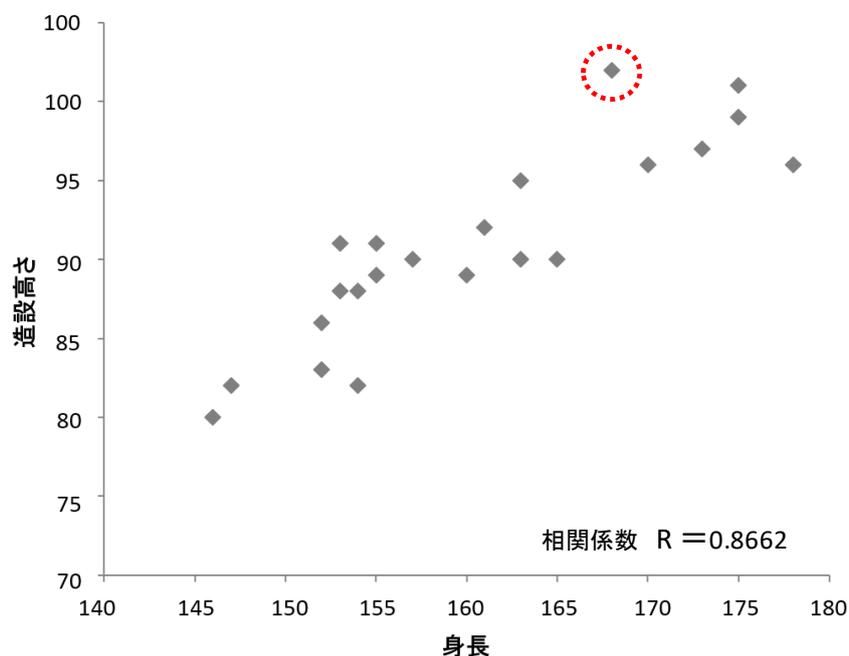


図 48 身長とストーマ造設高さに関する散布図

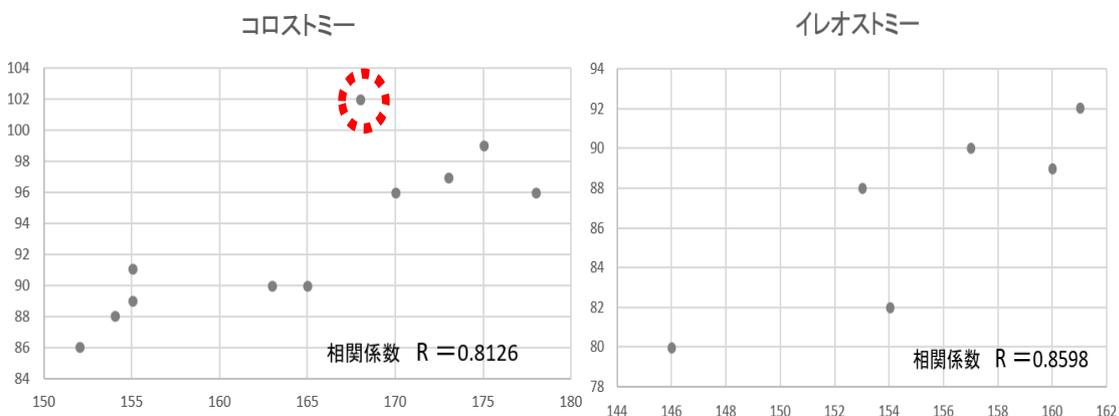


図 49 身長とストーマ造設高さに関する散布図 (属性別)

6-2-2 オストメイト用設備に関するコメント

オストメイト用設備の困り事に関するアンケート調査票の自由記入欄に記入されたコメントは323件あった。この内、オストメイト用設備の機能に関してアンケートで具体的に記載されたコメントの数は、多い順に汚物流し(44)、棚(23)、トイレトペーパー(18)、シャワー(10)、温水(8)、照明(5)であった。その要旨(表23)から以下のことがわかった。

(1) 紙巻器の位置

ペーパーホルダー(紙巻器)は、片手に装具の先端を持っているため、片手でペーパーが切れることが必要である他、汚物流しの正面に立った時に、片手(利き手)で手が届くことが求められていた。例えばコロストミーで右利きの人は、腹部の左側にストーマを造設することが多く、排泄の時は左手で装具の先端の排泄口を持ち、右手でペーパーをカットして排泄口を拭くことが考えられる。この場合、汚物流しの正面に立つ姿勢のまま右手だけでペーパーをカットしなければならない。片手でペーパーが切れない場合は、事前に何枚かカットして、手の届く位置に置いておくが、その分、時間もかかることになる。

表30 オストメイト用設備に関するコメント(ペーパー)

回答番号 性別	ストーマ種別		コメント(総数18)
	年代	経験年数	
<ペーパーホルダー>			
S0116 女性	コロストミー 30~50代	2年	ペーパーロールの場所が遠い
S0272 女性	コロストミー 30~50代	4年	ペーパーホルダーは必ず右側に付けてほしい。片手しか使えない時に困る。
S0972 女性	Wストーマ 70~80代	12年	ペーパーホルダーの位置が低いので水でぬれる
S0124 女性	イレオストミー 30~50代	20年	ペーパータオルがあれば良いと思う。トイレトペーパーの位置が使用しづらい。
S0739 男性	イレオストミー 60代	(記載なし)	ペーパーホルダーが1ヶ所。複数個設置できるホルダーが無い場合が多い。
S0737 男性	イレオストミー 60代	3年	ペーパーは30cmで前もって数枚をカットしたいのだが、紙質でうまく切れないことがある。
S0282 男性	コロストミー 70~80代	5年	トイレトペーパーについて、切った後若干ペーパーの端が出る事が望まれる
S0367 女性	コロストミー 60代	20年	ハンドペーパーホルダーが欲しい。使用后、ぬれた手をふく時にそばにあれば下着等の着用にする時にあればすごく便利
S0366 男性	コロストミー 60代	6年	トイレトペーパーを下(ボール水面上)に敷き、はねない様にしている

(2) 汚物流しの縁の高さと身体的負担

汚物流しは、汚物を落とした時にボール水面に跳ね返り、周囲が汚れることが気になっていた。立位の場合、汚物流しの縁の高さがストーマ造設位置に比べて低いと、できるだけ汚物流しのボール水面に装具を近づけるために足を広げ、中腰にならざるを得なくなり、身体的負担が大きいことがコメントされた。

汚物の跳ね返りについては、最近の設備では水面が深く、上に跳ね返ることの少ない構造になっており、解消された部分もあるが、ストーマ装具内にガスが溜まっている場合等、思わぬ方向に汚物が飛び出すこともある。オストメイトはそのような跳ね返りや器具を汚すことを避けるために、できるだけ汚物流しの縁の中に装具の先端が入るよう、中腰になっても排泄を行う。高さの調整は、このいような場合には有効であると考えている。

表 31 オストメイト用設備に関するコメント(汚物流し)

回答番号 性別	ストーマ種別 年代 経験年数	コメント(総数44)
<汚物流しの跳ね返りが困る(38.6%)>		
S0004 男性	Wストーマ (不明) 7年	排泄物が跳ねる。流せないところに排泄物が落ちる。 (身長175cm(アンケート回答))
S0288 女性	コロストミー 30~50代 3.5年	汚物流しの水面にペーパーをひいても、排泄物を落とすと跳ね返りがある。(身長156cm(アンケート回答))
<汚物流しの高さ(高い/低い)が困る(27.3%)>		
S0290 男性	コロストミー 70~80代 21年	高さが低すぎてパウチの排出口が汚物流しのフチの中に入らず中腰になって排出するのがつらい。 (身長168cm(アンケート回答))
S0267 女性	イレオストミー 30~50代 4年	汚物流しは跳ね返りがきになるのと、少し低いものが多く、足をひろげて高さを調整しないとイケない。 (身長165cm(アンケート回答))
S0540 女性	コロストミー 60代 3年	高さが高くて使いにくい。 (身長153cm(アンケート回答))
<汚物流しの洗浄が弱い(18.2%)>		
S0093 男性	コロストミー 30~50代 4.5年	時々、汚物を流す時に水洗が弱くて何回も流さなければならない時がある。(身長168cm(アンケート回答))
S0315 男性	コロストミー 30~50代 6年	水圧が低いため汚物が流出してくれない。何度ボタンを押しても汚物流しの底にたまっている。だからあまり利用しない。 (身長169cm(アンケート回答))
<その他(13.6%)>		
S0189 女性	コロストミー 70~80代 7年	このような汚物流しの機能のものはとてもいいですが、あまりにもシンプルな物に出会い、(機能がなくて)困る時もあります。 (身長147cm(アンケート回答))

(3) 棚へのニーズ

外出時に持参するケア用品は人によって異なるが、トイレ使用時にケア用品を置く場所として、棚へのニーズが高く、棚がない、狭い、届かないという困り事がコメントされた。

棚の高さについては身長によって個人差がある。オストメイト用設備は、キャビネットの上(高さ115cm)が棚として利用できるのですが、身長の高い人には問題ないが、低い人には届きにくい場合もある。身長の低い人に合わせた棚が別途にあれば、使用可能な人が増える。

オストメイトは、外出時に様々な小物類を持ち歩き、トイレの中でそれを拵げて使わなければならない。また、汚物をストーマ装具から捨てるだけの場合でも、ペーパーに手が届かなければ事前にペーパーをカットして、どこかに置いておかなければならない。さらに消臭剤や凝固剤を排泄後の装具内に入れる人もいた。オストメイトにとって棚はトイレ使用の必要条件であるが、棚があっても設置場所が遠かったり、狭かったりと余分な時間や身体的な負担もあった。オストメイトが手が届き、小物類を十分に置けるスペースのある棚があることが、オストメイト用の棚に関する充分条件と考える。

表 32 オストメイト用設備に関するコメント(棚)

回答番号 性別	ストーマ種別 年代 経験年数	コメント(総数23)
<棚の位置が遠い(8.7%)>		
S0818 女性	コロストミー 30~50代 4年	位置が高すぎて使いづらい。横の位置に物が置ける場所が欲しい。(身長146cm(アンケート回答))
S0788 男性	ウロストミー 70~80代 11年	棚の位置が手が届かない。自動消灯する。足を入れるスペースがなく、長時間同じ姿勢が困難。(身長180cm(アンケート回答))
<棚が狭い(39.1%)>		
S0265 女性	コロストミー 60代 11年	棚にケア用品を置くスペースが狭い。(身長163cm(アンケート回答))
<棚がない(34.8%)>		
S0087 男性	イレオストミー 30~50代 20年	ストーマ装具を置く棚がなく、不便である。(身長167cm(アンケート回答))
S0518 女性	コロストミー 30~50代 17年	棚がないトイレが多い。ベッドやオムツ替えベッドのような衣類やバッグを置く場所があると良い。(身長156cm(アンケート回答))
<その他(17.4%)>		
S0544 女性	コロストミー 30~50代 23年	公園や駅のトイレは棚が汚くてもものが置けない 駅、公園のトイレは喫煙等に使用される場所もあり汚いこともある。清潔であってほしい。(身長155cm(アンケート回答))
S0555 男性	コロストミー 70~80代 不明	小物がころげ落ちないように周りに柵をしてほしい。(身長164cm(アンケート回答))

(4) 温水設備、シャワー、鏡

お腹やストーマ装具、汚物流しの汚れを洗い落とすための温水やシャワー^{注5}、ストーマとストーマ装具接着部の状態を見るための鏡も必要な機能であり、オストメイト用設備の基本機能であることが確認できた。

表 33 オストメイト用設備に関するコメント(温水設備)

回答番号 性別	ストーマ種別		コメント(総数7)
	年代	経験年数	
＜温水設備＞			
S0023 女性	コロストミー 30～50代	1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドシャワーのお湯を出す時にスイッチを押し続けるといけないこと ・汚物流しの温水のところでお腹を洗浄する際、お湯がこぼれやすいので洗濯機の防水盤みたいなものを設置してもらうか床を拭き取りする為のペーパーなどを設置してほしい。 ・トイレの「流す」ボタンが後ろではなく手の届きやすい横に設置してほしい。普段は一般トイレを使用していますが困った時にオストメイト用のトイレを使用します。なので そういう時こそ温水設備のある洋式トイレ 着替台 汚物流しが助かります。 ・お願い：温水設備があるのに水しか出ないところがあり困りました。必ずお湯を使えるようにしてほしい。 (身長152cm(アンケート回答))
S0709 男性	コロストミー 60代	10年	<p>水の温度は一定(37～40℃)にしてもらった方が使いやすい。 (身長180cm(アンケート回答))</p>
S0294 男性	不明 70～80代	47年	<p>温水と水を出す場合の図示があれば間違いないと思う。 (身長158cm(アンケート回答))</p>

尚、2003年～2010年まで販売されていたオストメイト用設備のハンドシャワーは、流しっぱなしを防止するために、シャワーヘッドを持った手でボタンを押しながらお湯を流す構造になっていた。

現在のものは、シャワー吐水位置を固定できるので、両手でパウチを持って洗えるようになっている。

表 34 オストメイト用設備に関するコメント(シャワー)

回答番号 性別	ストーマ種別		コメント(総数10)
	年代	経験年数	
<シャワー>			
S0813 男性	コロストミー 70~80代	47年	シャワーとノズルの切り替えの停止位置が分からない(混合水栓)。 (身長164cm(アンケート回答))
S0491 男性	コロストミー 60代	8年	場所によって汚物流しの右側が狭く、ハンドシャワーが無いところがある。右側に余裕がある方が良い! (身長178cm(アンケート回答))
S0129 女性	Wストーマ 30~50代	3年	パウチ内を洗浄する時、ハンドシャワーに水を出したり止めたりの調節ができるボタンがあれば便利です。この様な設備のあるハンドシャワーを時々見かけます。できれば全てのトイレにあれば、と思います。水を出したままパウチ内を洗浄したら洋服がぬれる時があります。(身長157cm(アンケート回答))
S0140 男性	イレオストミー 30~50代	6年	シャワーのいきおいが少なく使えないことも多い。温水も出ないことが多い。どこも安心して使えれば装具交換のために貸切温泉やビジネスホテルに行く必要なく旅行や外出しやすい。 (身長163cm(アンケート回答))

表 35 オストメイト用設備に関するコメント(鏡)

回答番号 性別	ストーマ種別		コメント(総数6)
	年代	経験年数	
< 鏡 >			
S0269 男性	コロストミー 60代	14年	装具交換時 鏡の位置が良くないので見えにくい。照明も照度が低いのでさらに見えにくい。(身長175cm(アンケート回答))
S0240 男性	ウロストミー 60代	不明	正面の鏡角度が調整出来る様にしてほしいです。 (身長175cm(アンケート回答))
S0082 男性	コロストミー 60代	18年	鏡は腹が見える位置にあればいい。 (身長174cm(アンケート回答))

上表のコメントをした回答者は、いずれも身長 170 cm以上の人であり、普通に立ったままでは鏡で腹部が見えなかった(膝を曲げて腹部を汚物流しの縁に当てれば見える)。

さらに、オストメイトがオストメイト対応トイレの中で処理を行う際、それぞれの行為で設備について困っている事とその対処方法や要望についても、次の表 32 にまとめた。

表 36 便房内行為で使う設備機能の困り事とその対処／要望

便房内行為等	設備機能の困り事	対処／要望	対象機能
排泄物を捨てる	・汚物流しの跳ね返りがある	・ポール水面にペーパーを敷いて跳ね返りを軽減する。(ポール水面の面積削減)	汚物流し
	・体調不良時、ガスや汚物でパウチ満杯の時、汚物流しに入らず、周辺を汚す。	・シャワーで汚れを落としたい(シャワーにホースが必要)	汚物流し
	・汚物流しは汚いので直に肌に当てられないので陶器の縁にトイレトペーパーを敷く。結果、多量のトイレトペーパーで流しが詰まることある。	・陶器に触れない使い方を(ビニール風呂敷等)	汚物流し
	・高さ調整できないので、汚物流しの縁がストーマ造設位置より高く、使えない。 ・汚物流しが低いので、かなり腰をかがめないとうまく汚物を落とせない。	・汚物流しに高さ調整機能が欲しい	汚物流し
	・ペーパーが片手でちぎれないのでストーマ装具を持ったまま装具の口を拭けない。	・片手でペーパーをカットできる紙巻器が欲しい	紙巻器
	・紙巻器が左にあると、右手が届かないので、ストーマ装具を持ったままトイレトペーパーが使えない	・紙巻器は汚物流しの両側に欲しい	紙巻器
装具交換する	・棚が汚物流しの真上にあると、交換するストーマ装具やケア用品が汚物流しの中に直接落ち、使えなくなる	・棚は汚物流し横で手が届く位置が良い	棚
	・棚が狭すぎてモノ(ストーマ装具やケア用品)が置けない	・ストーマ装具が落ちない広さが必要	棚
	・外したパウチを一時置きする場所がないので、フックにビニール袋を掛け、その中に一時置きする ・フックがないところもある。	・フックは汚物流しの前立って、手が届く位置に必要	フック
	・ストーマ装具を外す時にお腹が見えない。手鏡を持参しても置き場所がない。	・回転可能な小鏡、汚物流し横に姿見用大鏡等	鏡
	・お腹の汚れを落とす(清拭する)ためにお湯が必要 ・面板交換しない(パウチのみの交換)場合は、面板周辺の清拭のためにお湯が必要	・温水設備が必要	温水設備
お腹を洗う	・シャワーが片手で出し止めできない。 ・シャワーが痛い(放射状に勢いよく出る) ・シャワーでパウチの中を洗おうとすると、跳ね返りが多く、洗えない。	・片手で出し止めできるシャワーヘッド ・泡沫吐水のシャワー	シャワー
	・シャワーを使うと、汚物流しの下床がすぐにびしょ濡れになる	・汚物流しの下は、洗濯機の防水パンのようなものが欲しい	シャワー
トラブル時	・汚れた下着、衣類を脱ぎ、洗いたい(応急処置) ・着替えや汚れた衣類を一時置きする場所がない(大型ベッドに置く)	・汚物流しと着替え台 ・多機能トイレ	着替台
臭い	・汚物を捨てた後の臭いがあるので、広いトイレが良い	・消臭剤と換気扇	換気扇
長時間使用	・30分以上時間がかかるので、壁にもたれて、あるいは椅子に座って処理したい	・便棒内で椅子を使いたい	その他
照明	・照明が真上の天井にあると、手元が影になり、見にくい。	・照明は天井の端	照明

6-2-3 一般便房の設備に関するコメント

一般便房内行為に関するコメント（169件）には、便房内の設備に関してコメントされたものもあり、以下のことが指摘されていた。

（1）立って処理するため、大便器水面での汚物の跳ね返りを軽減するためにペーパーを敷くが、効果をあげるためには相当量のペーパーが必要で、何度も便器洗浄を繰り返している。

（2）ストーマ装具から汚物を捨てる際、装具先端の口を拭くペーパー等を準備するが、それらを置く棚がなければ、床にビニール袋等を置いている。

（3）汚物を捨てた後に装具内を洗うため、ペットボトルに水を入れて便房内に持ち込む行為が多数コメントされている他、便房内で水（湯）が使えれば腹部を拭く等、腹部のケアもできることがわかった。

表 37 一般便房設備に関するコメント

回答番号 性別	ストーマ種別 年代 経験年数	コメント
<ペーパー>		
S0445 女性	コロストミー 70~80代 17年	・ 便器のボール水面に敷く 立って大便器内にトイレットペーパーを敷き（水が多くて出来ない時もある）その上に汚物を出して水で流す。何回も流すことがある。（身長152cm（アンケート回答））
<棚>		
N15 女性	イレオストミー 30~50代 2年	・ 床にビニール袋を敷いてケア用品を並べる 一般便房に折りたたみテーブルや棚があると、腰掛け便座に座ったまま処理できる。ない場合、床にビニール袋を敷いてケア用品を並べて処理している。（身長153cm）
S0012 男性	Wストーマ 30~50代 6年	・ ペーパーを棚に置く 排泄物を処理する前にトイレットペーパーを20cm位の長さに3~4つ分切り、装具先端を拭くための準備をする。それを置くための棚が見つからないことが多く、困ります。（身長169cm（アンケート回答））
S0519 男性	コロストミー 60代 18年	・ 棚の寸法 立ったまま処理する。棚は必須です！ 高さは70~90cm 横幅50cm×奥行25cm以上 （身長171cm（アンケート回答））
<手洗器>		
S0800 男性	コロストミー 70~80代 30年	・ 一般便房での腹部ケア ストーマ、周辺をきれいにする為に布、ティッシュをしめすが水よりも温水の方がベター（身長160cm（アンケート回答））
N20 女性	Wストーマ 70~80代 6年	・ 装具の中を洗う 小さいペットボトルに水を入れて持ち歩き、装具の中を洗う。（身長147cm）

尚、一般便房設備については、特に設問はしていなかったが、一般便房内の行為やオストメイト対応トイレの設備困り事のコメントの中で、一般便房にふれているコメントを抽出した。参考までに、一般便房内の行為に関するコメント（169件）の中では、ペーパー（18件）、棚（2件）、手洗器（2件）の単語が抽出された。

6-3 経験豊富なオストメイトの事例(面談者 N01)

面談者 N01 は、ストーマ造設後 40 年の経験豊富な方で、日本オストミー協会の役員をされており、協会の会員との情報交換も活発で、一度ではなく何度も面談して相談させてもらった。以下は、初回面談から時系列で状況をまとめたものである。

6-3-1 オストメイト対応トイレ使用状況

初回面談で得た情報を以下に箇条書きする。オストメイト対応トイレを日常使用している方なので、ご自身の使用状況等を確認した。当時、腹部のケアはシャワーのお湯で洗うのではなく、腹部の清浄剤を使用されていた。

- ・取材日 : 2015 年 9 月 21 日
- ・基本情報 : イレオストミー, 女性, 60 代(当時), 身長 154cm, ストーマ造設後 40 年
- ・安心外出 : 手術後 2 年以内, 毎日外出
- ・外出目的 : 買物, 会合(障害者団体役員, 役所への陳情のための外出もある)
- ・排泄頻度 : 1 日 5 回以上(排泄), 3 日/回(装具交換)
- ・排泄時間 : 10 分以内(排泄), 20 分~30 分(装具交換)
- ・トラブル : 過去に 2~3 回/40 年
- ・使用便房 : 多機能便房
- ・日常施設 : 役所, 旅客施設, スーパー
- ・必要施設 : 病院, 役所, 旅客施設
- ・必要設備 : 洋式便器, 手洗器, 汚物流し, 水石鹸, 棚, フック, ペーパー, 着替え台, 荷物置き台, 汚物入れ, 温水設備
- ・コメント : オストメイト対応トイレについて以下のコメントを得た。
 - ・ストーマ装具交換の時にはずした装具の置き場がない。
 - ・トイレで腹部のケア中に停電があり、日中でも暗くてお腹のまわりが見えずに困った。お腹の様子が暗くて見えないという震災の時の経験から、ライトを持ち歩くようにしている。
 - ・石鹸は水のいない清浄剤(リモイス)を使い、汚れを拭き取る。

6-3-2 トイレが必要な施設と腹部をシャワーで洗う方法について

第 2 回面談では、トイレを必要としている施設を話題の中心として確認した。結果として、前回には出てこなかった小規模施設のトイレの必要性を確認した。また前回、シャワーで腹部を洗う方法については、ご本人の経験がなかったので回答がなかったが、その後、ご自身が考案した方法を伝授させていただいた。

・取材日 : 2017年8月28日

・コメント: トイレを必要としている施設に関し、以下のコメントを得た。

オストメイト対応トイレがある施設を探して使っている。いつも行くスーパー(中規模)にはあるが、同じ規模でもないところが多い。毎日外出するオストメイトには、駅やコンビニ、飲食店にオストメイト対応設備があると、安心して外出できる。大都市の駅ではオストメイト対応トイレが増えたが、田舎の小規模な駅にもあると安心して遠出もできる。夜遅くなって帰宅する途中、体調が悪くなり、駅は閉まっていたが、駅員に事情を話してトイレを使わせてもらった。駅やコンビニは夜遅くまで開いていて、安心感がある。

利便性を追求する施設(コンビニ等)、外出での移動時の施設(駅等)でのトイレ整備が重要であることを改めて確認した。

・お腹を洗う方法について

オストメイト用設備でお腹を洗うことについて、参考例として、以下の方法だと汚物流しや床をあまり汚さず、また、汚物流しの陶器部分に触れずに作業できることがわかった。また、ご自身もオストミー協会の会合等でビニール風呂敷等を持参され、積極的に使い方を説明されているとのことであった。

後日、実機で確認したが、確かにこの方法であれば、腹部にシャワーを当てた際に床にこぼれることは少なく、汚物流しの陶器部分に腹部が当たらず、姿勢も楽であった。

【オストメイト用設備でお腹を洗う方法(参考例)】

・準備するもの

ビニール風呂敷、またはビニール袋をA2サイズにカットし、これを2つ折りにしてA3サイズ(A3サイズの片方の長辺が折り目)にして、サージカルテープ(包帯、ガーゼなどを患部に固定するためのテープ)ケア用品と一緒に持ち歩く。

・手順

外出先のオストメイト対応便房内で、ストーマ装具内の汚物を捨てた後、以下の手順でお腹をシャワーで洗うことができる。

手順1.

A3サイズに折ったビニールの折り目部分をお腹のストーマの下側にあて、サージカルテープで固定する。(前掛けをするイメージ)。ビニール風呂敷でも良い。

手順2.

ストーマ装具を外し、シャワーをお腹にあてて洗う。最初は湯を当てたあと、洗浄剤で腹部を洗い、再度お湯を当ててきれいに洗い流し、水分を拭き取る。

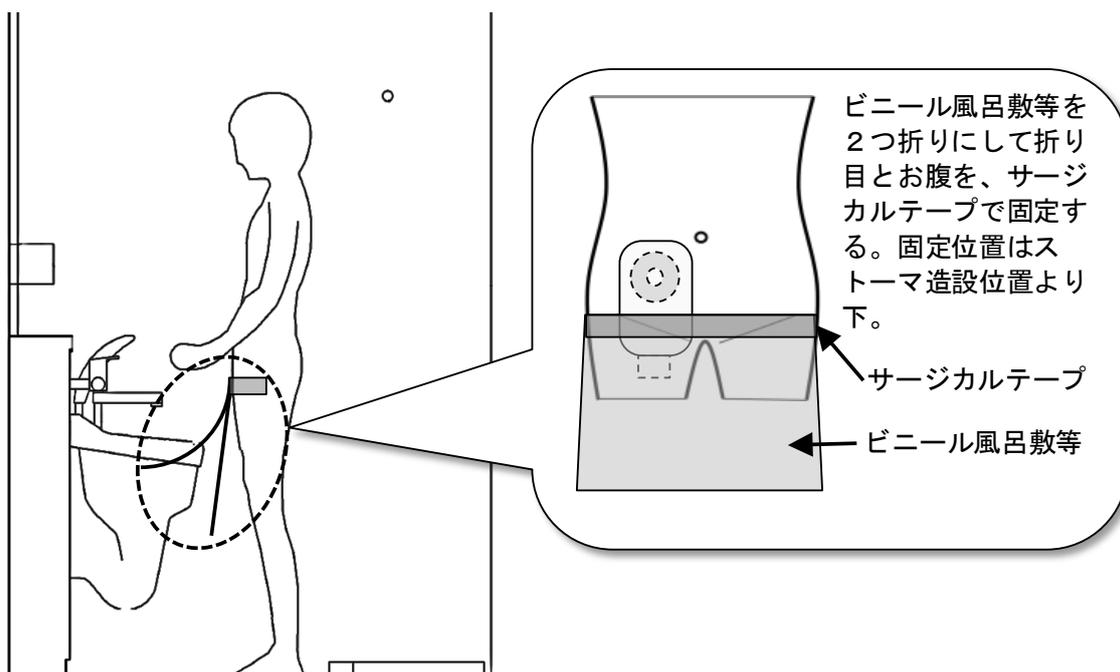


図 50 腹部を洗う方法

6-3-3 オストメイト対応トイレの機能分散について

第3回面談では、オストメイト用設備が設置されている多機能便房が、機能分散によって車いす使用者用便房とオストメイト対応トイレに分散配置されること。アンケート調査結果では、多機能便房を使用することに気が引けるオストメイトもいることを伝え、ご自身のお考えを伺った。結果、オストメイトは自身がオストメイトという特別なトイレの使い方をしなければならない人であることを一般の健常者に積極的に知ってもらう努力をすべきであるというコメントと、その方策案を確認した。

- ・取材日 : 2019年6月9日
- ・コメント: 機能分散に関して以下のコメントを得た

車いす使用者用便房とオストメイト対応トイレが別々になることは承知している。また、オストメイトマークの認知はオストメイト自身の認知率が高くても、一般の人の認知はほとんどないことも知っている。これからはオストメイト自身が積極的にオストメイトを知ってもらうことも必要。そのためには、オストメイト用設備をもっと目立つ場所に配置して、一般の人が見た時に、何をやる設備かはわからなくても、こんな設備を使う人がいるんだということを認知してもらいたい。例えば男女別一般便所に設置する場合でも、入ってすぐのところに、汚物流し設備がよく見える配置をしてもらいたい。

得られたコメントから、オストメイト対応トイレの便房プラン、男女別一般便房内での配置を考えると、以下のような図になる。

本研究を始めた2015年の頃と比べると、オストメイトの方自身の心にも変化の兆しを感じられる。オストメイト対応トイレ使用について、気兼ねやクレームへの恐れを超えて、オストメイトの方自身の意識が変わり、下図のようなプラン、レイアウトが普及することは、オストメイト対応の環境整備方策が新たなステージに入ったことを意味するものと考えられる。

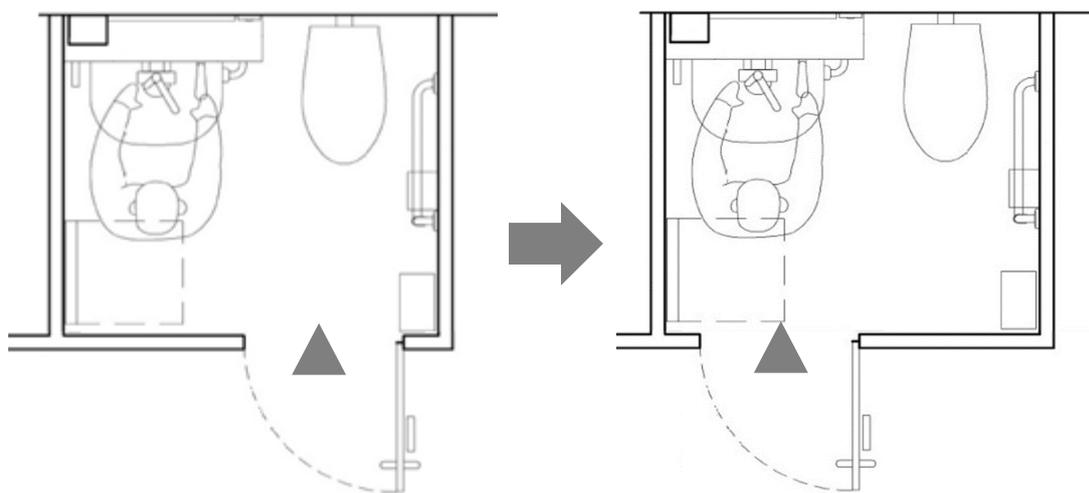


図 51 オストメイト対応トイレのプラン例

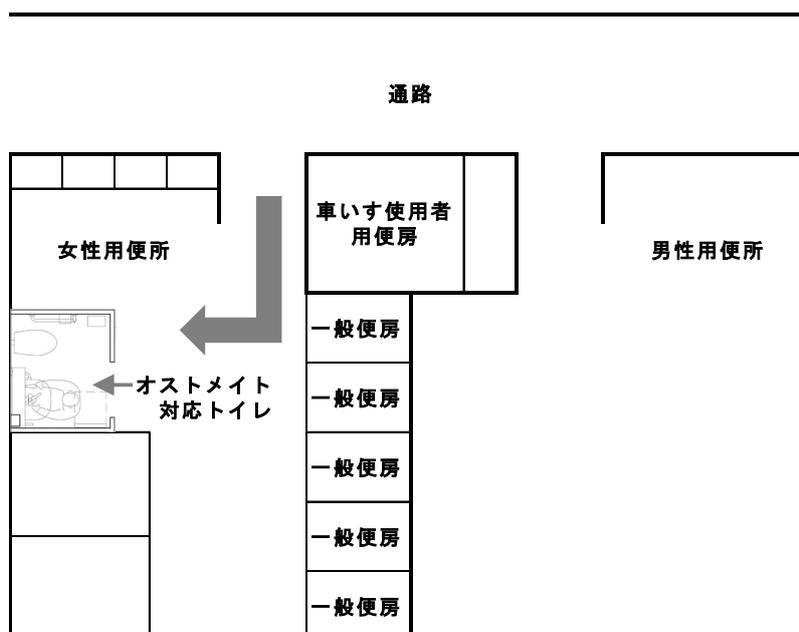


図 52 オストメイト対応トイレの配置例

6-4 考察

オストメイト用設備には、汚物流しの跳ね返りや高さ調整、片手でペーパーがカットできないなど、様々な課題があったが、現行の設備では既に改善された事も多い。ただ、右手でも左手でも器具に手が届き、片手でも操作できることが必要であることは、オストメイトの身体特性から明らかである。本節では、オストメイトの具体的な動作特性から、普遍的な設備機能の要件を整理し、利用者の効率的な操作を促し、操作時間の短縮をはかる方策を考察した。

6-4-1 必要設備に関する考察

第6章では以下の事が明らかになった。

(1) 通常汚物流しのボール水面に汚物が落ちると、跳ね返り現象が起こる。跳ね返りを少なくするため、装具を腹部に付けたまま、先端をできるだけボール水面に近づけて排泄すると、身体的負担が大きい。多くの人は、水面にペーパーを敷いて跳ね返りを低減する措置をとっている。跳ね返るボール水面の面積や位置、汚物流しの高さなどが課題である。

(2) 健常者が排泄後にお尻を拭くように、オストメイトは排泄中に片手でストーマ装具を持ち、もう片方の手でペーパーをカットして装具の口を拭く。腹部を洗う時も装具交換の時も、必ず片方の手は腹部のストーマや装具を持ち、反対の手でシャワーやペーパー、ケア用品を持つ。オストメイト用設備の機能では、片手で操作ができること、手の届く範囲に設備器具が配置されていることが重要である。

(3) 以上は、オストメイトの利用率が高い一般便房でも同様である。

(4) オストメイト用設備は、温水機能が標準的整備基準の対象でなかったため、施設によっては水しか出ない設備の設置も散見され、図 38 (p 100) の設備機能を標準機能とすることが定着していないことを確認した。

なお、上記の課題は 2006 年に施行されたバリアフリー法のガイドライン(建築設計標準)で解説されているオストメイト用設備のイラスト等を基本仕様として調査したものであり、その後に発売されている商品の仕様は考慮されていない。例えば汚物流しの跳ね返りについては、洗浄方式が変わり、ボール水面でないむき出し部分にも流水が当たることや、陶器の材質が汚れの付きにくいものとなり、汚物を水面に落とさなくてもきれいに流せること等、その後の商品では既に対策が進められているものもある。

6-4-2 オストメイト対応トイレの設備に関するまとめ

オストメイト用設備の個々の機能について、以下に整理した。また、個々の機能の位置関係を説明するため、下図にその標準的な設備機能配置例を示す。

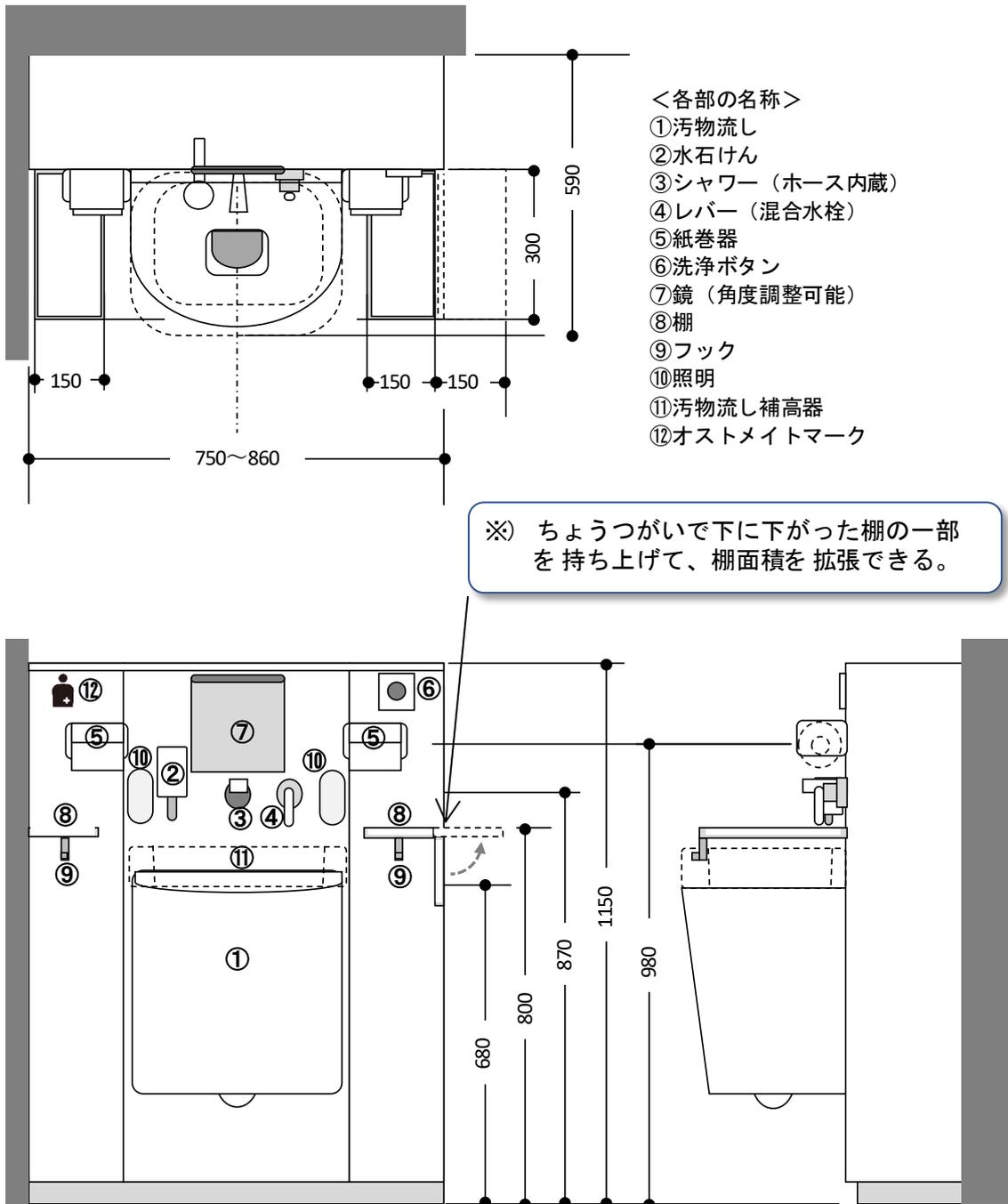


図 53 オストメイトの困り事を解消する標準的な設備機能配置例

上図の設備を使用することを想定し、オストメイトが実際に行う行為を分析すると次表のようになる。

表 38 (p126) では、イレオストミーで男性、右利きの人が、オストメイト用設備を使って、排泄(排便)、装具交換、腹部洗浄、装具洗浄の一連の行為を行うことを想定し、持参する小物類も含め、使用する設備機能(器具)と使い方をシミュレートしたものである。

表の左端に記した行為の手順番号で言えば、1 から 11 が排泄、12 から 18 が装具交換(装具を外す)、19 から 24 が腹部洗浄、25 から 34 が装具交換(新装具装着)、35 から 39 が装具洗浄に該当する。

例えば、表の左端の番号 9 で、左手でストーマ装具の先端の排泄口を保持しながら右手だけでペーパーをカットするシーンは、下図(左)のようなイメージとなる。装具を保持した状態で体勢を変えずにペーパーに手が届き、片手でカットできるためには、図のような配置が最適であると考えられる。

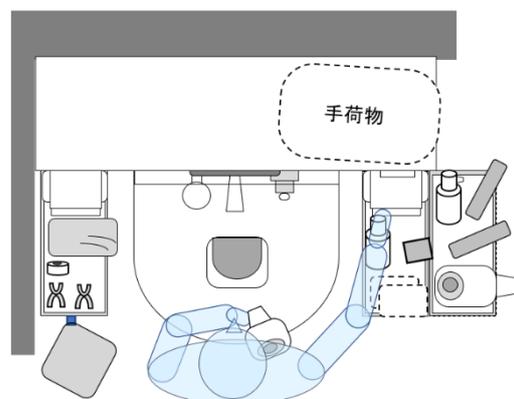


図 54 装具先端を保持しながらペーパーカット

また、表の左端の番号 23 の、右手でシャワーヘッドを持ち、腹部の汚れや泡を洗い落とす様子を上図(右)に表した。シャワーで腹部を洗う際、何もしなければシャワー水が床にこぼれてしまう。この点については様々な対策があるが、タオル等を用意しておけば、洗う際に腹部と汚物流しの縁の間に挟むことで垂れ流しを防止することができる。ただしこの場合、背の高い人は膝や腰を曲げることが必用であり、身体的な負担を強いられることになる。

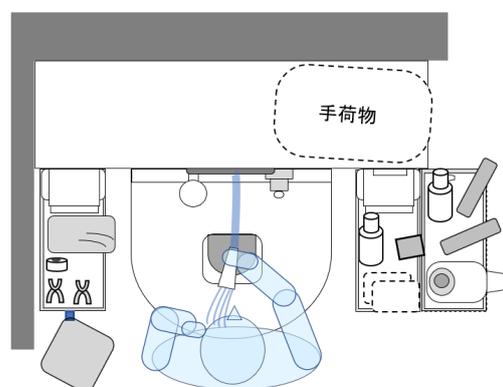


図 55 シャワーで腹部洗浄

表 38 オストメイト用設備を使った行為の詳細

<イレオストミー、男性、右利き、排泄～装具交換～腹部洗浄～装具洗浄 の場合>

手順	オストメイト用設備を使った行為の内容	使った小物類	使った設備機能
1	汚物流しの前に立つ		
2	小物類の入った袋（ポーチ）を棚に置く		棚
3	手を洗う		混合水栓
4	小物類を棚に並べる		
5	ズボンを下げる／脱ぐ		
6	ペーパーをカットして汚物流しのボール水面に敷く（右手）		ペーパー
7	ストーマ装具 1 の先端を片手（左）で保持し、排出口を開ける（右）		
8	ストーマ装具 1 の先端を下げて（左）、汚物を出す		
9	ストーマ装具 1 の先端を保持し（左）ながら、ペーパーをカット（右）		ペーパー
10	ペーパーでストーマ装具 1 の排出口の汚れを拭く（右）		
11	ストーマ装具 1 の排出口を閉める（右）		
12	ビニール袋をフックに掛ける	ビニール袋	フック（左側）
13	シャツや上着をまくり上げ、肩に付けた洗濯ハサミ等で固定し、腹部を出す	洗濯ハサミ	
14	剥離剤（濡れティッシュ状）を取り出し（左右）、片手に持つ（右）	剥離剤	
15	もう片方の手（左）でストーマ装具の腹部接着部分（面板）の端を持つ		
16	剥離剤を当てながら（右）、ストーマ装具（面板）を腹部から外す（左）		
17	使った剥離剤をフックに掛けたビニール袋に捨てる（右→左）		
18	外したストーマ装具をフックに掛けたビニール袋に 1 次置きする（左）		
19	お湯を出す（右）		
20	ガーゼを取って湯に浸し（右→左）、石けんをガーゼに加える（右）	ガーゼ 1 枚目 石けん	
21	石けんを棚に戻し（右）、ガーゼを腹部に当てて泡立たせる（左→右）		棚（右側）
22	石けんの付いたガーゼを湯で洗い（左右）、絞って（左右）棚に置く（左）		棚（左側）
23	シャワーヘッドを持ち（右）、腹部の汚れや泡を洗い落とす（右）		シャワー（吐水）
24	シャワーヘッドを戻し（右）、新しいガーゼで腹部の水分を取る（左、右）	ガーゼ 2 枚目	シャワー（止水）
25	水分がとれた状態で皮膚保護剤をスプレーする（右）	皮膚保護剤	棚（右側）
26	替えのストーマ装具（ストーマ装具 2）を取り出す（右）	替えのストーマ装具	棚（右側）
27	腹部のストーマ周囲にストーマ装具 2 の面板を貼る（左右）		
28	棚から皮膚保護剤を取り出す（右）	皮膚保護剤	棚（右側）
29	面板の穴とストーマとの隙間を確認し、皮膚保護剤で補修する（左右）		
30	ストーマ装具 2 の排出口を開け（左右）、開けた先端を保持する（左）		
31	棚から消臭潤滑剤を取り出し（右）、ストーマ装具の排出口から入れる（右）	消臭潤滑剤	棚（右側）
32	ストーマ装具 2 を保持したまま（左）、排出口を閉じる（右）		
33	肩に付けた洗濯ハサミを外し、シャツや上着を下ろす		棚（右側）
34	ズボンを上げて整える／着衣		
35	ビニール袋からストーマ装具 1 を取り出し、排出口を開ける（左右）		フック（左側）
36	ストーマ装具 1 の面板の穴を上にし（左）、面板の穴からお湯を流して（右）、装具を洗う（左右）		混合水栓（吐水）
37	お湯を止め（右）、洗った装具をビニール袋に戻してまとめ（左右）、汚物入れに捨てる／持ち帰る		混合水栓（止水）
38	手を洗う		混合水栓（吐水/止水）
39	棚に置いた小物類を片付ける		

以上から、図 53 の設備の個々の機能について、以下を配慮した。

①汚物流し（高さ調整機能）

オストメイトは、排泄の際、汚物が汚物流しの外に飛び出さないようにするためにストーマ装具先端をできるだけ流しの縁の中に入れようとする。汚物流しは身長の高い人も使えるように縁の高さを設定しており、身長の高い人が排泄する際は、腰を屈めてストーマ装具先端を縁の中に入れざるを得ない。従って身長の高い人ほど身体的な負担は大きくなる。高さ調節機能は、汚物流しが上下する電動式のものにすればオストメイトの身体的負担が解決されるが、コスト面を考えると非常に高価なものになり、実用的ではない。そこで、⑩の補高器で代用することを検討したい。

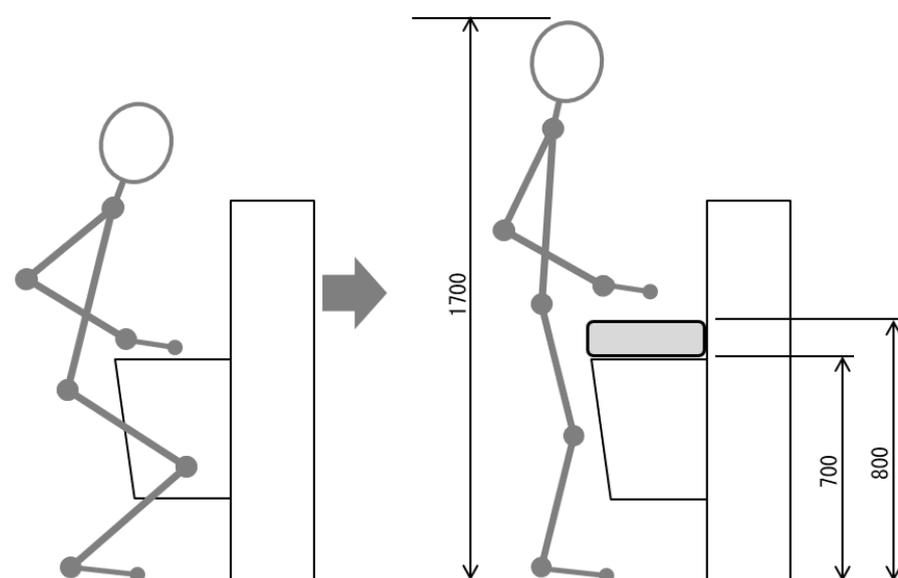


図 56 補高器による高さ調整

②水石けん

水石けんは、腹部を洗うためではなく、汚物流しでの処理の前後に手を洗うために使う。利用者が汚物流し正面に立った時、左右どちらの手でも使える（手が届く）位置に配置すると使いやすい。

③シャワー

シャワーは、腹部や外したストーマ装具を洗うことその他、汚物流し（陶器）の汚れを落とすためにも使用されている。シャワーホースは長すぎるとボール水面に触れたり、汚物流しの陶器部分にあたるので、お腹や汚物流しを洗う支障がない範囲で短くし、使わない時は背面のキャビネットの中に収める（内蔵されている）。

④レバー（混合水栓のハンドル）

混合水栓のレバーハンドルは、片手で簡単に操作できることが重要である。また、給湯はキャビネット内に最低でも貯湯量 3 リットルの電気温水器を設置する。

⑤紙巻器（ペーパー）

オストメイトの排泄行為では、汚物流しの跳ね返りを防ぐためにペーパーを敷いたりする等、大量にペーパーを使う場合もある。紙巻器設置のポイントは、替えのペーパーも含めて、片手で取りやすい位置にあることである。紙巻器の設置位置が汚物流しに近いと、左右どちらの手でも処理がしやすい。参考例では、予備のペーパーにもすぐに手が届くよう、汚物流しの左右に紙巻器を設置している。

⑥洗浄ボタン

洗浄ボタンの位置は紙巻器の真上の位置とし、大便器の洗浄ボタンの位置（ペーパーの上）と異なることで無用な混乱がユーザーに起きないようにする。

⑦鏡

汚物流し正面に立った時、鏡が正面に固定してあると、腹部を見るためには腰をかがめる等、身体的な負担を強いる仕様となってしまう。鏡の上部を軸として回転できるように仕様変更すれば、少ないコストで多くのユーザー（鏡で腹部のストーマ等を確認したい人）の身体的負担を軽減することにつながる。参考例として、鏡を回転（傾斜）させることを可能とした場合の目の高さ、鏡の回転角度の試算を紹介する（図 57）。

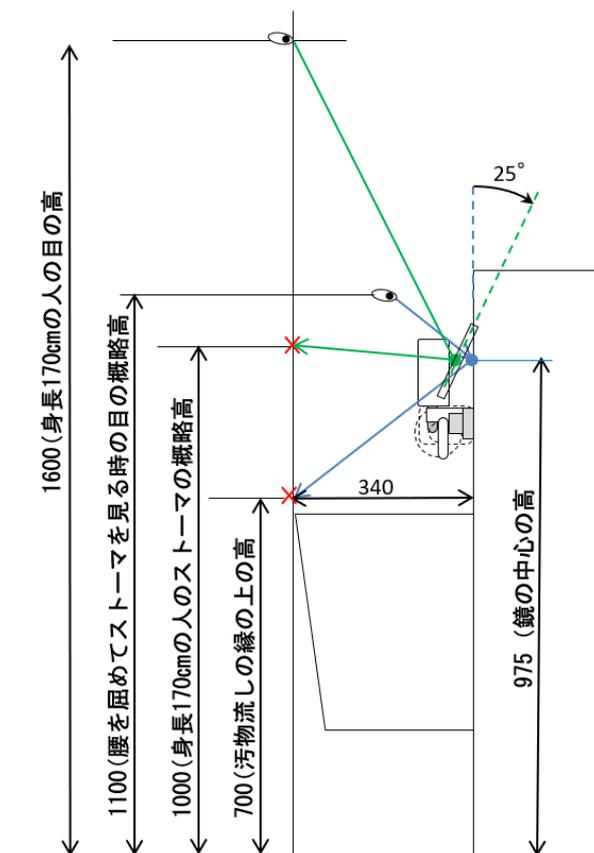


図 57 鏡の回転に関する試算

⑧棚（小物用）

棚の位置は、汚物流し中心から 20 cm 程度以上、水平方向に離れた位置に棚の端がくるように設置すると、処理中に手が棚にあたりにくくなる。また、棚の高さ（垂直方は、シャワーの吐水位置と同程度とし、シャワー等の跳ね返りが棚に落ちにくくなる。

表 38（p 126）の行為で使われた小物類と棚との位置関係は、以下のようになることが想定される。

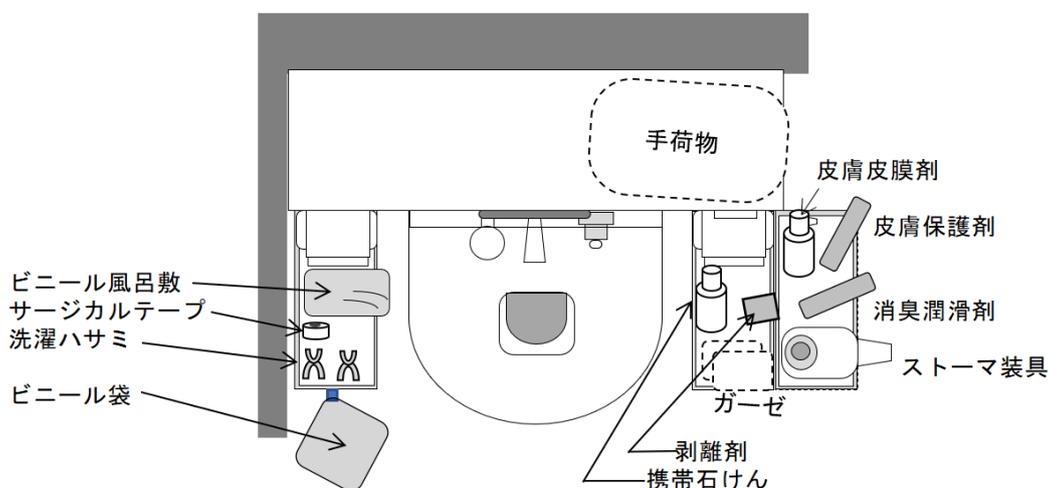


図 58 オストメイトの行為を想定した小物類と棚の位置関係

⑨フック

オストメイト用設備に設置するフックは、洋服掛けや重い荷物を掛けるのではなく、ストーマ装具を交換する際に、腹部から外した装具を一次置きするビニール袋を引っかけておくための器具として考えている。したがって、図 58 のような位置に設置したい。

⑩照明

天井の照明では暗く、ストーマ周辺が見づらいので、できるだけ手元で、影ができない位置に設置する必要がある。LED照明等のコンパクトなものが付いていれば格段にお腹まわりが明るく、見やすくなる。

⑪汚物流し補高器

大便器には便座や補高器（介護用品）があり、陶器部分に直接お尻が触れることはない。同様に、汚物流しにも樹脂製の補高器があれば、お腹を洗う時でも直接、肌が陶器に触れることはない。また、10 cm 程度補高できれば、立ってする処理による身体的負担が軽減される人も増える。

⑫オストメイトマーク

オストメイト用設備には、オストメイトマークを貼るべきである。オストメイトマークに関する一般健常者の認知度は低いですが、とにかくこの設備がそうしたマークの人が使うも

のであること。大便器だけしか使わない人とは違うということ、一般の方にも少しでも認知していただく必要がある。

尚、オストメイト対応トイレの便房内全体の設備としては、上記のオストメイト用設備に加え、全身が映る鏡、着替えのための着替え台、コートや衣類のフックや荷物置台、明るい照明、換気扇も必要である他、大便器等、一般便房の設備も必要である。

6-4-3 一般便房内設備に関するまとめ

一般便房のオストメイト配慮で最低限必要な設備機能は、優先順に、①片手で切れる／手が届くペーパー、②A3サイズの棚、③手洗器、④大便器周辺のスペース、⑤簡易型水栓である。しかし、高齢者等、他者との共用化ができる内容でなければ、一般便房内での普及は進まない。また、オストメイトの便房内行為での最大の課題は時間がかかることであり、時間が少しでも短縮できるよう、大便器周辺に必要な設備機能を設置することも重要である。

以上を一般便房の原則とし、以下にその具体例を示す。

(1) 一般便房内設備機能の優先順位と他者との共有化

例えば下図のような便房レイアウトであれば、現存の飲食店等のトイレのレイアウトとしてよくあるもので、普及は可能で、オストメイトにとって最低限必要なペーパーや棚、手洗器もあり、オストメイトの排泄行為は可能となる。ただし、一般便房で立って処理する人、便器の前の床に膝を着けて処理する人は、以前として窮屈な姿勢での処理であり、便器の前や横にスペースを確保する等、身体的負担軽減への配慮も認識し、少し広めのレイアウトとしておく必要がある。また、下図の一般便房に、背もたれに付ける簡易型水栓をつければ、便房内でオストメイトが行う排泄行為、腹部のケア(清拭)に加え、外したストーマ装具やケア用品を洗うという後始末の行為も可能となる。

従って、オストメイト配慮機能の優先順位は、①ペーパー、②棚、③手洗器、④便器前と横のスペース、⑤簡易型水栓 となる。

また、②、④については、高齢者配慮とも共通している。

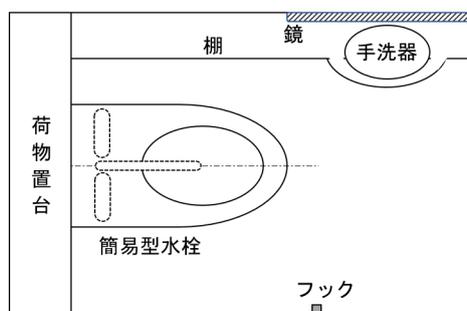


図 59 少し広めの一般便房

例えば下のような写真の現場の場合、残念ながら棚の上にペーパーがストックされ、オストメイトが持参する小物類は置けそうもないが、便器の後ろ側のタンクの上には物が置けそうである。高齢者配慮で棚付手すりがついており、しかもスペースは充分ある。高齢者配慮等、他者との共用をふまえたプラン検討が重要であると考ええる。



写真 15 飲食店(2019年撮影)

(2) 一般便房内行為の時間短縮

一般便房内でもできるだけ操作性を良くし、時間短縮することは重要な課題である。下の写真は、共にコンビニのトイレの写真である。左側のトイレは便器前にスペースがあるが、棚がなく、手洗器はあるが便器とはかなり離れた位置にあった。設備機能はできるだけ大便器の近くになれば処理に時間がかかる。オストメイトがトイレを使用する際、一番気にしているのは時間であり、下の左の写真のトイレでは余計に時間がかかることになる。

また、下の右の写真のトイレは、簡易型水栓設備が付いており、車いす使用者が簡易的に利用できるスペースもあるが、棚はペーパーホルダーの上があるだけで、充分ではなく(A3サイズの面積より小さい)、やはり排泄処理にも時間がかかることが懸念される。

一般便房内での行為にかかる時間を短縮するためには、できるだけ大便器の近くに最低限の設備機能を整備することが必要である。



写真 16 コンビニ(2019年撮影)



写真 17 コンビニ(2013年撮影)

第七章 結論と今後の課題

7-1 結論

本研究においては、オストメイト配慮の環境整備の課題と改善の方向性について、「既存のトイレの整備状況」、「トイレ利用に関する属性間の違い」、「優先的に検討すべき施設（建物用途）」、「属性別の便房ニーズ」、「便房内行為の実態と便房整備課題」、「設備の使用課題と必要な設備機能」の6つの課題を研究した。以下には、それぞれの課題から明らかになったこととその解決策をまとめた。

7-1-1 既存のトイレの整備状況

(1) 明らかになったこと

オストメイトは、排泄や腹部のケアに必要な小物類を持参しており、便房内の取りやすい位置にそれらを置く棚が必要であるなど、健常者とは異なる設備（オストメイト用設備）が必要である。

オストメイト用設備が登場してから既に10年以上経過し、当事者が求めてきたオストメイト配慮の環境整備は、法的基準として整ってきた。しかし現在では、古い仕様の製品から最新のものまで様々な製品が設置され、使い方も異なっており、現場によっては大事な機能が欠けていることもあった。

(2) 解決策

紙巻器がないなど、明らかに必要な機能が欠けている場合は補修も必要であるが、オストメイト用設備は、その当時最先端のものが販売されており、使い方は異なるが一定の機能は備えている。ただし、多機能便房がいつも混雑しているような場合は、棚や紙巻器等の補修で処理時間を効率化して混雑緩和することも手段のひとつとなる。

7-1-2 トイレ利用に関する属性間の違い

(1) 明らかになったこと

オストメイトは多様な世代に及ぶが、特に就労世代も多い。30～50代の就労世代は、トイレ利用に関し、他の世代と比べて排泄やトラブルの頻度が多く、装具交換やトラブル処理には特に多くの時間がかかっており、外出先では排泄のみで済ませ、装具交換や腹部のケアは自宅で行うことが多く、トイレ利用で最も困り事の多い世代である。トイレ環境整備を検討する際には、優先的に配慮を要する世代であることがわかった。

(2) 解決策

就労世代は、外出目的に仕事が占める比率が高いことも明らかになっており、就労世代の利用する施設（次項）と合わせて検討することとした。

7-1-3 優先的に検討すべき施設（建物用途）

(1) 明らかになったこと

オストメイトの過半は30代から50代の就労世代でストーマを造設しており、術後の外出頻度、トイレ利用頻度も高く、一般便房、オストメイト対応トイレ等の整備の必要性も高い世代である。就労世代がトイレを日常使用あるいは必要としている身近な就労環境にも対応が必要である。本調査からは、オフィスや旅客施設等、仕事に直結する施設、コンビニやスーパー等、立地や利便性を求める施設に整備が必要とみなせる。

特にコンビニやオフィス等、30代から50代の就労世代がよく利用する建物用途への対応が急務である。

(解決策)

コンビニやオフィス等、30代から50代の就労世代がよく利用する建物用途への対応を検討する。オストメイト、特に就労世代は時間がかかることを気にしており、トイレ使用時間短縮に繋がる整備方策が必要である。

7-1-4 属性別の便房ニーズ

(1) 明らかになったこと

オストメイトの多機能便房利用率は低いが高認知率は高く、トラブル時には利用率が10%あがる。日常の利用率が低い(特にイレオストミー、30~50代)のは外見が健常者とかわらないこととトイレの長時間使用が原因だと考えるが、どちらの理由もオストメイトの自助努力では簡単には解決できない課題である。機能分散が進展し、専用便房が増えれば利用率も上がることが期待できるが一般の健常者とのかちあいもあり得る。

(2) 解決策

オストメイトの一般健常者への認知よりも、オストメイト設備そのものが認知され、それを利用しなければならない人がいることを知ってもらうための便房プラン、配置が必要だが時間がかかる。

まずはオストメイト対応の設備の改善が時間短縮につながれば、オストメイトの悩みのひとつが緩和されることを期待したい。

7-1-5 便房内行為の実態と整備課題

(1) 明らかになったこと

オストメイトはオストメイト用設備を使い、排泄だけではなく、持参する小物類を使って装具交換、腹部のケア等を行っている。腹部を日常的に洗う人が2割程度はいたこと等、一部のオストメイトには設備の利用が定着してきたが、行為で時間がかかり、臭いが残り、床が濡れることを心配していた。

一般便房では、立ったまま中腰になるという身体的負担や、汚物の跳ね返りや床に清潔なケア用品を置くこと等の衛生面でも問題が多い。一般便房にも、最低限、装具交換がしやすい棚やフック等の整備が望まれる。

(2) 解決策

オストメイト対応トイレについては、臭いや床が濡れることは工夫をすれば解決も可能であるが、時間がかかることは自助努力だけでは難しい。オストメイト用設備の改善が必要である。(次項で具体策を説明)

一般便房では、棚やフック等の整備が望まれるが、これらはオストメイト特有の配慮事項ではなく、高齢者配慮とも繋がる課題である。例えば高齢者配慮の棚付手すりが一般便房にあれば、オストメイトにも使用は可能である。他者との共用設備を検討することで、一般便房におけるオストメイト配慮の普及促進を検討することが望まれる。(次項で具体策を説明)

7-1-6 設備機能の課題と改善の方向性(オストメイト用設備)

(1) 明らかになったこと

オストメイト用設備に今後必要なことは、操作性を向上させ、利用者の身体的負担を軽減すること等の要件を追加することでオストメイト用設備の改善をはかり、トイレ使用時間を短縮することである。オストメイト用設備には、汚物流しの跳ね返りなど、既に改善された事も多いが、右手でも左手でも器具に手が届き、片手で操作できること等は、オストメイトの身体特性から考えて必要な要件であるが、そのような設備は見あたらない。

(2) 解決策

従来のオストメイト用設備の要件では、汚物を流す、装具を洗う、装具交換や腹部のケアをする、その他で、具体的に行う行為ができることや周辺器具があることが要件となっているが、使い勝手の良い便房および便房内設備を計画することも必要である。

使い勝手を意識した便房の要件、便房使い分けの方策は以下のとおりである

- ・オストメイト用設備に追加配慮する要件
 - ・片手で操作できること
 - ・身体的負担が少ないこと
 - ・手が届きやすいこと（設備機能の配置）
 - ・ストーマ周辺がよく見える配慮があること（照明）

上記要件に基づき、汚物流し、水石けん、シャワー、水栓レバー、紙巻器、洗浄ボタン、鏡、小物用棚、照明、（汚物流し補高器）を適切に配置する。ただし、汚物流し補高器は、本体に高さ調整機能がない場合の代替え案のひとつであり、今後の商品開発等で検討が望まれる。

衛生陶器の設備は一般的に、寿命が長く5年、10年経っても使えるものが多い。自治体によっては、いったん新設した設備を5年周期で改修することは考えにくい。設備の使い方がその都度変わっては、使用者が混乱することも懸念される。また、現在の新商品の仕様で規定すると、将来、それを変更する場合、不要な仕様変更を余儀なくされることもあり得る。従って、上記の「オストメイト用設備に追加配慮する要件」では、普遍的で最低限の条件（基準）として提案した。

7-1-7 設備機能の課題と改善の方向性(一般便房設備)

(1) 明らかになったこと

オストメイトの6割以上は一般便房を日常使用している。しかしオストメイトが一般便房を使用する場合には困り事も多い。例えば棚がないので床に新聞紙を敷いてその上にケア用品を置き、処理するなどである。一般便房が少しでもオストメイトにとって使い安いトイレにするためには、以下の設備が必要であるが、一般便房個室に一举に全てそろえることは施主の負担も大きい。そこで以下のように優先順位を付けて可能な限り整備を促すことを提案したい。

- ・一般便房のオストメイト配慮で最低限必要な設備機能
優先順に、①片手で切れる／手が届くペーパー
- ②A3サイズの棚
- ③手洗器
- ④大便器周辺のスペース
- ⑤簡易型水栓

しかし、オストメイト専用では、なかなか普及しないことも明らかである。また、便房内に上記設備があるだけでは、例えば手洗器が大便器から離れており、手洗器を使うためには何歩か歩くことが必要な場合もあり、その分、作業時間も増加する。

(2) 解決策

一般便房内での普及、作業の効率化をはかる方策として、以下を提案する。

- ・高齢者等、他者への配慮との共用化をはかる(例：棚付手すり)
- ・大便器周辺に、必要な設備機能を配置する

高齢者等、他者への配慮との共用化ができる内容でなければ、一般便房内での普及は進まない。また、オストメイトの便房内行為での最大の課題は時間がかかることであり、時間が少しでも短縮できるよう、大便器周辺に必要な設備機能を配置することも重要である。

7-2 今後の課題

7-2-1 高齢者配慮のオストメイト用設備

2006年のバリアフリー法施行の頃から多機能便房の普及に伴ってオストメイト用設備も着実に普及してきたが、現在は多機能便房の利用者も増え、オストメイトの方が使いづらくなる場面も散見された。本研究では機能分散で男女別一般便所にオストメイト用設備を設置することで就労世代のオストメイトにもオストメイト用設備を使う機会が増えることを想定したが、ご高齢のオストメイトの方へも特別な配慮が必要かどうかは今後の課題として残っている。

オストミー協会の調査報告書では、日常生活で不安を感じている項目の中に、加齢に伴う身体状況の変化で、ストーマケアが自分でできなくなることへの不安が、かなり高い比率で集計されている。高齢者配慮としては便座への立ち座りで手すりを設置すること等があるが、オストメイトが排泄処理行為をする場合は、両手を使う動作が多いので、手すりをつかみながらの処理は難しい。本研究の中でも、ご自宅では便器の前にイスを置き、イスに腰掛けて排泄処理をする人や、外出先のトイレで便座に腰掛けて処理をする人。一般便房にイスを設置してほしいというコメント等、楽な姿勢で排泄処理をしたいという潜在的なニーズを想起する事象が散見された。

現行のオストメイト用設備は、立ってすることを前提としているが、オストメイトの場合、排泄処理や腹部のケア等で、トイレで長時間の立ち作業となることもある。しかし、便房内に、オストメイトの人しか使えないイスを置くことは、施設の管理上の問題等から難しい。作業効率を上げて時間短縮できる機能を考案するとともに、立ったままでも縦手すりに背中をあてて体幹の安定をはかる工夫等、他のユーザーとの設備機能共有化も前提とした何らかの改善策の検討も必要である。

7-2-2 オストメイト用設備の普及

日本オストミー協会の会誌（令和元年5月号）によると、平成29年1月から平成30年2月にかけて実施した調査（人工肛門・膀胱造設者の生活と福祉 第1部 第8回オストメイト生活実態基本調査報告書）で、自分がオストメイトであることを知らせる範囲に関して、「誰にでも」と回答した人が40%を超えていたとのこと。

本研究結果では、他者への気兼ねから、オストメイト用に設けられた設備を使いあぐねている実態が見えていたが、機能分散によるオストメイト対応トイレの環境整備がきっかけとなり、オストメイトの方がさらに外向き志向になることに繋がれば、単なる環境整備を超えた成果となる。

最後に、日本のトイレはスペースの制約が大きい。機能分散で一般の男女別便所にオストメイトの機能を有する便房が配置されたとしても、「専用」であれば場所の確保も難しいことが推測される。オストメイトが気兼ねなく利用できるトイレ環境整備が最終目標とすれ

ば、オストメイトの方自身の心の持ち方も重要であるが、一般便房で棚付手すりを共用化するように、オストメイト用設備も一般便所内で他者と共用化する検討が今後の課題として残る。しかし、乳幼児連れの人と併用されれば、人口から考えて(推定 270 万人以上)、トイレで時間のかかるオストメイトには使いづらくなる。高齢者や脳卒中者等との共用化等、さらなる研究が必要である。

また、本稿では使い勝手、左右どちらでも、という言葉は何度も使ったが、これはユニバーサルデザインの考え方そのものではなかったか。バリアフリー化で個々の対象者専用を考えると結局は設備そのものもコンパクト化を優先することになり、利用者には逆に使いにくいものになることも考えられる。公共トイレのバリアフリー化からユニバーサルデザインへ、考え方をよりレベルアップすることを目指し、今後も研究を継続したい。

注釈

注1) 日本オストミー協会は、講演会、研究発表会、講習会等を通してオストメイトを支援するための活動をしている公益法人。オストメイトの安心・安全を確保するためにバリアフリーを促進することも活動のひとつである。創立は1969年7月1日、正会員数10,000名、都道府県・指定都市に61支部がある。また、協会の下部組織として「20/40フォーカスグループ」、関連組織として「ブーケ（若い女性オストメイトの会）」がある。

注2) コロストミー、イレオストミーの場合はお腹に1ヶ所以上、ウロストミーの場合も1ヶ所以上に装着するか、尿道にカテーテルを挿入して排泄する場合もある他、Wストーマは消化管と尿路の2ヶ所以上に装着する場合もある。ストーマの位置については次の文献も参考とした。

高野通子、高橋のり子：人工肛門・人工膀胱の知識 第3版—腸や膀胱のない人の快適なくらしのために、pp. 33, pp. 51、2008年12月10日

注3) 回答者の年代の内、10代(2人)、20代(8人)、90代(14人)の回答数は、全体の有効回答数1015の1%前後であったため、以後の図表の統計結果からは除外した。

注4) ストーマ装具内を洗浄することは、医療機関からは推奨されていない。次の医療系の文献にもその記述がある。

日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 ストーマリハビリテーション講習会実行委員会編：ストーマリハビリテーション基礎と実際 第3版、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会、pp. 109、2016

注5) シャワーの持ち手に出し止めのボタンが付き、片手で操作できるもの、また、シャワーでなく泡沫吐水のものもある。泡沫吐水は、ストーマ装具の開口穴目掛けて吐水するので、装具に当たった時の跳ね返りが少なくなる。

注6) サイホン式、洗い落とし式、旋回流洗浄等、便器洗浄方式やボール形状により、水面の面積、形状は異なるが、いずれの洗浄方式でも跳ね返りの原因となる水面は存在する

引用参考文献

- 1) 田中直人、老田智美：オストメイトの公共トイレ利用実態及び意識に関する研究、日本建築学会計画系論文集 第 595 号、pp. 17-23、2005.9
- 2) 沼尻恵子、高橋儀平、佐藤克志、小野田吉純、江藤祐子：多機能トイレの利用実態とその改善方策に関する基礎研究、日本福祉のまちづくり学会 福祉のまちづくり研究 第 16 巻 第 2 号、pp. 1-9、2014 年 7 月 15 日
- 3) 公益社団日本オストミー協会：第 5 回オストメイト生活実態基本調査報告書、2005 年
- 4) 公益社団日本オストミー協会：第 6 回オストメイト生活実態基本調査報告書、2008 年
- 5) 公益社団日本オストミー協会：第 7 回オストメイト生活実態基本調査報告書、2010 年
- 6) 公益社団日本オストミー協会：第 8 回オストメイト生活実態基本調査報告書、2016 年
- 7) 公益社団法人日本オストミー協会 JOA 20/40 フォーカスグループ：ストーマと生きる～若いオストメイトのためのガイドブック～、pp. 15-39、2012 年 10 月 1 日
- 8) 梶西ミチコ：看護の現場ですぐに役立つストーマケアのキホン、株式会社秀和システム、pp. 112-114、2018 年 5 月 6 日

発表論文

査読論文

- 1) 熊沢宏夫・高橋儀平「オストメイトのトイレ利用実態と今後の整備課題に関する研究」
日本建築学会計画系論文集 2019年8月 第84巻 第762号

口頭発表

- 1) 「オストメイトの方の公共トイレ利用に関する実態調査
—公共トイレにおけるオストメイト配慮設備の使い分け提案—」熊沢宏夫、金子祐二、田村房義、江藤祐子、日本福祉のまちづくり学会第13回全国大会概要集、2010.8
- 2) 「多機能トイレにおけるオストメイト配慮設備の必要スペースに関する調査」熊沢宏夫、江藤祐子、前橋信之、日本福祉のまちづくり学会第14回全国大会概要集、2011.8
- 3) 「車いす使用者用トイレの変遷と民間企業の活動について」熊沢宏夫、田村房義、前橋信之、高橋儀平、日本福祉のまちづくり学会第15回全国大会概要集、2012.8
- 4) 「車いす使用者用トイレのプランに関する考察」熊沢宏夫、河野裕之、前橋信之、高橋儀平、日本福祉のまちづくり学会第16回全国大会概要集、2013.8
- 5) 「車いす使用者用トイレのプランの変遷」熊沢宏夫、河野裕之、前橋信之、高橋儀平、日本建築学会大会学術講演梗概集、2013.9
- 6) 「日常生活に不自由を感じる高齢者に関する公共トイレ使用状況調査— その2. シルバーカー使用者・杖使用者・片マヒ者の大便器便房の動作分析 —」熊沢宏夫、小松修司、高塩康洋、前橋信之、高橋儀平、日本福祉のまちづくり学会第17回全国大会概要集、2014.8
- 7) 「日常生活に不自由を感じる高齢者の公共トイレ利用実態調査」熊沢宏夫、小松修二、高塩康洋、前橋信之、高橋儀平、日本建築学会大会学術講演梗概集、2014.9
- 8) 「オストメイトの方が使用するトイレ設備の利用実態調査」熊沢宏夫、高橋儀平、日本福祉のまちづくり学会第19回全国大会概要集、2016.8
- 9) 「オストメイト用トイレ設備の利用実態調査」熊沢宏夫、高橋儀平、日本建築学会大会学術講演梗概集、2016.9
- 10) 「オストメイト用設備の機能に関する考察」熊沢宏夫、高橋儀平、日本福祉のまちづくり学会第20回全国大会概要集、2017.8
- 11) 「車いす使用者用便房における便器座面高さに関する研究」熊沢宏夫、長谷寛、日本福祉のまちづくり学会第21回全国大会概要集、2018.8
- 12) 「車いす使用者用便房の便器座面高さに関する検証」熊沢宏夫、長谷寛、日本建築学会大会学術講演梗概集、2018.9

資料目次

(1) アンケート調査

①調査期間：2015年9月～10月

②調査対象：日本オストミー協会47都道府県支部の会員2000名

公益社団法人
日本オストミー協会 御中

オストメイトの外出先トイレ使用実態調査のご提案

東洋大学ライフデザイン学部
人間環境デザイン学科
教授 高橋儀平
大学院福祉社会デザイン研究科
人間環境デザイン専攻博士後期課程
熊沢宏夫

拝啓 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、2020年の東京パラリンピック、その後に続く超高齢社会に向け、バリアフリーのインフラ整備、特に様々な建築物のバリアフリー化は重要な課題です。2006年にバリアフリー法が施行され、不特定多数の利用する大きな建物等では、オストメイト用設備を設置することが義務化されるようになり、汚物流し等が設置された公共トイレを見かけることが多くなりました。

しかし、オストメイトの方の排泄行為、特にトイレ内での行為等については、実際にその行為を日常的に行っている方でなければわからないことが非常に多く、トイレ設計の工夫が十分であるかどうか再確認が必要と感じています。

つきましては、下記のようにオストメイトの方の日常生活、特に外出先での排泄処理の実態に関することや法的に規定されているオストメイト用設備（汚物流し）等についてのアンケート調査を実施することになりましたので、内容をご確認いただき、調査へのご協力をいただきたく、何卒よろしくお願い申し上げます。
敬具

一 記 一

1. 調査の目的

日本オストミー協会様と東洋大学との共同研究により、日本におけるオストメイトの方の排泄行為に関する基盤データを構築するとともに、バリアフリー法で規定されているオストメイト用設備（汚物流し）についての新たな知見を得ることを目指し、以下のアンケート調査によるデータ収集と分析を行うことを目的とします。（目標サンプル数：1000）

2. 調査の方法

1) アンケート用紙

添付（A4サイズ 4ページ）

2) アンケートの配布と収集

公益社団法人日本オストミー協会 各支部様でアンケートの実施と回収をお願いいたします。

3) アンケートの集計と分析

集計と分析はすべて東洋大学で行います。

4) アンケート結果の取扱い

結果は、公益社団法人日本オストミー協会様と東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科にて共有したいと考えています。

（公益社団法人日本オストミー協会様の会誌でのご公表、および東洋大学による学会論文発表等。）

3. その他

お忙しいところ大変恐縮ですが、できれば9月中旬に調査を実施いただくことを希望します。

以上

公益社団法人 日本オストミー協会
会員各位

アンケートのお願い

公益社団法人 日本オストミー協会
会長
副会長
副会長

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを迎えるにあたり、車いす使用者、視覚障害者等、障害者の諸団体は、内閣府や東京都、オリパラ組織委員会への提案等、オリパラに向けたバリアフリーインフラ整備の進展をめざす活動を着実に進めています。

オストミー協会も、トイレにオストメイト設備が必要であることは理解されてはいるものの、具体的にどのような機能を有するオストメイト設備が必要なのか、その内容に関する提案が求められています。トイレ内での行為等については、実際にその行為を日常的に行っている人でなければわからないことが非常に多いものです。

つきましては、会員の皆様の実情に則した提案を早急に、かつ、協会の総意となる提案を行うべく、下記調査を実施したいと思います。

調査にあたりましては、その結果がバリアフリー法等、法的規制にも一定の配慮を得られるよう、専門の研究機関との共同研究という位置付けとしております。

会員のみなさんのアンケートひとつひとつが、将来の日本のレガシイ(遺産)にも繋がり、また、海外のオストメイトの模範ともなります。是非ともご協力をお願いいたします。

敬具

記

1. 調査目的

日本オストミー協会と東洋大学との共同研究により、日本におけるオストメイトの排泄行為に関する基盤データを構築するとともに、バリアフリー法で規定されているオストメイト用設備(汚物流し)についての新たな知見を得ることで、オリパラにむけたオストメイト用設備に関する提案活動での活用を目指し、以下の調査によるデータ収集と分析を行うことを目的とします。(目標サンプル数: 1000)

2. 調査期間

平成27年 9月1日～9月30日

3. 調査方法

1) アンケートの用紙

A3サイズ2つ折りで4ページのアンケート用紙を同封しております。

2) アンケートの回答方法

以下のいずれかの方法でご回答をお願いいたします。

①オストミー協会あてにFAXしていただく(FAX番号: 03-5670-7682)。

②同封の返信用封筒にアンケートを入れ、郵送していただく。

③メールでご回答いただく。

メールでの回答をご希望される方は、以下のアドレスに「メール回答希望」と返信いただくとメールにアンケート回答事項を記載したものを発信させていただきますので、こちらに直接回答いただいても結構です。

メール回答用アドレス Ostomy.anketo-201509@gmail.com

3) アンケート結果の取扱い

結果は、公益社団法人日本オストミー協会と東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科にて共有し、公表します(公益社団法人日本オストミー協会の会誌等)。

4. その他

ご参考までに、東洋大学からの提案文を、裏面に記載しております。

以上

日常生活および外出に関するアンケート

1 / 4

該当する番号に○をお付けください。また、[]の記入欄にはコメント等のご記入をお願いいたします。

1	あなたご自身の日常生活等についてお尋ねします。
1- 1	どこにお住まいですか?都道府県でお答えください。 [] 都 道 府 県
1- 2	性別についてお答え下さい。 ①男性 ②女性
1- 3	年齢についてお答え下さい。 [] 歳
1- 4	トイレを使う時、車いすで入りますか(車いす使用者で自立の方)? ①車いすを使う ②車いすは使わない
1- 5	身長を教えてください。 [] cm
1- 6	できれば、立位の時の、床から人工肛門または人工膀胱までの高さを教えてください。 [] cm
1- 7	ご家族構成を教えてください。 ①一人住まい ②夫婦二人 ③夫婦+子供1人 ④夫婦+子供2人以上 ⑤その他
1- 8	ストーマの種類はどのタイプですか? ①コロストミー ②イレオストミー ③ウロストミー ④人工肛門+人工膀胱 (Wストーマ) (人工肛門(結腸)) (人工肛門(回腸)) (人工膀胱)
1- 9	ストーマ造設経過年数を教えてください。 約 [] 年
1-10	ストーマ装具についてお尋ねします (1)ご使用のストーマ装具は次のいずれですか? ①1ピース ②2ピース (2)2ピースをご使用の方にお尋ねします。どのくらいの頻度で面板の交換をされていますか? ①1日/回 ②2~4日/回 ③1週間/回 ④1週間以上/回
1-11	ご自宅での排泄ケアについて指導は受けましたか? ①受けた ②受けていない
1-12	外出先での排泄ケアについて指導は受けましたか? ①受けた ②受けていない
1-13	術後のケアはどなたから指導を受けましたか? ①医師 ②ストーマケア専門看護師 ③一般看護師 ④ストーマ装具メーカー ⑤協会の先輩 ⑥その他
1-14	外出全般についてお尋ねします。 (1)ストーマ造設後、安心して外出できるようになるまでどのくらい掛かりましたか? ①最初から不安は無かった ②1~2ヶ月以内 ③半年以内 ④1年以内 ⑤2年以内 ⑥2年以上 ⑦今も外出しづらい ⑧その他 [] (2)あなたの外出の頻度はどのくらいですか? ①ほぼ毎日 ②2~4日/週 ③1回/週 ④2~3回/月 ⑤1回/月 ⑥ほとんど外出しなし (3)あなたの外出の主な目的は何ですか? 該当するもの全てをお選びください。 ①仕事 ②買い物 ③会合 ④趣味 ⑤旅行 ⑥通院(病院) ⑦その他 []
1-15	外出時にお使いになるケア用品についてお尋ねします。 (1)外出時に持ち運ぶケア用品等がありますか? 以下からよく使うものを全てお選びください。 ※) オストメイト用設備として必要な欄の最小必要スペースが知りたいので。 ①新しいストーマ装具 ②刺激剤 ③消臭剤 ④石鹸 ⑤ペースト ⑥ハサミ ⑦手鏡 ⑧ビニール袋(使ったストーマ装具を持ち帰る等のため) ⑨ガーゼ ⑩ティッシュペーパー ⑪その他 [] (2)外出時に持ち運ぶケア用品は何に入れてお持ちですか? 以下からよく使うものを全てお選びください。 ①キャリーバック ②リュック ③手さげかばん ④ショルダーバック ⑤トートバック ⑥ハンドバック ⑦ポーチ ⑧その他 []
1-16	ご自宅での排泄環境(設備)についてお尋ねします。 (1)ご自分がお使いになる便器は、和式ですか?洋式ですか? ①和式を使っている ②洋式を使っている ③その他 [] (2)洗腸(大腸の中のを強制的に流し出す行為)はされますか ①する ②しない

日常生活および外出に関するアンケート

2 / 4

該当する番号に○をお付けください。また、[]の記入欄にはコメント等のご記入をお願いいたします。

2- 外出先での排泄についてお尋ねします。

2- 1 外出先で以下の処理をされる場合の処理の頻度を教えてください

(1) ストーマ装具から排泄物を出し、排泄口をペーパーなどで拭く等の排泄処理のみの頻度
 ① 0回/日(外出先ではほとんど排泄しない) ② 1~2回/日 ③ 3~4回/日
 ④ 5回以上/日 ⑤ 排泄時は毎回ストーマ装具も交換する ⑥ その他[]

(2) 排泄処理の際、ストーマ装具の交換をする頻度
 ① 0回/日(外出先ではほとんど排泄も交換もしない) ② 2~3回/日 ③ 1回/日 ④ 2~3日に1回
 ⑤ 4~6日に1回 ⑥ 1週間に1回 ⑦ 1週間以上に1回 ⑧ その他[]

(3) 排泄処理の際、ストーマ装具交換と腹部のケア(お腹を石鹸等で洗う/拭く)をする頻度
 ① (外出先で)腹部のケアはしない(自宅にいる時のみ) ② (ストーマ装具交換の際)毎回腹部のケアをする
 ③ 2~3回(ストーマ装具交換)に1回 ④ 4回(ストーマ装具交換)以上に1回 ⑤ その他[]

(4) 便もれ等のトラブルの処理をする頻度(過去1年を振り返って)
 ① ほぼ毎日 ② 2~6回/週 ③ 1回/週程度 ④ 2~3回/月 ⑤ 1回/月程度
 ⑥ 1回/半年程度 ⑦ トラブルはなかった ⑧ その他[]

2- 2 外出先で以下の処理をされる場合の処理の時間をお選びください(およそで結構です)

(1) ストーマ装具から排泄物を出し、排泄口をペーパーなどで拭く等の排泄処理のみの時間
 ① 5分未満 ② 5~10分 ③ 10~20分 ④ 20~30分 ⑤ 30分以上 ⑥ 1時間以上

(2) 排泄処理の際、ストーマ装具の交換をする時間
 ① 5分未満 ② 5~10分 ③ 10~20分 ④ 20~30分 ⑤ 30分以上 ⑥ 1時間以上

(3) 排泄処理の際、ストーマ装具交換と腹部のケア(お腹を石鹸等で洗う/拭く)をする時間
 ① 5分未満 ② 5~10分 ③ 10~20分 ④ 20~30分 ⑤ 30分以上 ⑥ 1時間以上

(4) 便もれ等のトラブルの処理をする時
 ① 5分未満 ② 5~10分 ③ 10~20分 ④ 20~30分 ⑤ 30分以上 ⑥ 1時間以上

2- 3 外出先で便もれ等のトラブルが発生した経験のある方にお尋ねします。

(1) 外出先でトラブルが発生した場合、具体的にどのような処理をされましたか?
 ① そのまま自宅に帰って処理をした。
 ② 手持ちのケア用品等で応急処理をした。
 ③ 排泄処理とストーマ装具交換、腹部のケアを行った。
 ④ 衣類も汚れたので、③を行った後に衣類も洗った。
 ⑤ その他[]

(2) 外出先でトラブルが発生した場合、どこで処理されましたか?
 ① 多機能トイレ ② 一般トイレの専用ブース(汚物流しのあるトイレ) ③ 一般トイレ
 ④ ご自宅 ⑤ その他[]

2- 4 あなたが外出先で日頃使用されているトイレについてお尋ねします。

(1) あなたが外出先で日頃使用されているトイレは、どこの施設にありますか?
 あなたの日常での利用頻度を考えて、下から3つまでお選びください。

① 病院	② 役所(官公庁舎)	③ 郵便局	④ 銀行
⑤ 福祉施設	⑥ 学校	⑦ オフィス	⑧ 公民館
⑨ 公園	⑩ 旅客施設(駅)	⑪ 飲食店	⑫ 共同住宅共用部
⑬ コンビニ	⑭ スーパー	⑮ 百貨店	⑯ ホテル・旅館
⑰ 劇場・映画館	⑱ 図書館・美術館	⑲ 展示場	⑳ 競技場
㉑ 車両(電車、バス等)	㉒ 船舶(フェリー、水上バス等)		

(2) あなたが外出先で日頃使用されているトイレ等、オストメイト用設備が必要な施設はどこですか?
 あなたにとっての必要度を考えて、下から3つまでお選びください。

① 病院	② 役所(官公庁舎)	③ 郵便局	④ 銀行
⑤ 福祉施設	⑥ 学校	⑦ オフィス	⑧ 公民館
⑨ 公園	⑩ 旅客施設(駅)	⑪ 飲食店	⑫ 共同住宅共用部
⑬ コンビニ	⑭ スーパー	⑮ 百貨店	⑯ ホテル・旅館
⑰ 劇場・映画館	⑱ 図書館・美術館	⑲ 展示場	⑳ 競技場
㉑ 車両(電車、バス等)	㉒ 船舶(フェリー、水上バス等)		

(3) オストメイトマーク(右図)はご存知ですか?
 ① 知っている ② 見たことはあるが、意味は知らない ③ 知らない

オストメイトマーク 

(4) トイレを使ってクレームを受けた事がありますか?
 ① ある ② ない

(5) トイレを使って気が引けることがありますか?
 ① ある ② ない

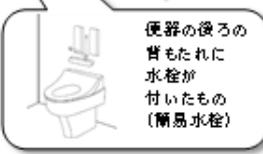
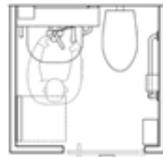
該当する番号に○をお付けください。また、[]の記入欄にはコメント等のご記入をお願いいたします。

③ 外出先のトイレでの行為についてお尋ねします

3- 1 あなたが外出先で日頃使用されているトイレについてお尋ねします。

(1) あなたが日頃、外出先で一番よく使うトイレは下のどのタイプですか？

- ①多機能トイレ ②一般トイレの専用ブース ③一般トイレ ④一般トイレ ⑤その他



(2) 何故そのトイレを利用されるのでしょうか？

下の理由から、該当するものを全てお選びください。

- ①普通のトイレ設備で事足りるから ②簡易水栓があるから
 ③汚物流しがあるから ④広い空間があるから
 ⑤オストメイト用設備機能が充実しているから ⑥他に使えるトイレがないから
 ⑦汚物流しは使い方がわからないか！ ⑧その他[]

3- 2 あなたが日頃、外出先で一番よく使うトイレ(下図のA,B,Cいずれか)での行為についてお尋ねします。

あなたが日頃、外出先で一番よく使うトイレでの「トイレ内行為」に✓を入れてください

また、記載のない行為があれば「コメント欄」にご記入をお願いします。

	A: 汚物流しと大便器のある個室	B: 簡易水栓付き大便器の個室	C: 一般トイレ(大便器個室)
個室の種類			
トイレ内行為 ✓欄	<input type="checkbox"/> ①ドアを開けて荷物を置く <input type="checkbox"/> ②ストーマ装具やケア用品を取りやすい位置に置く <input type="checkbox"/> ③汚物流しの前に立ち衣類を脱ぐ <input type="checkbox"/> ④ストーマ装具内の汚物を捨てる <input type="checkbox"/> ⑤ストーマ装具を外し、置きやすい場所に置く <input type="checkbox"/> ⑥お腹をシャワーで洗う。 <input type="checkbox"/> ⑦石鹸やお湯で濡らしたガーゼ等でお腹を拭く <input type="checkbox"/> ⑧新しいストーマ装具を装着する <input type="checkbox"/> ⑨衣類を着て、外したストーマ装具を洗う <input type="checkbox"/> ⑩ストーマ装具をビニール袋等に片付ける。または汚物入れに捨てる。 <input type="checkbox"/> ⑪汚物流しの洗浄をする(流すボタンを押す) <input type="checkbox"/> ⑫小用(人工肛門の人の場合)を済ませる。 <input type="checkbox"/> ⑬荷物を持ち、ドアを開けて出る	<input type="checkbox"/> ①ドアを開けて荷物を置く <input type="checkbox"/> ②ストーマ装具やケア用品を取りやすい位置に置く <input type="checkbox"/> ③大便器の前に立ち衣類を脱ぐ <input type="checkbox"/> ④ストーマ装具内の汚物を捨てる <input type="checkbox"/> ⑤ストーマ装具を外し、置きやすい場所に置く <input type="checkbox"/> ⑥お腹を(ガーゼ等で)拭く <input type="checkbox"/> ⑦新しいストーマ装具を装着する <input type="checkbox"/> ⑧衣類を着て、外したストーマ装具を洗う <input type="checkbox"/> ⑨ストーマ装具をビニール袋等に片付ける。または汚物入れに捨てる。 <input type="checkbox"/> ⑩大便器の洗浄をする(流すボタンを押す) <input type="checkbox"/> ⑪小用(人工肛門の人の場合)を済ませる。 <input type="checkbox"/> ⑫荷物を持ち、ドアを開けて出る	<input type="checkbox"/> ①ドアを開けて荷物を置く <input type="checkbox"/> ②ストーマ装具やケア用品を取りやすい位置に置く <input type="checkbox"/> ③衣類を脱ぎ、便座に座る <input type="checkbox"/> ④座ったまま、ストーマ装具内の汚物を大便器内に捨てる <input type="checkbox"/> ⑤ストーマ装具先端をトイレットペーパー等で拭く <input type="checkbox"/> ⑥小用(人工肛門の人の場合)を済ませる。 <input type="checkbox"/> ⑦便座から立ちあがり、衣類を着る <input type="checkbox"/> ⑧大便器の洗浄をする(流すボタンを押す) <input type="checkbox"/> ⑨荷物を持ち、ドアを開けて出る
コメント欄	※①～⑬の順番が異なる場合または記載のない行為がある場合	※①～⑬の順番が異なる場合または記載のない行為がある場合	※①～⑬の順番が異なる場合または記載のない行為がある場合

日常生活および外出に関するアンケート

4 / 4

該当する番号に○をお付けください。また、[]の記入欄にはコメント等のご記入をお願いいたします。

4 外出先で使用されるトイレの設備、機能についてお尋ねします。

4- 1 外出先で使うトイレの設備についてお尋ねします。

(1) 外出先での排泄処理はどの設備でされていますか?
 和式便器 洋式(腰掛)便器 汚物流し 洗面器 その他 []

(2) 上記の設備は、あなたにとって満足できるものですか?
 満足 やや満足 やや不満 不満 その他 []

(3) 上記で やや不満、 不満 を選ばれた方にお尋ねします。それはなぜですか?
 他に使える設備がないから 設備(汚物流し等)の機能(温水、棚、鏡等)に不満があるから
 他の設備は使ったことがないから その他 []

(4) あなたが外出先で使われるトイレ設備の機能で、絶対に必要なものは何ですか? 全てお選びください。
 和式便器 洋式(腰掛)便器 洗面器 手洗器 汚物流し
 水石鹸 棚(小物用) フック 鏡 ペーパー
 着替え台 荷物置き台 汚物入れ 温水設備 シャワー設備
 温水洗浄便座 その他 []

(5) 上の質問(4)で選ばれたものを除き、あれば便利なものは何ですか? 全てお選びください。
 和式便器 洋式(腰掛)便器 洗面器 手洗器 汚物流し
 水石鹸 棚(小物用) フック 鏡 ペーパー
 着替え台 荷物置き台 汚物入れ 温水設備 シャワー設備
 温水洗浄便座 その他 []

4- 2 汚物流しのシャワーについてお尋ねします。

(1) 汚物流しにシャワーは必要ですか?
 絶対に必要 あれば便利 必要でない その他 []

(2) 上の質問(1)で と答えた方にお尋ねします。シャワーは何をするために必要ですか?
 お腹を洗う ストーマ装具やケア用品を洗う 排泄後に流し周辺を掃除したい
 その他 []

4- 3 汚物流しの高さについてお尋ねします。

(1) 汚物流しは、高さ調整できるものが必要ですか?
 絶対に必要 できれば必要(あれば使う) 必要ない

(2) あなたにとって一番良い汚物流しの高さは床から何センチですか?
 測るのが難しい場合、おへそから何センチ下(あるいは上)かでも結構です。
 高さ約 [] cm / おへそから約 [] cm 下の位置 / 上の位置

4- 4 外出時のトイレで使う温水についてお尋ねします。

(1) 外出時のトイレでの処理で、温水は必要ですか?
 絶対に必要 できれば必要(あれば使う) 必要ない

(2) 上の質問(1)で または を選ばれた方にお尋ねします。お湯の量ほどの程度必要ですか?
 ペットボトル大(2L)1本程度 ペットボトル大(2L)1.5本程度
 ペットボトル大(2L)2本程度 ペットボトル大(2L)3本以上
 出しっぱなし その他 []

(3) 上の質問(1)で または を選ばれた方にお尋ねします。お湯の必要な理由を具体的に教えてください
 []

4- 5 外出先のトイレでストーマ装具を交換した場合、使用済みのストーマ装具の処理はどうされていますか?
 トイレ内ゴミ箱に捨てる 自宅に持ち帰る その他 []

4- 6 外出先のトイレで、下図のような汚物流しを使用した経験のある人にお尋ねします。

(1) 以下のような汚物流しの機能で、日頃からお困りの項目があれば✓して具体的にコメントをお願いします

- 汚物流し (コメント例: 排泄物を落とすと味ね返りがある)
- 混合水栓 (コメント例: 操作がよくわからない)
- 洗濯ボタン (コメント例: どこに付いているかわからない)
- 棚 (コメント例: 棚にケア用品等が置けない、スペースが狭い)
- 石鹸 (コメント例: いたづらで何がはいているかわからない)
- 照明 (コメント例: 暗いでお腹が見えづらい)
- 鏡 (コメント例: ストーマ装具交換の時にお腹が見えない)
- 着替え台 (コメント例: 汚物流しの下に置いて欲しい)
- その他 (コメント例: ストーマ装具交換の時にはずした装具の置き場が)
- 上記以外に必要な機能 [] について

※コメント

2) ヒヤリング調査

①調査期間：2015年9月～2018年8月

②調査対象：ストーマ種別、性別、年齢が様々に異なるオストメイト23人

③調査記録一覧表

ヒヤリング調査へのご協力のお願い (同意書)

オストメイトの方が、日頃の外出先の公共トイレで使用されているオストメイト用トイレ設備について、皆様のお困り事やご要望を詳細に把握し、実情に即した解決策を探るため、ヒヤリング調査を実施させていただいております。
調査は無記名のシートに記録させていただきます。
調査へのご協力は任意であり、ご協力いただけない場合に不利益が生じることはありません。
調査へのご協力を何卒よろしくお願いいたします。

【個人情報の保護】

- ・個人情報保護のため、ヒヤリングした際の記録には氏名や住所等の記載は一切行いません。
- ・調査内容は、オストメイト用トイレの検討や研究目的以外には一切使用いたしません。
- ・調査へのご協力に関するご同意は、同意書提出後であっても、いつでも撤回できます。

【具体的な調査内容】

以下の項目に関するヒヤリング（1時間程度）

- ・基本情報（性別・年齢・居住地(都道府県名のみ)等)について
- ・外出先での排泄（外出先での排泄頻度・ストーマ装具の種類等)について
- ・日常生活（外出頻度・外出先で利用する施設の種類・使用される公共トイレ等)について
- ・外出先で使用されるオストメイト用設備の機能（汚物流し・温水・シャワー等)について

【調査結果の公表】

- ・調査内容は、日本オストミー協会会誌への掲載、学会報告、論文、報告書のデータとして使用させていただきます。

【調査実施主体】

- ・東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科教授高橋儀平
- ・東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科人間環境デザイン専攻博士後期課程熊沢宏夫

本調査に関する説明事項を理解し、調査・研究への参加に同意します。

201 年 月 日

ご芳名 _____

ヒヤリング調査へのご協力のお願（同意書）

オストメイトの方が、日頃の外出先の公共トイレで使用されているオストメイト用トイレ設備について、皆様のお困り事やご要望を詳細に把握し、実情に即した解決策を探るため、ヒヤリング調査を実施させていただいております。調査は無記名のシートに記録させていただきます。調査へのご協力は任意であり、ご協力いただけない場合に不利益が生じることはありません。調査へのご協力を何卒よろしくお願いいたします。

【個人情報の保護】

- ・個人情報保護のため、ヒヤリングした際の記録には氏名や住所等の記載は一切行いません。
- ・調査内容は、オストメイト用トイレの検討や研究目的以外には一切使用いたしません。
- ・調査へのご協力に関するご同意は、同意書提出後であっても、いつでも撤回できます。

【具体的な調査内容】

以下の項目に関するヒヤリング（1時間程度）

- ・基本情報（性別・年齢・居住地(都道府県名のみ)等）について
- ・外出先での排泄（外出先での排泄頻度・ストーマ装具の種類等）について
- ・日常生活（外出頻度・外出先で利用する施設の種類・使用される公共トイレ等）について
- ・外出先で使用されるオストメイト用設備の機能（汚物流し・温水・シャワー等）について

【調査結果の公表】

- ・調査内容は、日本オストミー協会会誌への掲載、学会報告、論文、報告書のデータとして使用させていただきます。

【調査実施主体】

- ・東洋大学 ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科 教授 高橋儀平
- ・東洋大学 大学院 福祉社会デザイン研究科 人間環境デザイン専攻 博士後期課程 熊澤宏夫

< 本調査の同意書に関するお問い合わせ先 >

201 年 月 日

東洋大学 ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科 高橋儀平研究室

〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1

担当：熊澤宏夫（大学院 福祉社会デザイン研究科 人間環境デザイン専攻 博士後期課程）
TEL 090 4674 2491

201 年 月 日

【 ヒヤリング手順 】

1. ヒヤリング主旨説明とご同意のお願い（同意書）

2. アンケート調査用紙によるヒヤリング
 - 1) 日常生活について
 - 2) 外出先での排泄について
 - 3) トイレ内での行為について
 - 4) 設備機能について

3. ご同意いただければ、
 - 1) ストーマ造設高さの確認

 - 2) お手持ちのストーマケア用品について

4. その他、オストメイト用トイレに関する ご意見、ご要望について



日常生活および外出に関するアンケート

1 / 4

該当する番号に○をお付けください。また、[]の記入欄にはコメント等のご記入をお願いいたします。

1	あなたご自身の日常生活等についてお尋ねします。
1- 1	どこにお住まいですか?都道府県でお答えください。 [] 都 道 府 県
1- 2	性別についてお答え下さい。 ①男性 ②女性
1- 3	年齢についてお答え下さい。 [] 歳
1- 4	トイレを使う時、車いすで入りますか(車いす使用者で自立の方)? ①車いすを使う ②車いすは使わない
1- 5	身長を教えてください。 [] cm
1- 6	できれば、立位の時の、床から人工肛門または人工膀胱までの高さを教えてください。 [] cm
1- 7	ご家族構成を教えてください。 ①一人住まい ②夫婦二人 ③夫婦+子供1人 ④夫婦+子供2人以上 ⑤その他
1- 8	ストーマの種類はどのタイプですか? ①コロストミー ②イレオストミー ③ウロストミー ④人工肛門+人工膀胱 (Wストーマ) (人工肛門(結腸)) (人工肛門(回腸)) (人工膀胱)
1- 9	ストーマ造設経過年数を教えてください。 約 [] 年
1-10	ストーマ装具についてお尋ねします (1)ご使用のストーマ装具は次のいずれですか? ①1ピース ②2ピース (2)2ピースをご使用の方にお尋ねします。どのくらいの頻度で面板の交換をされていますか? ①1日/回 ②2~4日/回 ③1週間/回 ④1週間以上/回
1-11	ご自宅での排泄ケアについて指導は受けましたか? ①受けた ②受けていない
1-12	外出先での排泄ケアについて指導は受けましたか? ①受けた ②受けていない
1-13	術後のケアはどなたから指導を受けましたか? ①医師 ②ストーマケア専門看護師 ③一般看護師 ④ストーマ装具メーカー ⑤協会の先輩 ⑥その他
1-14	外出全般についてお尋ねします。 (1)ストーマ造設後、安心して外出できるようになるまでどのくらい掛かりましたか? ①最初から不安は無かった ②1~2ヶ月以内 ③半年以内 ④1年以内 ⑤2年以内 ⑥2年以上 ⑦今も外出しづらい ⑧その他 [] (2)あなたの外出の頻度はどのくらいですか? ①ほぼ毎日 ②2~4日/週 ③1回/週 ④2~3回/月 ⑤1回/月 ⑥ほとんど外出しなし (3)あなたの外出の主な目的は何ですか? 該当するもの全てをお選びください。 ①仕事 ②買い物 ③会合 ④趣味 ⑤旅行 ⑥通院(病院) ⑦その他 []
1-15	外出時にお使いになるケア用品についてお尋ねします。 (1)外出時に持ち運ぶケア用品等がありますか? 以下からよく使うものを全てお選びください。 ※) オストメイト用設備として必要な欄の最小必要スペースが知りたいので。 ①新しいストーマ装具 ②刺激剤 ③消臭剤 ④石鹸 ⑤ペースト ⑥ハサミ ⑦手鏡 ⑧ビニール袋(使ったストーマ装具を持ち帰る等のため) ⑨ガーゼ ⑩ティッシュペーパー ⑪その他 [] (2)外出時に持ち運ぶケア用品は何に入れてお持ちですか? 以下からよく使うものを全てお選びください。 ①キャリーバック ②リュック ③手さげかばん ④ショルダーバック ⑤トートバック ⑥ハンドバック ⑦ポーチ ⑧その他 []
1-16	ご自宅での排泄環境(設備)についてお尋ねします。 (1)ご自分がお使いになる便器は、和式ですか?洋式ですか? ①和式を使っている ②洋式を使っている ③その他 [] (2)洗腸(大腸の中のを強制的に流し出す行為)はされますか ①する ②しない

日常生活および外出に関するアンケート

2 / 4

該当する番号に○をお付けください。また、[]の記入欄にはコメント等のご記入をお願いいたします。

2 外出先での排泄についてお尋ねします。

2- 1 外出先で以下の処理をされる場合の処理の頻度を教えてください

(1) ストーマ装具から排泄物を出し、排泄口をペーパーなどで拭く等の排泄処理のみの頻度
 ① 0回/日(外出先ではほとんど排泄しない) ② 1~2回/日 ③ 3~4回/日
 ④ 5回以上/日 ⑤ 排泄時は毎回ストーマ装具も交換する ⑥ その他[]

(2) 排泄処理の際、ストーマ装具の交換をする頻度
 ① 0回/日(外出先ではほとんど排泄も交換もしない) ② 2~3回/日 ③ 1回/日 ④ 2~3日に1回
 ⑤ 4~6日に1回 ⑥ 1週間に1回 ⑦ 1週間以上に1回 ⑧ その他[]

(3) 排泄処理の際、ストーマ装具交換と腹部のケア(お腹を石鹸等で洗う/拭く)をする頻度
 ① (外出先で)腹部のケアはしない(自宅にいる時のみ) ② (ストーマ装具交換の際)毎回腹部のケアをする
 ③ 2~3回(ストーマ装具交換)に1回 ④ 4回(ストーマ装具交換)以上に1回 ⑤ その他[]

(4) 便もれ等のトラブルの処理をする頻度(過去1年を振り返って)
 ① ほぼ毎日 ② 2~6回/週 ③ 1回/週程度 ④ 2~3回/月 ⑤ 1回/月程度
 ⑥ 1回/半年程度 ⑦ トラブルはなかった ⑧ その他[]

2- 2 外出先で以下の処理をされる場合の処理の時間をお選びください(およそで結構です)

(1) ストーマ装具から排泄物を出し、排泄口をペーパーなどで拭く等の排泄処理のみの時間
 ① 5分未満 ② 5~10分 ③ 10~20分 ④ 20~30分 ⑤ 30分以上 ⑥ 1時間以上

(2) 排泄処理の際、ストーマ装具の交換をする時間
 ① 5分未満 ② 5~10分 ③ 10~20分 ④ 20~30分 ⑤ 30分以上 ⑥ 1時間以上

(3) 排泄処理の際、ストーマ装具交換と腹部のケア(お腹を石鹸等で洗う/拭く)をする時間
 ① 5分未満 ② 5~10分 ③ 10~20分 ④ 20~30分 ⑤ 30分以上 ⑥ 1時間以上

(4) 便もれ等のトラブルの処理をする時
 ① 5分未満 ② 5~10分 ③ 10~20分 ④ 20~30分 ⑤ 30分以上 ⑥ 1時間以上

2- 3 外出先で便もれ等のトラブルが発生した経験のある方にお尋ねします。

(1) 外出先でトラブルが発生した場合、具体的にどのような処理をされましたか?
 ① そのまま自宅に帰って処理をした。
 ② 手持ちのケア用品等で応急処理をした。
 ③ 排泄処理とストーマ装具交換、腹部のケアを行った。
 ④ 衣類も汚れたので、③を行った後に衣類も洗った。
 ⑤ その他[]

(2) 外出先でトラブルが発生した場合、どこで処理されましたか?
 ① 多機能トイレ ② 一般トイレの専用ブース(汚物流しのあるトイレ) ③ 一般トイレ
 ④ ご自宅 ⑤ その他[]

2- 4 あなたが外出先で日頃使用されているトイレについてお尋ねします。

(1) あなたが外出先で日頃使用されているトイレは、どこの施設にありますか?
 あなたの日常での利用頻度を考えて、下から3つまでお選びください。

① 病院	② 役所(官公庁舎)	③ 郵便局	④ 銀行
⑤ 福祉施設	⑥ 学校	⑦ オフィス	⑧ 公民館
⑨ 公園	⑩ 旅客施設(駅)	⑪ 飲食店	⑫ 共同住宅共用部
⑬ コンビニ	⑭ スーパー	⑮ 百貨店	⑯ ホテル・旅館
⑰ 劇場・映画館	⑱ 図書館・美術館	⑲ 展示場	⑳ 競技場
㉑ 車両(電車、バス等)	㉒ 船舶(フェリー、水上バス等)		

(2) あなたが外出先で日頃使用されているトイレ等、オストメイト用設備が必要な施設はどこですか?
 あなたにとっての必要度を考えて、下から3つまでお選びください。

① 病院	② 役所(官公庁舎)	③ 郵便局	④ 銀行
⑤ 福祉施設	⑥ 学校	⑦ オフィス	⑧ 公民館
⑨ 公園	⑩ 旅客施設(駅)	⑪ 飲食店	⑫ 共同住宅共用部
⑬ コンビニ	⑭ スーパー	⑮ 百貨店	⑯ ホテル・旅館
⑰ 劇場・映画館	⑱ 図書館・美術館	⑲ 展示場	⑳ 競技場
㉑ 車両(電車、バス等)	㉒ 船舶(フェリー、水上バス等)		

(3) オストメイトマーク(右図)はご存知ですか?
 ① 知っている ② 見たことはあるが、意味は知らない ③ 知らない

オストメイトマーク 

(4) トイレを使ってクレームを受けた事がありますか?
 ① ある ② ない

(5) トイレを使って気が引けることがありますか?
 ① ある ② ない

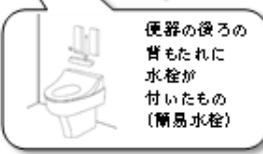
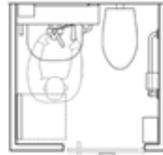
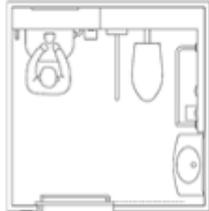
該当する番号に○をお付けください。また、[]の記入欄にはコメント等のご記入をお願いいたします。

③ 外出先のトイレでの行為についてお尋ねします

3- 1 あなたが外出先で日頃使用されているトイレについてお尋ねします。

(1) あなたが日頃、外出先で一番よく使うトイレは下のどのタイプですか？

- ①多機能トイレ ②一般トイレの専用ブース ③一般トイレ ④一般トイレ ⑤その他



(2) 何故そのトイレを利用されるのでしょうか？

下の理由から、該当するものを全てお選びください。

- ①普通のトイレ設備で事足りるから ②簡易水栓があるから
 ③汚物流しがあるから ④広い空間があるから
 ⑤オストメイト用設備機能が充実しているから ⑥他に使えるトイレがないから
 ⑦汚物流しは使い方がわからないか！ ⑧その他[]

3- 2 あなたが日頃、外出先で一番よく使うトイレ(下図のA,B,Cいずれか)での行為についてお尋ねします。

あなたが日頃、外出先で一番よく使うトイレでの「トイレ内行為」に✓を入れてください

また、記載のない行為があれば「コメント欄」にご記入をお願いします。

	A: 汚物流しと大便器のある個室	B: 簡易水栓付き大便器の個室	C: 一般トイレ(大便器個室)
個室の種類			
トイレ内行為 ✓欄	<input type="checkbox"/> ①ドアを開けて荷物を置く <input type="checkbox"/> ②ストーマ装具やケア用品を取りやすい位置に置く <input type="checkbox"/> ③汚物流しの前に立ち衣類を脱ぐ <input type="checkbox"/> ④ストーマ装具内の汚物を捨てる <input type="checkbox"/> ⑤ストーマ装具を外し、置きやすい場所に置く <input type="checkbox"/> ⑥お腹をシャワーで洗う。 <input type="checkbox"/> ⑦石鹸やお湯で濡らしたガーゼ等でお腹を拭く <input type="checkbox"/> ⑧新しいストーマ装具を装着する <input type="checkbox"/> ⑨衣類を着て、外したストーマ装具を洗う <input type="checkbox"/> ⑩ストーマ装具をビニール袋等に片付ける。または汚物入れに捨てる。 <input type="checkbox"/> ⑪汚物流しの洗浄をする(流すボタンを押す) <input type="checkbox"/> ⑫小用(人工肛門の人の場合)を済ませる。 <input type="checkbox"/> ⑬荷物を持ち、ドアを開けて出る	<input type="checkbox"/> ①ドアを開けて荷物を置く <input type="checkbox"/> ②ストーマ装具やケア用品を取りやすい位置に置く <input type="checkbox"/> ③大便器の前に立ち衣類を脱ぐ <input type="checkbox"/> ④ストーマ装具内の汚物を捨てる <input type="checkbox"/> ⑤ストーマ装具を外し、置きやすい場所に置く <input type="checkbox"/> ⑥お腹を(ガーゼ等で)拭く <input type="checkbox"/> ⑦新しいストーマ装具を装着する <input type="checkbox"/> ⑧衣類を着て、外したストーマ装具を洗う <input type="checkbox"/> ⑨ストーマ装具をビニール袋等に片付ける。または汚物入れに捨てる。 <input type="checkbox"/> ⑩大便器の洗浄をする(流すボタンを押す) <input type="checkbox"/> ⑪小用(人工肛門の人の場合)を済ませる。 <input type="checkbox"/> ⑫荷物を持ち、ドアを開けて出る	<input type="checkbox"/> ①ドアを開けて荷物を置く <input type="checkbox"/> ②ストーマ装具やケア用品を取りやすい位置に置く <input type="checkbox"/> ③衣類を脱ぎ、便座に座る <input type="checkbox"/> ④座ったまま、ストーマ装具内の汚物を大便器内に捨てる <input type="checkbox"/> ⑤ストーマ装具先端をトイレットペーパー等で拭く <input type="checkbox"/> ⑥小用(人工肛門の人の場合)を済ませる。 <input type="checkbox"/> ⑦便座から立ちあがり、衣類を着る <input type="checkbox"/> ⑧大便器の洗浄をする(流すボタンを押す) <input type="checkbox"/> ⑨荷物を持ち、ドアを開けて出る
コメント欄	※①～⑬の順番が異なる場合または記載のない行為がある場合	※①～⑬の順番が異なる場合または記載のない行為がある場合	※①～⑬の順番が異なる場合または記載のない行為がある場合

日常生活および外出に関するアンケート

4 / 4

該当する番号に○をお付けください。また、[]の記入欄にはコメント等のご記入をお願いいたします。

4 外出先で使用されるトイレの設備、機能についてお尋ねします。

4- 1 外出先で使うトイレの設備についてお尋ねします。

(1) 外出先での排泄処理はどの設備でされていますか？
 和式便器 洋式(腰掛)便器 汚物流し 洗面器 その他 []

(2) 上記の設備は、あなたにとって満足できるものですか？
 満足 やや満足 やや不満 不満 その他 []

(3) 上記で やや不満、 不満 を選ばれた方にお尋ねします。それはなぜですか？
 他に使える設備がないから 設備(汚物流し等)の機能(温水、棚、鏡等)に不満があるから
 他の設備は使ったことがないから その他 []

(4) あなたが外出先で使われるトイレ設備の機能で、絶対に必要なものは何ですか？ 全てお選びください。
 和式便器 洋式(腰掛)便器 洗面器 手洗器 汚物流し
 水石鹸 棚(小物用) フック 鏡 ペーパー
 着替え台 荷物置き台 汚物入れ 温水設備 シャワー設備
 温水洗浄便座 その他 []

(5) 上の質問(4)で選ばれたものを除き、あれば便利なものは何ですか？ 全てお選びください。
 和式便器 洋式(腰掛)便器 洗面器 手洗器 汚物流し
 水石鹸 棚(小物用) フック 鏡 ペーパー
 着替え台 荷物置き台 汚物入れ 温水設備 シャワー設備
 温水洗浄便座 その他 []

4- 2 汚物流しのシャワーについてお尋ねします。

(1) 汚物流しにシャワーは必要ですか？
 絶対に必要 あれば便利 必要でない その他 []

(2) 上の質問(1)で と答えた方にお尋ねします。シャワーは何をするために必要ですか？
 お腹を洗う ストーマ装具やケア用品を洗う 排泄後に流し周辺を掃除したい
 その他 []

4- 3 汚物流しの高さについてお尋ねします。

(1) 汚物流しは、高さ調整できるものが必要ですか？
 絶対に必要 できれば必要(あれば使う) 必要ない

(2) あなたにとって一番良い汚物流しの高さは床から何センチですか？
 測るのが難しい場合、おへそから何センチ下(あるいは上)かでも結構です。
 高さ約 [] cm / おへそから約 [] cm 下の位置 / 上の位置

4- 4 外出時のトイレで使う温水についてお尋ねします。

(1) 外出時のトイレでの処理で、温水は必要ですか？
 絶対に必要 できれば必要(あれば使う) 必要ない

(2) 上の質問(1)で または を選ばれた方にお尋ねします。お湯の量はどの程度必要ですか？
 ペットボトル大(2L)1本程度 ペットボトル大(2L)1.5本程度
 ペットボトル大(2L)2本程度 ペットボトル大(2L)3本以上
 出しゃばなし その他 []

(3) 上の質問(1)で または を選ばれた方にお尋ねします。お湯の必要な理由を具体的に教えてください
 []

4- 5 外出先のトイレでストーマ装具を交換した場合、使用済みのストーマ装具の処理はどうされていますか？
 トイレ内ゴミ箱に捨てる 自宅に持ち帰る その他 []

4- 6 外出先のトイレで、下図のような汚物流しを使用した経験のある人にお尋ねします。

(1) 以下のような汚物流しの機能で、日頃からお困りの項目があれば✓して具体的にコメントをお願いします

- 汚物流し (コメント例: 排泄物を落とすと味ね返りがある)
- 混合水栓 (コメント例: 操作がよくわからない)
- 洗浄ボタン (コメント例: どこに付いているかわからない)
- 棚 (コメント例: 棚にケア用品等が置けない、スペースが狭い)
- 石鹸 (コメント例: いたづらで何がはいているかわからない)
- 照明 (コメント例: 暗いでお腹が見えづらい)
- 鏡 (コメント例: ストーマ装具交換の時にお腹が見えない)
- 着替え台 (コメント例: 汚物流しの下に置いて欲しい)
- その他 (コメント例: ストーマ装具交換の時にはずした装具の置き場が)
- 上記以外に必要な機能 [] について

※ コメント

調査記録一覧表 その1

No	N14	N10	N11	N22
取材日	20161028	20151010-2	20151011-1	20180121-4
使用便房	一般便房	一般便房	多機能便房	一般便房
ストーマ種別	コロストミー	コロストミー	コロストミー	コロストミー
性別	女性	女性	女性	女性
年代	30～50代	30～50代	60代	60代
身長	168	154	155	152
造設高さ	102	88	91	86
造設年数	11	4.5	16	28
安心外出	最初から	1～2ヶ月	最初から不安なし	
外出頻度	毎日			2～4回/週
外出目的	仕事,他	仕事,買物,会合,趣味,旅行,通院	買物,会合,趣味,旅行,通院	買物,会合,趣味
排泄頻度		3～4回/日	3～4回/日	1～2回/日
排泄時間	5分以下	5分以下	10分以下	5分未満
トラブル経験	なし	1回/半年	1回/半年	
日常使用施設	旅客施設,飲食店,スーパー	オフィス,旅客施設,スーパー	役所,旅客施設,スーパー	旅客施設,百貨店
必要施設	病院,旅客施設,ホテル	オフィス,旅客施設,スーパー	役所,旅客施設,スーパー	旅客施設,百貨店
必要設備	洋式便器,手洗器,ペーパー,汚物入れ	洋式便器,フック,ペーパー,荷物置き台	洋式便器,手洗器,水石鹸,棚,フック,ペーパー,荷物置き台,汚物入れ	
コメント	<p>(N14)</p> <p>●大規模施設のテナントで働いている(店員)。普段はバックヤード(従業員用)の腰掛便器を使う。トラブル時は店の近くの多機能便房を使うことを、施設の管理会社に了承してもらっている。店の制服は着替え、一般のお客を装って使う。商業施設は、平日は高齢者、休日は子ども連れの人が多く、気が引けるので多機能便房は使えない。(N14)</p> <p>●オストメイト用設備が男女別の一般便所の中にあると、女子便所は並んでいる人が多く、緊急の時、その中に入ることは難しい。(N14)</p>	<p>(N10)</p> <p>●たまに多機能トイレも使う。広いと臭いがこもらない。(N10)</p> <p>●ストーマ装具の排泄物を捨てて潤滑剤を入れる。大便器洗浄は2回行う。消臭剤、スプレー式脱臭剤、(汚れた装具が見えないように)紙袋も常時持ち運ぶ。(N10)</p>	<p>(N11)</p> <p>●棚が狭い。汚物流しの水流が弱く流れない。(N11)</p> <p>●粘着性のある便なので、トイレトペーパーでパウチの汚れをそぎ落とす。(N11)</p> <p>●トイレで時間がかかることが気になっている。便房から出た時に白い目でみられたことがある。(N11)</p> <p>●一般便房は狭い。体調不良の時、温泉でトラブル(装具のズレ)があった。(N11)</p>	<p>(N22)</p> <p>●多機能便房はあまり使わない。(N22)</p> <p>●立って排泄する。座ると前の穴が狭いので出しにくい。(排泄の姿勢は)中腰になる。(排泄物を)便器に捨てると跳ね返るので、ボール水面にペーパーを浮かべてする。(N22)</p> <p>●自宅でも同じ。装具交換は風呂あがりに洗面所で立ってする。(N22)</p> <p>●ケア用品はいざという時のために持ち歩く。(N22)</p>

調査記録一覧表 その2

No	N23	N05	N09	N16
取材日	20180121-5	20151003-2	20151010-1	20170502
使用便房	多機能トイレ	一般便房	一般便房(あれば多機能)	多機能便房
ストーマ種別	コロストミー	コロストミー	コロストミー	コロストミー
性別	女性	男性	男性	男性
年代	60代	30~50代	60代	60代
身長	155	170	175	178
造設高さ	89	96	99	96
造設年数	11	10	14	17
安心外出	最初から	最初から不安なし	1~2ヶ月	手術後2ヶ月
外出頻度	毎日			毎日
外出目的	買物,趣味	仕事,買物,会合,旅行,通院	会合,趣味(水泳)	仕事,買物他
排泄頻度	1~2回/日	3~4回/日	3~4回/日	
排泄時間	5~10分	5分以下	10分以下	10分以下
トラブル経験	半年に1回経験	半年に1回(装具がズレていた)	1回/半年	1回/半年
日常使用施設	旅客施設,飲食店,百貨店(大型総合スーパー)	オフィス,コンビニ,ホテル	飲食店,劇場・映画館,競技場(スポーツ施設)	病院,旅客施設,車両
必要施設	旅客施設,飲食店,百貨店(大型総合スーパー)	オフィス,コンビニ,ホテル	飲食店,コンビニ,競技場(スポーツ施設)	コンビニ,ホテル,劇場・映画館
必要設備		洋式便器,棚,フック	洋式便器,フック,ペーパー	洋式便器,汚物流し,棚,フック,汚物入れ,温水設備
コメント	<p>(N23)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●軟便にする薬を飲んでいるので、便が飛び散りやすい。(N23) ●装具が破れたので、サービスエリアで止まり、多機能トイレで交換し、大型ベッドで衣類を替えた。(N23) ●コンサートで多機能トイレから出る時、入る時に「(あなたが使っている)いいんですか?」と言われる。(N23) ●多機能トイレでも一般便房でも大便器に座って処理する。自宅でも前広便座に座って処理している。(N23) 	<p>(N05)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●排泄の都度、装具交換する。。新装具はいつも5~6枚持参で外出する。腹部はウェットティッシュで拭いている(N05) ●オストメイトトイレは気が引ける。(N05) ●洋式便器を立ったまま使っている。(N05) 	<p>(N09)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●水泳、ダイビングで1回、外れた。サージカルテープで貼る。トラブル時にはお湯が必要。(N09) ●あれば多機能トイレを使うが、多機能トイレで気が引けたことがある。(N09) ●一般便房では衣類は脱がず、立ったまま処理する。一般便房には手洗器がなく、水が使えないのが不満。(N09) 	<p>(N16)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●主に多機能トイレを使っているが、なければ一般便房も使う。一般便房で便座に座ると、装具の先端が便器のボールに届かず、処理できないので立ってする。(N16) ●自宅では腰掛便器の前にイスを置いて座って処理する。立ってするより楽。先端が自在なノズルからお湯が出るようにしたので、装具の中を洗うのが便利になった。(N16)

調査記録一覧表 その3

No	N02	N07	N12	N06
取材日	20150926	20151004-1	20151011-2	20151003-3
使用便房	多機能便房	一般便房	多機能便房	一般便房
ストーマ種別	コロストミー	コロストミー	コロストミー	イレオストミー
性別	男性	男性	男性	女性
年代	70～80代	70～80代	70～80代	30～50代
身長	163	165	173	161
造設高さ	90	90	97	92
造設年数	34	0.75	36	2
安心外出	1～2ヶ月後	1～2ヶ月	2年以内	1～2ヶ月
外出頻度				
外出目的	仕事	会合,通院	買物,会合,趣味,旅行,通院	仕事,趣味,旅行
排泄頻度	5回以上/日	1～2回/日	1～2回/日	5回以上/日
排泄時間	20分以下	30分以下	10分以下	10分以下
トラブル経験	最近はない(最初は1回/週)	なし	なし	半年に1回
日常使用施設	病院,旅客施設,コンビニ	病院,旅客施設,飲食店	役所,福祉施設,旅客施設	オフィス,百貨店,図書館・美術館
必要施設	病院,旅客施設,公園	病院,公園,旅客施設	役所,福祉施設,旅客施設	公民館,コンビニ,劇場・映画館
必要設備	洋式便器,手洗器,汚物流し,水石鹸,棚,フック,鏡,ペーパー,着替え台,荷物置き台,汚物入れ	洋式便器,手洗器,汚物流し,水石鹸,棚,フック,ペーパー,荷物置き台,汚物入れ,温水設備,温水洗浄便座	洋式便器,手洗器,汚物流し,棚,ペーパー,荷物置き台,汚物入れ	洋式便器,汚物流し,棚,フック,ペーパー,荷物置き台
コメント	(N02) ●汚物流しがあるので多機能便房を使うが、使う時にまわりが気になり、障害者手帳を見せたこともある。(N02) ●給付金は8600円/月。2ヶ月毎に販売店に行き、装具やケア用品を購入している。(N02) ●日常使う汚物流しはガイドラインに絵が出ているものと同じ設備(古いタイプ)。(N02)	(N07) ●汚物流しの使い方は、通院先の病院に説明書きがあった。(N07) ●他に使えるトイレがないから一般トイレを使っている。大便器洗浄のあとに消臭剤を垂らしている(臭いが気になる)。(N07) ●当日は同伴(妻)で(N07)	(N12) ●汚物流し設備の機能はそれほど気にはならないが。照明がくらいのでお腹が見えづらい。(N12) ●多機能便房を使う理由は汚物流しがあるから。汚物流しは排泄物を楽に捨てられるから。(N12)	(N06) ●汚物流しは男女共用の(多機能)トイレではなく、男女別の一般のトイレに置いて欲しい。ペーパーホルダーに手が届かなかったり片手で切れないことがある。(N06) ●洋式便器のボール面にペーパーを敷き、中腰になって、跳ね返りがないようにして排泄している。ケア用品は床に新聞紙を敷いて置いている(新聞紙を常時持参)。(N06)

調査記録一覧表 その4

No	N08	N13	N15	N01
取材日	20151004-2	20161023	20161206	20150921
使用便房	一般便房	一般便房	一般便房	多機能便房
ストーマ種別	イレオストミー	イレオストミー	イレオストミー	イレオストミー
性別	女性	女性	女性	女性
年代	30～50代	30～50代	30～50代	60代
身長	157	160	153	154
造設高さ	90	89	88	80
造設年数	1.16	3	2	40
安心外出	半年以内	手術後半年	手術後2ヶ月	2年以内
外出頻度		毎日	毎日	毎日
外出目的	買物,通院	仕事,趣味	仕事,買物他	会合,買物
排泄頻度	3～4回/日	1回/1.5時間	10回/日	5回以上/日
排泄時間	5分以下	10分以下	10分以下	10分以下
トラブル経験	なし	1回/3～4ヶ月	2～3回/月	2～3回/40年
日常使用施設	病院,公民館,スーパー	オフィス,スポーツ施設,旅客施設	旅客施設,コンビニ,百貨店	役所,旅客施設,スーパー
必要施設	病院,公民館,スーパー	役所,公民館,コンビニ	病院,旅客施設,コンビニ	病院,役所,旅客施設
必要設備	洋式便器	洋式便器,汚物流し,棚,ペーパー,荷物置き台,便器前スペース	洋式便器,水石鹸,棚,ペーパー,荷物置き台,汚物入れ,温水設備	洋式便器,手洗器,汚物流し,水石鹸,棚,フック,ペーパー,着替え台,荷物置き台,汚物入れ,温水設備
コメント	(N08) ●バリウムの事故 手術時、大腸は残ったままにしている(いずれ再手術する)。(N08) ●オストメイトマークのついたトイレがあれば使っている。汚物流しでお腹を洗うには、美容院で髪を洗ってもらうように、蛇口からお湯を出しながら、それを手のひらで受け、お腹にあてるようにすれば、あまりこぼれないで使えた。これからもいろいろ試してみたい(N08)	(N13) ●勤め先(保育所)のトイレ(一般便房)で1日8回以上排泄している。トイレ掃除は自分の係りなので気兼ねなく使える。(N13) ●あれば汚物流しのあるトイレを使うが、なければ一般便房を使う。一般便房は、便器の前に中腰でかがめるスペースが必要。(N13) ●公民館のスポーツジムに通っている。装具を交換する時は、サウナでお腹を温め、写真のケア用品をビニール袋に入れてシャワー室に入っている。休日はウォーキングをする。途中で1km毎にコンビニにトイレがあると助かる。(N13)	(N15) ●ストーマ周囲が皮膚病で、常に腹部のケアが必要。多機能便房を3分以上使うと扉が勝手に開いたり、クレームを受けた。(N15) ●オストメイト用設備は座ってできるものと考えて欲しい。一般便房に折りたたみテーブルや棚があると、腰掛便座に座ったまま処理できる。ない場合、床にビニール袋を敷いてケア用品を並べて処理している。(N15) ●暑い夏の日路で汚物が漏れて出てきた。靴にまでついたのが見えたので、近くにあったコンビニのトイレに駆け込んだ。それから知人の家に電話し、屋外の水道で衣類を洗わせてもらい、夫に車で迎えに来てもらって帰った。(N15)	(N01) ●ストーマ装具交換の時にははずした装具の置き場がない。(N01) ●トイレで腹部のケア中に停電があり、日中でも暗くてお腹のまわりが見えずに困った。お腹の様子が暗くて見えないという震災の時の経験から、ライトを持ち歩くようにしている。(N01) ●石鹸は水のいない洗剤(リモイス)を使い、汚れを拭き取る。(N01)

調査記録一覧表 その5

No	N01(2回目)	N03	N04	N18
取材日	20170828	20150927	20151003-1	20171015
使用便房	多機能便房	一般便房	一般便房	一般便房
ストーマ種別	イレオストミー	イレオストミー	Wストーマ	Wストーマ
性別	女性	女性	女性	男性
年代	60代	60代	30～50代	30～50代
身長	154	146	163	175
造設高さ	80	80	95	101
造設年数	40	3	38	9
安心外出		1年以内	最初から不安	最初から
外出頻度				毎日
外出目的		買物,趣味(ゴルフ),通院	買物,通院	仕事,買物,会合,趣味,旅行
排泄頻度		3～4回/日	1回/週の外出時	4回/日
排泄時間		10分以下	5分以下	5分以下
トラブル経験		毎日	なし	1回/年
日常使用施設		病院,飲食店,ホテル	病院,スーパー	オフィス,旅客施設,スーパー
必要施設		病院,飲食店,ホテル	スーパー,ホテル,劇場・映画館	オフィス,旅客施設,スーパー
必要設備		洋式便器,荷物置き台	洋式便器,棚,フック,ペーパー,荷物置き台,汚物入れ	洋式便器,ペーパー,(汚物流し),(荷物置き台),(温水設備)
コメント	(N17) ●オストメイト対応トイレがある施設を探して使っている。いつも行くスーパー(中規模)にはあるが、同じ規模でもないところが多い。毎日外出するオストメイトには、駅やコンビニ、飲食店にオストメイト対応設備があると、安心して外出できる。大都市の駅ではオストメイト対応トイレが増えたが、田舎の小規模な駅にもあると安心して遠出もできる。夜遅くなって帰宅する途中、体調が悪くなり、駅は閉まっていたが、駅員に事情を話してトイレを使わせてもらった。駅やコンビニは夜遅くまで開いていて、安心感がある。(N17)	(N03) ●毎日便もれのトラブルがあるので、趣味のゴルフの時はベルトを装着している。(N03) ●お寺は和式トイレが多くて(排泄に)困る。(N03)	(N04) ●生まれた時からオストメイト。排尿は2時間に1回している。排泄は週1回の外出時にする。(N04) ●排泄後(の腹部のケア)は赤ちゃん用のお尻ふき、ウェットティッシュで拭く。汚物流しの設備は見ることがない。(N04)	(N18) ●尿も便も排泄だけなら5分以内でできる。一般便房では尿は立ったまま、便は座っている。ウロ(尿)のパウチはお腹の左右2ヶ所に離れている。(N18)

調査記録一覧表 その6

No	N20	N21	N19
取材日	20180121-2	20180121-3	20180121-1
使用便房	一般便房	一般便房	一般便房
ストーマ種別	Wストーマ	ウロストミー	ウロストミー
性別	女性	女性	女性
年代	70～80代	60代	70～80代
身長	147	152	153
造設高さ	82(→52)	83	91(→65)
造設年数	2年(W),6年(コロ)	10	15
安心外出	最初から		最初から
外出頻度	2～4日/週	毎日	
外出目的	買物	仕事,買物,会合,旅行,通院	仕事,買物,会合,旅行,通院
排泄頻度	1～2回/日	1回/1時間	1回/1時間(外出先)
排泄時間	5～10分	5分未満	5分未満
トラブル経験	ない	漏れが多く、皮膚がかぶれた	ない(テープで補強することはある)
日常使用施設	病院,コンビニ,スーパー	旅客施設,コンビニ,スーパー	病院,旅客施設,飲食店
必要施設	病院,コンビニ,スーパー	旅客施設,コンビニ,スーパー	病院,旅客施設,飲食店
必要設備		特別な設備は必要でない	
コメント	<p>(N20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ウロのパウチ(排尿)もコロのパウチ(排便)も便器の前に立ってする。ケア用品の置き場所がないのが困る。(N20) ●小さいペットボトルに水を入れて持ち歩き(写真)、コロの装具の中を洗う。(N20) ●便器の前に椅子を置いて座り、棚や手洗いが使える(排尿,排便できる)とラク。(N20) 	<p>(N21)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自宅でも外出先でも大便秘に座って排泄処理する。お風呂でお腹を洗い、ベッドで装具を交換している。(N21) 	<p>(N19)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●便座に座ってするのはやりにくいので立って(排泄)する。(N19)

謝辞

博士論文執筆にあたり、研究の進め方から論文執筆に至るまで忍耐強くご指導いただきました高橋儀平名誉教授に心より感謝申し上げます。

働きながらの研究のため、論文執筆は夜になることが多く、高橋先生には夜中にメールさせていただくことも多々あり、ご心労いただいたことと存じます。時に応じては厳しいお言葉をいただき、また、励ましのお言葉もたくさんいただきました。特に、研究が行き詰まった時の先生のご助言は、非常に的確で、何度も助けていただきました。今後の活動の糧となることばかりでした。本当にありがとうございました。

また、高橋儀平教授退官後、水村容子教授には、東洋大学ライフデザイン学部長に就任されてお忙しいところ、主指導教授を引き継いでくださり、ありがとうございました。審査会資料提出が遅れ、差し替える等、お忙しい時にご迷惑をおかけしましたが、それでも審査会運営でご配慮賜り、審査では的確なご指摘、ご助言をいただき、心から感謝申し上げます。

菅原麻衣子副指導教授、内田祥士副指導教授には審査会にて様々な視点から論文内容についてご指導いただきありがとうございました。

菅原麻衣子教授には特に統計学の視点からのご指摘とご助言、内田祥士教授には建築の歴史の視点で論文の考え方についてのご指摘とご助言が印象に残っています。本当にありがとうございました。

勤め先の会社ではなく、大学院生個人の研究であるにもかかわらず、本研究で行ったアンケート調査では、日本オストミー協会の笹岡元会長、谷口会長、川村副会長、平野事務局長に大変お世話になり、全国規模での調査ができました。ありがとうございました。また、ヒヤリング調査では、何度も面談者をご紹介いただいた須田紗代子さまに心よりお礼申し上げます。

私と同様に働きながら博士後期課程を修了されました、岩浦厚信さん、高橋未樹子さんにも、いつもあたたかく励ましていただきました。たくさんのご助言も頂きました。心からお礼を申し上げます。

こうして博士論文を書き上げることができたのは、これまでお世話になった全ての皆様のおかげです。

ここに改めて、感謝申し上げます。